本庄市埋蔵文化財調査報告書　第８集

東五十子北町中遺跡

タツムテクノロジー株式会社工場建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００８

本庄市教育委員会

序

本庄市の東五十子地区には、かつて「五十子陣」と呼ばれる中世の軍事的拠点が存在していたことはよく知られています。この「五十子陣」は15世紀後半に勃発した関東管領上杉氏と古河公方足利氏との抗争に際し、上杉方が構築した陣で、現在でも「城跡」「赤坂」などの小字名にその名残をとどめています。また、最近の考古学的調査によっても、各所で関連の遺構が検出されるようになり、これまで必ずしも実態の明らかでなかった「五十子陣」の姿が、次第に明らかになりつつあります。

本書に報告する東五十子北町中遺跡の調査によっても、関連する遺構や遺物が検出され、「五十子陣」の構造究明に向けて、またひとつ貴重な成果をあげることができました。さらに、古墳時代の粘土採掘坑がまとまって確認されたことも、本庄市では初めての発見で、特筆されることでしょう。今後は本書が学術研究をはじめ学校教育、生涯学習の場に広く活用されるとともに、これからの埋蔵文化財保護に役立てられることを希望する次第です。

最後になりましたが、当市の文化財保護行政に格別のご理解をいただき、また現地発掘調査から出土資料の整理調査、さらには本書の刊行にいたるまで、多大なご協力を賜ったタツムテクノロジー株式会社には、ここにあらためて深甚の謝意を表する次第です。また、調査に際してご指導、ご協力を頂きました方々、直接作業の労にあたられた皆様に衷心よりの感謝を申し上げます。

平成20年3月

本庄市教育委員会
教育長　茂　木　孝　彦

例　言

1．本書は埼玉県本庄市東五十子字北町中 744 番地に所在する東五十子北町中遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査はタツムテクノロジー株式会社が計画する工場棟及び管理棟建設にともない、事前の記録保存を目的として本庄市教育委員会が実施したものである。

3．発掘調査および整理・報告に要した経費は、タツムテクノロジー株式会社の本庄市への委託金であり、平成 18 年度および平成 19 年度東五十子北町中遺跡発掘調査受託事業として実施した。

4．発掘調査は、本庄市東五十子北町中遺跡のうち、652.6 ㎡を対象として実施した。

5．発掘調査期間は以下のとおりである。

　自　平成 18 年 10 月　3 日

　至　平成 18 年 12 月 15 日

6．発掘調査担当者は、本庄市教育委員会文化財保護課　太田博之・松本　完・的野善行があたり、発掘調査には有限会社毛野考古学研究所宮田忠洋が調査員として専従した。

7．発掘調査に関する発掘基準点測量、遺構等の測量は有限会社協同測地開発に委託して実施した。

8．整理調査期間は以下のとおりである。

　自　平成 18 年 12 月　1 日

　至　平成 19 年 11 月 15 日

9．整理および報告書刊行にかかる業務は、有限会社毛野考古学研究所に委託し、整理および報告書刊行にかかる業務は宮田忠洋が担当した。

10．本書の執筆は、Ⅰを本庄市教育委員会文化財保護課が、Ⅱ～Ⅴのうち遺物観察表を有限会社毛野考古学研究所高橋清文が担当し、その他を宮田忠洋が担当した。また、石器及び石製品の実測を有限会社毛野考古学研究所土井道昭が担当し、Ⅴを宮崎重男氏に執筆をお願いした。

11．本書の編集は、本庄市教育委員会文化財保護課の指導に基づき、宮田忠洋が担当した。

12．本書に掲載した出土遺物、遺構および遺物の実測図ならびに写真、その他本報告に関連する資料は本庄市教育委員会において保管している。

13．発掘調査から整理調査、報告書の刊行に至るまで、以下の方々から貴重な御助言、御指導、御協力を賜りました。ご芳名を記し感謝申し上げます。（順不同・敬称略）

小川卓也　田村　誠　金子彰男　小林朋恵　櫻井和哉　田中　信　長滝歳康　福田貫之

中沢良一　外尾常人　丸山　修　瀧瀬芳之　黒澤一男　宮崎重男　増田　修　山口逸弘

小川　希　鳥羽政之

14. 東五十子北町中遺跡の発掘調査、整理調査及び報告書刊行にかかる本庄市教育委員会の組織は以下のとおりである。

・平成 18 年度　発掘調査、整理調査

教　育　長　　茂木孝彦

＜本庄市教育委員会事務局＞

事 務 局 長　　丸山　茂

文化財保護課

課　　長　　前川由雄

課 長 補 佐　　増田一裕

同　　鈴木徳雄

埋蔵文化財係

係　　長　　鈴木徳雄

太田博之

恋河内昭彦

松沢浩一

松本　完

的野善行

・平成 19 年度　整理調査、報告書刊行

教　育　長　　茂木孝彦

＜本庄市教育委員会事務局＞

事 務 局 長　　丸山　茂

文化財保護課

課　　長　　儘田英夫

課 長 補 佐　　鈴木徳雄

埋蔵文化財係

係　　長　　太田博之

恋河内昭彦

大熊季広

松沢浩一

松本　完

的野善行

凡　例

1．本書所収の遺跡全測図におけるＸ・Ｙ座標値は国土標準座標第Ⅸ系に基づく。各遺構図における方位針は座標北をさす。

2．本調査における遺構名称は下記の記号で示し、本書掲載の本文、挿図、写真中の遺構名称も同一の記号を用いた。

ＳＦ…方形竪穴状遺構　　ＳＤ…溝　　ＳＷ…井戸　　ＳＫ…土坑　　Ｐ…ピット

ＳＣ…粘土採掘坑

3．本書に掲載の遺構図ならびに遺物実測図の縮尺は以下を原則とし、各挿図中にはスケールを付してある。

【遺構図】

遺構全測図…１/500、１/300　ＳＦ…１/60　ＳＤ…１/200　ＳＷ…１/60　ＳＫ…１/60

粘土採掘坑配置図…１/500　　粘土採掘坑…１/40、80

【遺物実測図】

かわらけ・中世陶磁器・板碑…１/４、鉄・銅製品…１/２

土師器・縄紋土器・石器…１/３、土製品…１/２

4．遺構断面図の水準数値は海抜を示す。単位はｍである。

5．遺構図・遺物実測図中のトーンを示す内容は以下のとおりである。

ａ．遺構断面図中の斜線は基本層序Ⅲ～Ⅴ層を、トーンはⅥ～Ⅷ層を示す。

ｂ．かわらけ実測図の黒ベタは黒色を呈するタール状煤の付着範囲を示す。

ｃ．遺構平面図中のトーンは硬化面を示す。

6．本書中に使用したAs・Aとは、1783（天明3）年に降下した浅間山噴出Ａ軽石である。

7．本調査における遺構の土層断面図及び遺物観察表に示した色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局）を使用して観察した。

8．遺構の規模は上端での計測値を原則としている。

9．溝の軸方位については、上端の中心線を軸線として計測した。

10．遺物観察中の単位は、法量はcm、重さはｇである。［　］内の数値は推定値を示す。

11．本書掲載の地形図は、国土交通省国土地理院発行１/25,000「本庄」、位置図は本庄市都市計画図１/2,500「19」に加筆したものを用いた。

目　次

序
例言
凡例
目次

挿図目次
挿表目次
写真図版目次

Ⅰ　調査に至る経過……1
Ⅱ　遺跡の環境……2
　1　地理的環境……2
　2　歴史的環境……2
Ⅲ　調査の方法と経過……5
　1　調査の方法……5
　2　調査の経過……5
Ⅳ　調査の成果……6
　1　遺跡の概要……6
　2　基本層序……6
　3　検出された遺構と遺物……11
　（1）　粘土採掘坑……11
　（2）　方形竪穴状遺構……28
　（3）　溝……30
　（4）　井戸……37
　（5）　土坑……38
　（6）　ピット……57
　4　遺構外出土遺物……58
Ⅴ　SD - 01出土の動物遺存体について……63
Ⅵ　まとめ……64

写真図版
報告書抄録

挿 図 目 次

図１　埼玉県の地形 …… 3
図２　東五十子北町中遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 4
図３　調査地点 …… 5
図４　基本層序 …… 6
図５　調査区全体図 …… 7
図６　１区遺構全体図 …… 8
図７　２区遺構全体図 …… 9
図８　粘土採掘坑配置図 …… 10
図９　SC - 01 …… 11
図 10　SC - 02 …… 13
図 11　SC - 03 …… 15
図 12　SC - 05・06 …… 17
図 13　SC - 04・07・08 …… 19
図 14　SC - 09・13 ～ 15 …… 21
図 15　SC - 10 …… 22
図 16　SC - 11・19 …… 23
図 17　SC - 12・18 …… 24
図 18　SC - 16・17 …… 25
図 19　SC - 20 …… 26
図 20　SC - 12・20 出土遺物 …… 26
図 21　SC - 21 …… 27
図 22　SF - 01 …… 28
図 23　SF - 01 出土遺物 …… 28
図 24　SF - 02 …… 29
図 25　SF - 02 出土遺物 …… 29
図 26　SD - 01 及び馬骨出土測量図 …… 31
図 27　SD - 01 出土遺物 …… 32
図 28　SD - 02・03 …… 33
図 29　SD - 02 出土遺物 …… 33
図 30　SD - 03 出土遺物 …… 34
図 31　SD - 04・05 …… 36
図 32　SD - 04 出土遺物 …… 36
図 33　SW - 01 …… 37
図 34　SW - 01 出土遺物 …… 37
図 35　SK - 01 ～ SK - 08 …… 41
図 36　SK - 09 ～ SK - 16 …… 43
図 37　SK - 17 ～ SK - 22・24 …… 45
図 38　SK - 25 ～ SK - 31 …… 47
図 39　SK - 32 ～ SK - 38 …… 51
図 40　SK - 23・39 ～ SK - 42 …… 53
図 41　SK - 43 ～ SK - 48 …… 55
図 42　SK 出土遺物 …… 56
図 43　ピット出土遺物 …… 58
図 44　遺構外出土遺物 …… 59
図 45　粘土採掘坑の諸形態 …… 65

挿 表 目 次

表１　SC - 01 出土遺物観察表
表２　SF - 01 出土遺物観察表
表３　SF - 02 出土遺物観察表
表４　SD - 01 出土遺物観察表
表５　SD - 02 出土遺物観察表
表６　SD - 03 出土遺物観察表
表７　SD - 04 出土遺物観察表
表８　SW - 01 出土遺物観察表
表９　SK 出土遺物観察表
表 10　ピット出土遺物観察表
表 11　遺構外出土遺物観察表
表 12　SC 計測表
表 13　SF 計測表
表 14　SD 計測表
表 15　SW 計測表
表 16　SK 計測表

表17　ピット計測表

表18　SD－01出土動物遺存体計測表

写真図版目次

附写真　SD－01出土馬骨

写真図版1　東五十子北町中遺跡の位置と周辺の地形

写真図版2　1区全景
1区東側全景

写真図版3　1区北側全景
1区西側全景
1区南側全景

写真図版4　2区全景
2区北側全景

写真図版5　2区南側全景
2区西側全景
2区北東側全景

写真図版6　SC－01
SC－01　土層断面
SC－03

写真図版7　SC－05・06
SC－05　土層断面
SC－10

写真図版8　SC－11
SC－20
SC－20　遺物出土状況

写真図版9　SC－21
SF－01
SF－02

写真図版10　SF－02　遺物出土状況
SD－01
SD－01　馬骨出土状況

写真図版11　SD－02・03・SK－08
SD－02　硬化面
SD－04（左）・SK－22（右）

写真図版12　SD－04・05
SW－01
SK－03

写真図版13　SK－04
SK－07
SK－08

写真図版14　SK－18
SK－19
SK－28（左）・29（右）

写真図版15　SK－41
SK－48
SK－48　獣骨出土状況

写真図版16　SC出土遺物・SF－01・02出土遺物

写真図版17　SD－01・02・03(1)出土遺物

写真図版18　SD－03(2)・04・SW－01出土遺物

写真図版19　SK出土遺物

写真図版20　ピット出土遺物・遺構外出土遺物(1)

写真図版21　遺構外出土遺物(2)・動物遺存体

Ⅰ　調査に至る経過

平成18年2月23日、タツムテクノロジー株式会社取締役社長杉原範之氏から、本庄市東五十子字北町中722番地2ほか14,236㎡の土地に、工場建物等の建設に伴う開発の計画があり、この土地にかかる『埋蔵文化財の取扱いについて』の協議書が本庄市教育委員会あてに提出された。本庄市教育委員会において、埼玉県教育委員会発行の『本庄市遺跡分布地図』をもとに、同地の埋蔵文化財の有無を調査したところ、当該計画予定地には、周知の埋蔵文化財包蔵地の東五十子北町中遺跡（53-036）、五十子陣跡（53-151）が所在することが判明した。とくに、五十子陣は15世紀後半に関東管領山内上杉房顕が古河公方足利成氏との抗争に際し構築した陣として知られ、文献上の年代が明らかであるとともに、近年調査が実施された東五十子城跡遺跡、東五十子赤坂遺跡など周辺の遺跡においても、五十子陣関連の遺構・遺物が多数検出されていることから、東五十子北町中遺跡においても五十子陣に関係する遺構の所在は十分に予想されるところであった。

本庄市教育委員会では以上の状況を踏まえ、事業予定地について平成18年3月23日から平成18年3月29日までの間および平成18年4月25日から平成18年5月2日までの間に埋蔵文化財の範囲確認調査を実施した。その結果、調査の範囲において、群集墳を構成すると思われる小型円墳、井戸・土壙を中心とする中世の遺構群、粘土採掘坑の可能性が考えられる不整形の土坑、時期不明の溝などの遺構を確認した。遺物は形象埴輪を含む埴輪片のほか、かわらけ・擂鉢・銅銭など中世の遺物を多数検出した。円墳は調査地点の南方に展開する東五十子古墳群と同一の時期にあたり、群の北限をなす古墳と考えられた。また、中世の遺物は多くが15世紀後半に編年される資料で、文献による五十子陣の年代と符合することから、調査地点においても五十子陣関連の遺構の所在が確実視された。さらに、粘土採掘坑跡と思われる不整形の土坑は、所属年代の詳細は不詳ながら、遺構に堆積する褐土の色調から古代以前に遡ると推測され、かつて付近に存在したとされる赤坂埴輪窯跡との関連が注目された。

本庄市教育委員会ではこの結果を受け、平成18年4月5日付け本教文保発第5号及び平成18年5月12日付け本教文保発第37号で、タツムテクノロジー株式会社取締役社長杉原範之氏あて『埋蔵文化財の所在及び取扱いについて』の回答を送付し、1. 協議のあった土地については東五十子北町中遺跡（53-036）ほかの埋蔵文化財包蔵地が所在することから現状保存が望ましいこと、2. やむを得ず現状変更を実施する場合は、文化財保護法第93条の規定に基づき、埼玉県教育委員会あて埋蔵文化財発掘の届出を提出するとともに、埼玉県教育委員会の指示に従い、埋蔵文化財の保存に万全を期すこと、3. 埋蔵文化財発掘の届出にあたっては、当教育委員会と別途協議を行うことの旨を伝達した。しかし、その後の協議の結果、他に適地が得られないことから、やむをえず工場建物等の基礎部分について記録保存のための発掘調査を実施し、他は盛土保存等で対応することとなった。

現地における記録保存のための発掘調査は本庄市教育委員会が調査主体となり平成18年10月3日から平成18年12月15日までの期間に実施した。

Ⅱ　遺跡の環境

1　地理的環境

本庄市が位置する本庄台地は東は利根川に沿う妻沼低地、北は神流川、西は児玉丘陵、南は志戸川及び山崎山を隔てて櫛引台地に接している。台地上には西の児玉丘陵に続く残丘状の丘陵である生野山と大久保山が並んでいる。児玉郡上里町から本庄市の北側に面する妻沼低地とは利根川と本庄台地の崖線で限られ、自然堤防が発達している。台地上では大小数条の埋没河川による自然堤防が微高地として残ることが遺跡調査の結果から確認され、台地上においてもわずかにその起伏が見られる。本庄台地は洪積世末期の立川期に神流川・小山川によって形成された扇状地性台地である。児玉郡神川町大字寄島地区を扇頂部として、扇端部は児玉郡上里町大字金久保から本庄市鵜森にかけて広がり、台地上を女堀川・小山川の沖積堆積物によって被覆されている。台地の主体は砂礫層であるが、粘土層や粘質ローム層等が複雑に堆積している。標高は児玉町付近で100ｍ、本庄市街地で50ｍを測る。崖下には泉が多く、市街地北端の若泉の泉は市民の憩いの場となっている。

東五十子北町中遺跡は本庄台地の東北端、小山川と志戸川が合流し両河川の開析する沖積平野に位置する。北側は女堀川の浸食による段丘崖を境界として妻沼低地が広がる。段丘崖の高さは３～７ｍ、崖線は８㎞前後にわたって東西に連なり、標高は48～49ｍを測る。台地上には緩やかな起伏が存在する畑地帯が続いている。

2　歴史的環境

東五十子北町中遺跡において検出された遺構は、古墳時代の粘土採掘坑群と中世の遺構群に大別される。以下では、本遺跡周辺における同時期の集落遺跡・古墳、中世遺構について概観する。

本庄市では古墳時代を通して自然堤防上や微高地、台地縁辺部と占地を選びながら集落が営まれている。中でも、西富田二本松遺跡は関東地方における初期カマド導入期の住居を検出したことで知られている。本遺跡周辺でも薬師堂遺跡（２）、諏訪新田遺跡（４）、東五十子赤坂遺跡（９）、東五十子城跡遺跡（11）、東五十子・川原町遺跡（12）等において古墳時代の集落跡が確認されている。三次にわたる東五十子城跡遺跡の調査では中期を中心とした集落が確認され、10号住居跡からは多量の鉄製品とともに砥石、紡錘車、玉類が出土している（1961）。南方の東五十子・川原町遺跡においても断続的にではあるが、5世紀から10世紀の集落跡が営まれている。

本遺跡周辺では中期後葉から古墳群を形成し始める。塚合古墳群（６）、西五十子古墳群（14）、東五十子・川原町遺跡はこの時期に形成された古墳群である。西五十子古墳群では帆立貝形古墳である２号墳（全長20ｍ）や周溝覆土にHr-FA（榛名山二ッ岳渋川テフラ）を含む13号墳（径20ｍ、円墳）が見られる。塚合古墳群ではＢ種ヨコハケ調整の円筒埴輪を伴う古墳が築造されている。後期になると、これらの古墳群とともに御堂坂古墳群（５）、鵜森古墳群（８）といった群集墳が形成される。

本遺跡で大規模な粘土採掘坑が検出されたように、良質な粘土が採掘できるためか、この地域では赤坂埴輪窯跡（10）、宥勝寺裏埴輪窯跡（19）といった埴輪窯跡が確認されている。ただ、赤坂埴輪窯は窯自体が未調査であり、工場建設時に馬形埴輪や家形埴輪及び焼土を検出したのみで詳細は不明である。反対に、宥勝寺裏埴輪窯跡では５基以上の埴輪窯が良好な状態で確認されたほか、滑石製臼

玉が検出されている。

中世、特に15世紀後半になると「五十子陣」に関係する遺跡が数多く確認されている。「五十子陣」は関東管領上杉氏の古河公方に対する防禦上の要衝として、『鎌倉大草紙』や『松陰私語』のなかで頻繁に登場する。康正二年（1457）から長禄二年（1458）頃に造営したとされ、足利成氏が古河に拠った享徳四年（1455）から文明十年（1478）の和睦に至るまで上杉氏の軍事拠点として機能し、上杉・古河両軍が激突した最大の戦である「五十子の戦」（1466～1473）や家宰争いによる長尾景春の反乱（1477）の舞台となった場所である。

五十子陣に関連する遺跡は、陣の中心である東五十子城跡遺跡や女堀川右岸の東五十子赤坂遺跡、西五十子大塚遺跡（7）、小山川左岸の東五十子・川原町遺跡、西五十子台遺跡（13）、西五十子古墳群（14）、東本庄遺跡（15）などのように女堀川と小山川に挟まれた高さ4mの台地上に、幅1.2km、奥行き3kmの範囲にわたって存在している。これらの遺跡に共通しているのは各々大量にかわらけを検出していることであり、盛んに饗宴が行われたことを裏付けている。東本庄遺跡ではかわらけが多量に破棄された土坑が検出され、西五十子古墳群では台地直下に堆積する黒色土中から多量の大型かわらけが出土している。さらに、宝篋印塔の塔身・笠、五輪塔や青石塔婆の破片を使用したカマドを検出した東五十子城跡遺跡（1956、1961）、方形竪穴状遺構や溝・井戸を検出した東五十子・川原町遺跡、板碑や宝篋印塔の一部を利用して囲いをした円形の遺構を検出した西五十子台遺跡のように、日常生活を連想させる遺構も多数確認されている。このことは、五十子陣が有事において一時的に拠るだけのものではなく、陣内において恒常的な生活空間が営まれていたことを物語る。また、小山川と志戸川が合流して形成された自然堤防上に位置する岡部町六反田遺跡（21）では箱薬研形の堀や井戸、土坑とともに15世紀代の古瀬戸の皿が検出されている。これは、五十子陣が上州方面へ通ずる鎌倉街道を守るための要衝として小山川の両岸を含めた範囲に形成されていることを窺い知る要素となっている。

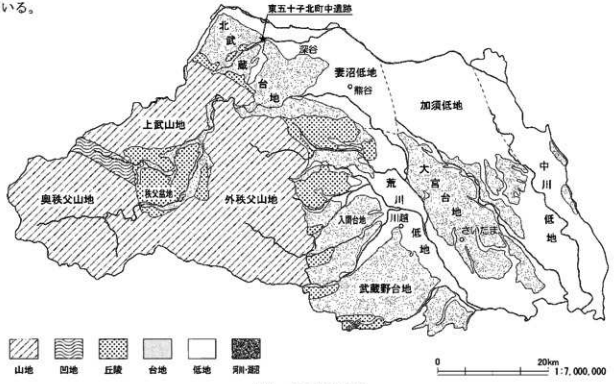
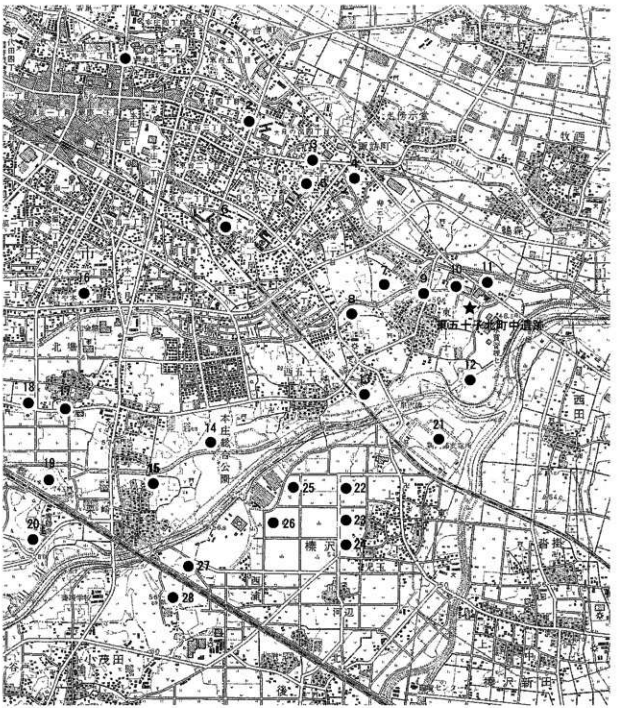


図1　埼玉県の地形



1．本町遺跡　2．薬師堂遺跡　3．御堂坂遺跡　4．諏訪新田遺跡　5．御堂坂古墳群　6．塚合古墳群
7．西五十子大塚遺跡　8．鵜森古墳群　9．東五十子赤坂遺跡　10．赤坂埴輪窯跡　11．東五十子坂跡遺跡
12．東五十子・川原町遺跡　13．西五十子台遺跡　14．西五十子古墳群　15．東本庄遺跡
16．笠ヶ谷戸遺跡　17．久下塚遺跡　18．東富田遺跡　19．宥勝寺裏埴輪窯跡　20．前山1・2号墳
21．六反田遺跡　22．稲荷前遺跡　23．西浦北遺跡　24．宮西遺跡　25．大寄A遺跡　26．大寄B遺跡
27．古川端遺跡　28．川原山遺跡

図2　東五十子北町中遺跡の位置と周辺の遺跡

Ⅲ　調査の方法と経過

1　調査の方法

試掘調査の成果等を参考に、遺構確認面をローム層上面とした。その直上までは重機を用いて掘削を行った。その後の遺構確認と調査は人力によって行った。調査区周囲は自動車の往来が激しいため、安全対策を行った。現地実測の基準として方眼基準杭と基準点、水準点を設置し、各遺構平面図・土層断面図は手実測により、縮尺を1/10ないし1/20で作成した。遺構の写真撮影は、35mmモノクロ、カラーネガ、リバーサルの各フィルムとデジタルカメラを使用した。出土遺物の注記はインクジェットを使用し、遺跡の略号は53-036とした。接合にはセメダインC、復元にはエポキシ樹脂を使用した。遺物の写真撮影には35mmモノクロ、6×7判モノクロの各フィルムを使用した。

2　調査の経過

発掘調査は平成18年10月3日から平成18年12月15日にかけて実施した。東側調査区より作業を開始し、11月中旬より西側調査区に移行した。遺構調査終了後、埋め戻し作業を行い事業者側へ引き渡しを行った。

整理作業は平成18年12月1日から平成19年11月15日にかけて実施し、平成20年3月31日付けで報告書を刊行した。

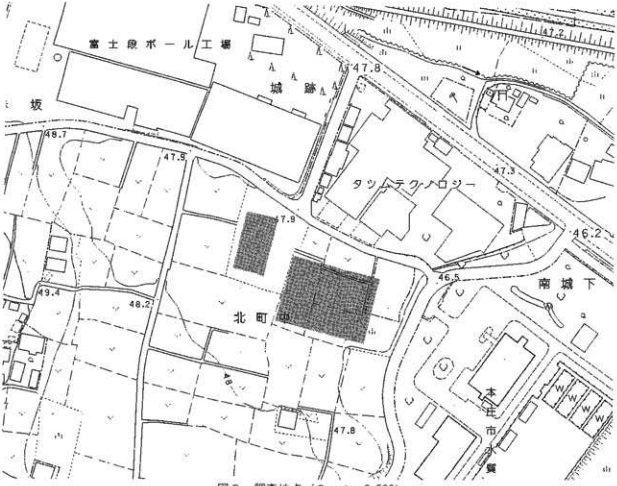


図3　調査地点（S＝1：2,500）

Ⅳ　調査の成果

1　遺跡の概要

本遺跡は本庄台地北東側の縁辺部に位置しており、標高は48.0mを測る。本遺跡の北側では女堀川が、東側では志戸川が東流しており河岸段丘崖を形成している。

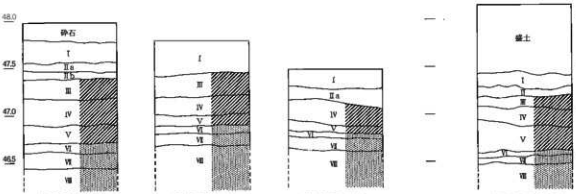
検出された遺構は粘土採掘坑21基、方形竪穴状遺構2基、溝5条、井戸1基、土坑48基、ピット145基である。五十子陣に関連すると思われる遺構が大部分を占めている。本遺跡はローム層下に窯業に適した灰白色粘土が幾層も堆積しており、これを採掘するための採掘坑が多数検出されている。

出土遺物はかわらけが中心で青白磁、板碑、銅・鉄製品などが見られる。粘土採掘坑からは古墳時代中期の土師器が出土しており、所属時期を考えるうえで良好な資料が検出された。この粘土採掘坑は本遺跡北西側に位置する赤坂埴輪窯跡との関連性が指摘される。このほか、遺構内外から縄紋土器や石器、石室を構成する角閃石安山岩や埴輪片が検出されている。

2　基本層序

今回の調査では、3地点で土層観察を行った。図4は本遺跡における層位柱状図である。Ⅰ層(表土)は浅間山A軽石（As-A）を含む褐灰色土層である。Ⅱa・Ⅱb層は焼土粒を含む暗褐色土層で、中世以降の遺構は本層を掘り込んでいる。Ⅲ～Ⅴ層はローム層で、上部ロームに対比される。この層を遺構確認面とした。Ⅵ～Ⅷ層は水成粘土と考えられる灰白色粘土層で、粘土採掘坑はこの層の粘土を目的としている。また、SW-01壁面でⅧ層以下に厚く堆積する砂礫を含む粘土層が観察されている。

東五十子城跡遺跡（図4右）や本遺跡より南西に位置する西五十子田端屋敷遺跡、諏訪廻遺跡においても同様に、ローム層下に水成粘土層の堆積が確認されている。このことから五十子周辺や小山川と女堀川に挟まれた地域ではローム層下に良質な灰白色粘土が厚く堆積しているようである。本庄台地（神流川扇状地）では表土下に1m前後の厚さでローム層が堆積し、その下部を本庄台地形成の産物である砂礫層が厚く被覆するのが基本層序である事を考慮すると、やや特異であることが窺える。



(東五十子城跡遺跡2004をもとに加筆・修正)

Ⅰ　褐灰色土　　浅間山A軽石（As－A）を含む。
Ⅱa 暗褐色土　　浅間A山軽石（As－A）を微量に含む。焼土粒を少量含む。
Ⅱb 暗褐色土　　焼土粒を少量含む。砂利含む。
Ⅲ　黄橙色粘質土　　ローム層。褐鉄鉱を少量含む。
Ⅳ　浅黄橙色粘質土　褐鉄鉱を少量含む。
Ⅴ　浅橙色粘質土　　褐鉄鉱を少量含む。やや砂質。
Ⅵ　灰褐色粘土　　しまり・粘性強い。褐鉄鉱を微量に含む。
Ⅶ　灰褐色粘土　　しまり・粘性ともに非常に強い。褐鉄鉱を少量含む。
Ⅷ　灰白色粘土　　しまり・粘性ともに非常に強い。褐鉄鉱を大量に含む。

図4　基本層序

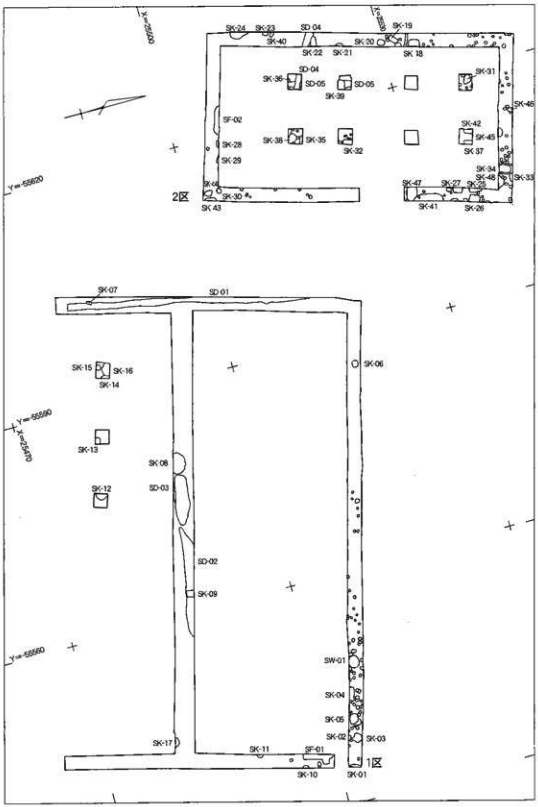

SK-24
SK-23
SD-04
SK-19
SK-40
SK-22
SK-21
SK-20
SK-18
SD-04
SK-36
SD-05
SD-05
SK-39
SK-31
SK-46
SF-02
SK-42
SK-38
SK-35
SK-32
SK-43
SK-37
SK-28
SK-29
SK-34
SK-48
SK-33
SK-44
SK-47
SK-27
SK-25
2区
SK-30
SK-43
SK-41
SK-26
SK-07
SD-01
SK-06
SK-15
SK-16
SK-14
SK-13
SK-08
SK-12
SD-03
SD-02
SK-09
SW-01
SK-04
SK-05
SK-02
SK-03
SK-17
SK-11
SF-01
SK-10
SK-01
1区
0
30m
1:500

図5　調査区全体図

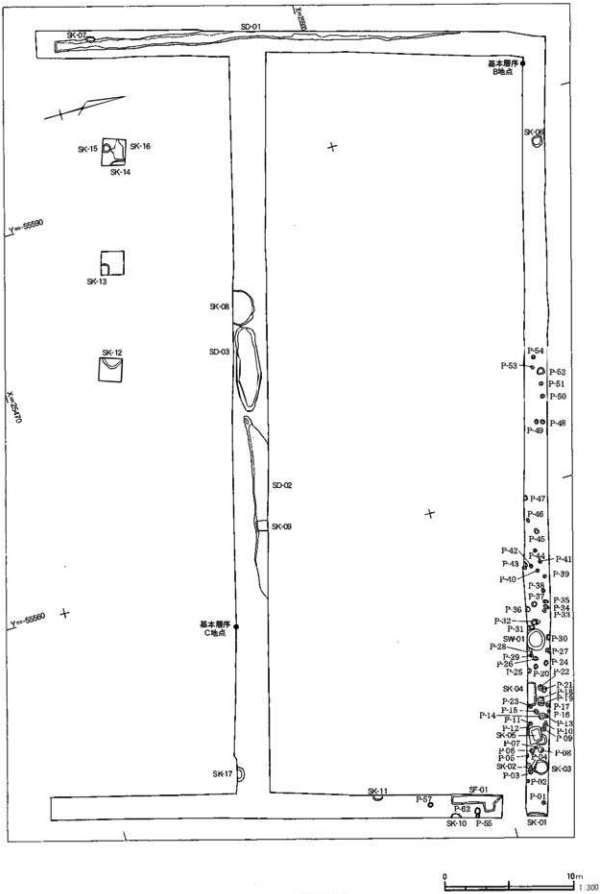

SD-01
SK-07
基本層序
B地点
SK-04
SK-15
SK-16
SK-14
Y=-65590
SK-13
SK-08
SD-03
SK-12
Y=-65470
SD-02
SK-09
Y=-65590
基本層序
C地点
SK-17
SK-11
P-63
SF-01
SK-10
P-65
P-62
SK-01
P-01
SK-03
P-02
SK-02
P-03
P-05
P-06
P-07
P-08
P-09
P-10
P-13
P-14
P-11
P-12
P-15
P-16
P-17
P-18
P-19
P-21
P-22
P-20
P-24
P-27
P-30
P-25
P-26
P-29
P-28
SW-01
P-31
P-32
P-36
P-37
P-38
P-35
P-34
P-33
P-39
P-40
P-43
P-42
P-44
P-41
P-45
P-46
P-47
P-48
P-49
P-50
P-51
P-52
P-53
P-54
0
10m
1:300

図6　１区遺構全体図

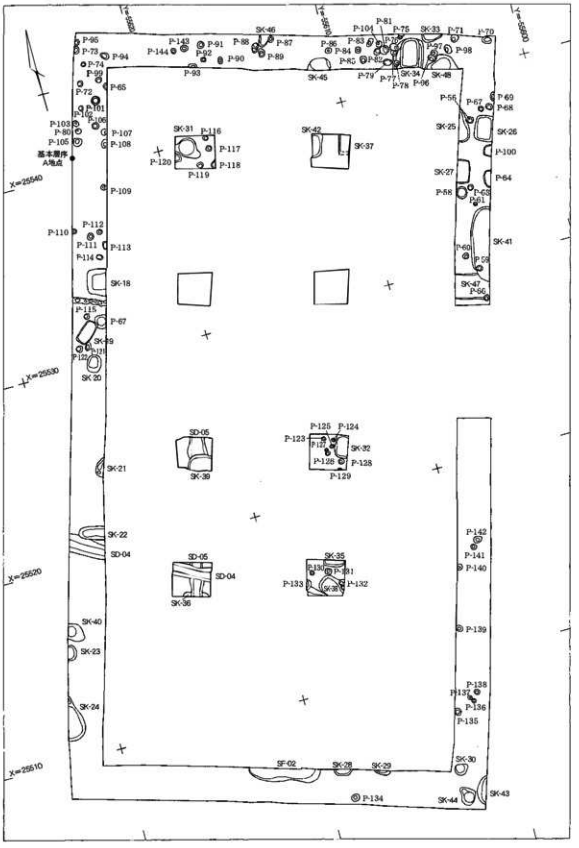

X=25550
X=25530
X=25520
X=25510
基本層序
A地点
SK-31
SK-42
SK-37
SK-27
SK-25
SK-26
SK-41
SK-47
SK-18
SK-39
SK-30
SK-21
SK-22
SD-04
SD-05
SK-32
SK-35
SK-36
SK-40
SK-23
SK-24
SK-28
SK-29
SK-43
SK-44
SF-02
P-134
P-129
P-139
P-140
P-141
P-142
P-135
P-136
P-137
P-138
P-132
P-133
P-123
P-124
P-125
P-128
P-110
P-111
P-112
P-113
P-114
P-115
P-116
P-117
P-118
P-119
P-120
P-103
P-105
P-107
P-108
P-109
P-64
P-100
P-68
P-69
P-56
P-58
P-59
P-66
P-67
P-65
P-70
P-71
P-73
P-74
P-75
P-76
P-77
P-78
P-79
P-80
P-81
P-83
P-84
P-85
P-86
P-87
P-88
P-89
P-90
P-91
P-92
P-93
P-94
P-95
P-96
P-97
P-98
P-99
P-101
P-102
P-104
P-106
P-143
P-144
P-45
P-46
P-72
0
5
10m
1:200

図７　２区遺構全体図

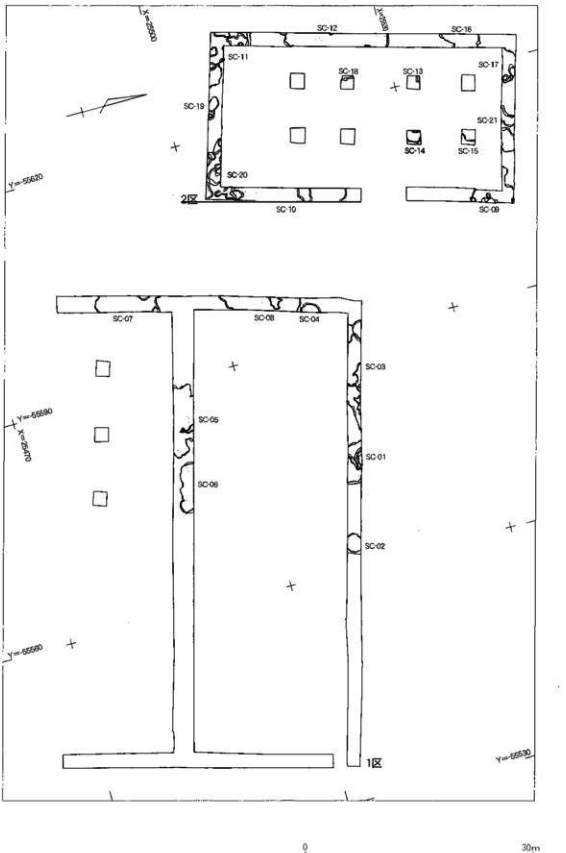

SC-12
SC-16
SC-11
SC-18
SC-13
SC-17
SC-19
SC-21
SC-14
SC-15
SC-20
2区
SC-10
SC-09
SC-07
SC-08
SC-04
SC-03
SC-05
SC-01
SC-06
SC-02
1区
Y=55530
0
30m
1:500

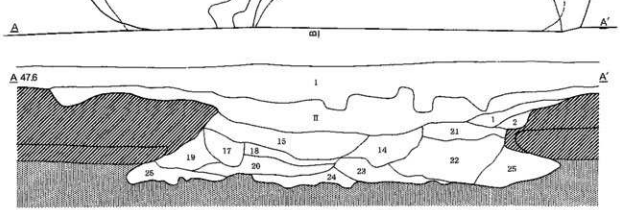
図８　粘土採掘坑配置図

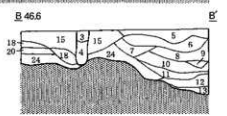
3　検出された遺構と遺物

（1）粘土採掘坑

今回の調査における最大の規模の遺構が粘土採掘坑である。１・２区を合わせて21基確認された。検出された各粘土採掘坑には個別に遺構番号が付けられているが、実際には同一の採掘坑として捉えられるものもある。そのため１基の粘土採掘坑として厳密に捉えることは困難であった。個別の採掘坑については後述し、ここではその概要を記述する。

採掘坑は基本層序で示したⅥ～Ⅶ層の灰白色粘土の採取を目的として掘削されている。特に良質で





SC-01　土層説明

Ⅰ	褐灰色土	
Ⅱ	暗褐色土	
1	暗褐色土	ロームブロック（径10～100mm）、ローム粒を多量に含む。褐鉄鉱を少量含む。
2	暗褐色土	ロームブロック（径100mm）を多量に含む。灰白色粘土粒（径1mm）少量含む。
3	暗褐色土	ローム粒、黒色粒子（径1～3mm）を多く含む。にぶい黄橙色粘土ブロック（径50mm）を含む。
4	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。灰白色粘土粒を多く含む。黒色粒（径1～3mm）を少量含む。
5	褐色土	ローム粒、赤色粒子（径0.2～0.3mm）を多く含む。
6	灰白色粘土	灰白色粘土と黄橙色粘土の混合層。
7	黒褐色土	ローム粒、灰白色粘土粒を多く含む。灰白色粘土ブロック（径10mm）を少量含む。赤色粒子（径2～3mm）を微量に含む。
8	黒色土	ローム粒、ロームブロック（径10mm）を少量含む。
9	にぶい黄褐色土	ローム粒を微量含む。黒色土ブロック（径10mm）を少量含む。
10	黒色土	ローム粒、ロームブロック（径10mm）を少量含む。赤色粒子（径2～3mm）を微量に含む。
11	黄橙色粘土	灰白色粘土ブロック（径10mm）を微量に含む
12	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径50mm）を少量含む。
13	灰白色粘土	にぶい黄橙色粘土ブロック（径10mm）を多量に含む。
14	にぶい黄褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10～100mm）を多量に含む。
15	暗褐色土	灰白色粘土ブロック（径100mm）、黄橙色粘土ブロック（径50mm）を多量に含む。
16	暗褐色土	灰白色粘土ブロック（径10mm）と黒褐色土が混じる。ローム粒を微量に含む。
17	黒褐色土	ロームブロック（径10mm）、灰白色粘土ブロック（径100mm）を少量含む。
18	灰白色粘土	灰白色粘土と黄橙色粘土の混合層。
19	にぶい黄褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径50～100mm）を多量に含む。
20	黒褐色土	ローム粒、黒色土を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径10mm）を少量含む。
21	暗褐色土	ロームブロック（径100mm）を多量に含む。ローム粒、灰白色粘土粒（径1mm）少量含む。
22	にぶい黄褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10mm）を多量に含む。
23	暗褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径100mm）を多量に含む。褐鉄鉱を少量含む。
24	灰白色粘土	にぶい黄橙色粘土、黒色土を少量含む。
25	明黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径100mm）を多量に含む。

図9　SC-01

あるⅥ・Ⅶ層の灰白色粘土を採掘しており、壁際では抉り取るように掘削を行っている。この抉り取る作業の連続による弧状の掘削跡の様子は、SC - 03 や SC - 06 の壁際でよく確認できる。この弧状の掘削跡は人間一人が掘削する範囲を示している。

本遺跡の粘土採掘坑は竪坑を基本とし、壁面の灰白色粘土の抉り取りを繰り返すことによって拡張している。そのため、ほとんどの採掘坑が不整形である。採掘坑内では徐々に掘り下げて拡張していくものも見られ、SC - 01 や SC - 06 のような帯状の掘削跡がそれを示している。覆土は SC - 02 では自然堆積が認められるものの、ほとんどが人為的な埋土であり、掘削が終了した部分は埋め戻される。

採掘坑の分布をみると、1区中央から2区にかけて集中している。1区中央から東側では全く確認できない事から、東限は1区中央であり西方に向かって広がっているといえる。また、各採掘坑の位置に規則性はないが、西方に行くに従い密になる傾向にある。これは、基本層序から読み取れるように2区に向かって良質の灰白色粘土の堆積が厚くなるためであろう。

遺物は SC - 20 底面付近で検出された土師器甕の口縁部片と丸底底部のみである。粘土採掘坑の所属時期はこの出土遺物と重複関係にある中世遺構から判断して、古墳時代の所産とした。

SC - 01（図9、表 12 ／写真図版6）

位置：1区北側に位置する。SC - 02 と SC - 03 の間に掘削される。

形状：平面形は不明。開口部の最大幅 5.05 m、底面部の最大幅 4.90 m、残存深度 1.00 mを測る。

構造：西壁と東壁はオーバーハングして立ち上がる。底面には細かい起伏が見られ、中央部には南北方向の灰白色粘土層の稜が見られる。本採掘坑は最低2回の掘削作業が行われていたものと考えられる。まず、最初に南側において灰白色粘土を採掘した後、今度は北側をさらに深く掘削作業を行ったと考えられる。土層断面においても南側の覆土上層に北側で掘り込まれた土砂が堆積している。このことから本採掘坑が南側より掘り込まれていると推測できる。

遺物：かわらけ片と土師器甕胴部片が数点出土している。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 02（図 10、表 12）

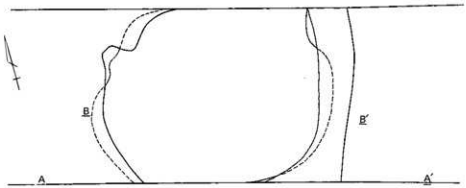
位置：1区北側に位置する。SC - 01 の東側で掘削される。本調査区における最東端で確認された粘土採掘坑である。

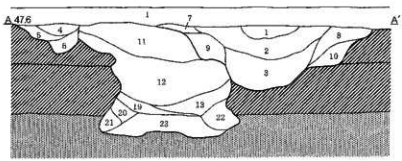
形状：平面形は不明。北壁と南壁は収斂する様相を見せていることから楕円形を呈する可能性がある。開口部の最大幅 2.20 m、底面部の最大幅 2.45 m、残存深度 1.14 mを測る。

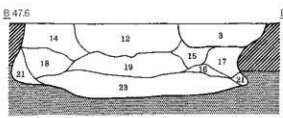
構造：西壁、東壁ともにオーバーハングして立ち上がる。底面には細かい起伏が見られる。上層は黒褐色土の自然堆積で、下層は人為的な埋め戻しの痕跡が見られる。

遺物：覆土上層で縄紋土器と高坏脚部、中世の遺物が検出されたが、これは重複する遺構からの流れ込みと思われる。

所属時期：古墳時代と考えられる。







SC - 02　土層説明

I	褐灰色土	
1	褐色土 ｜	灰白色粘土ブロック（径 20 ～ 30 mm）を含む。小礫（径 50 ～ 100mm）を多量に含む。
2	灰白色粘土	灰白色粘土ブロック（径 10 mm）を大量に含む。灰褐色土が混じる。小礫（径 10 mm）を少量含む。
3	灰褐色土	ローム粒、黒色粒子、赤色粒子（径 2 ～ 3 mm）、炭化物（径 10 mm）を少量含む。砂質味あり。
4	灰褐色土	ローム粒、白色パミスを微量に含む。
5	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。赤色粒子（径 2 ～ 3 mm）を微量に含む。
6	暗褐色土	ロームブロック（径 20 mm）を多量に含む。黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）、赤色粒子（径 2 ～ 3 mm）を微量に含む。白色パミスを少量含む。赤色粒子（径 2 ～ 3 mm）を微量に含む。砂質味あり。
7	灰褐色土	ローム粒、赤色粒子（径 2 ～ 3 mm）、小礫（径 20 mm）を微量に含む。灰白色粘土粒（径 8 mm）を少量含む。
8	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径 50 mm）を含む。黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）を微量に含む。
9	暗褐色土	ローム粒を微量に含む。ロームブロック（径 10 mm）、炭化物（10 mm）を微量に含む。
10	赤褐色土	ローム粒を少量含む。ロームブロック（径 10 mm）を微量に含む。
11	灰褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径 50 mm）を含む。白色パミスを微量に含む。黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）、炭化物（径 10 mm）を少量含む。
12	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径 50 mm）を多量に含む。灰白色粘土粒（径 5 mm）、黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）を少量含む。
13	明褐色土	ローム粒、ロームブロック（径 10 mm）を多量に含む。灰白色粘土粒（径 5 mm）を微量に含む。
14	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径 50mm）を微量に含む。
15	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径 30 mm）、赤色粒子（径 1 mm）を含む。
16	黒褐色土	ロームブロック（径 10 mm）を多量に含む。
17	黄褐色粘質土	ローム粒を多量に含む。
18	黒褐色土	ローム粒を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径 50 ～ 100mm）を少量含む。
19	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。灰白色粘土粒（径 5 mm）、黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）、赤色粒子（径 2 ～ 3 mm）を微量に含む。
20	に ぶい黄褐色土	ローム粒を多量に含む。灰白色粘土粒（径 8 mm）を微量に含む。
21	に ぶい黄褐色粘質土	灰白色粘土ブロック（径 10 mm）を少量含む。
22	褐色粘質土	灰白色粘土混じりの黒色土ブロック（径 100mm）を多量に含む。
23	褐色土と灰白色粘土ブロック	

図 10　SC - 02

SC - 03（図 11、表 12 ／写真図版 6）

位置：１区北側に位置する。SC - 01 の西側で掘削される。SK - 06 と重複し、本遺構が旧い。

形状:平面形は不明。開口部の最大幅 11.40 m、底面部の最大幅 11.40 m、残存深度 0.88 mを測る。

構造：検出できた壁面はオーバーハングして立ち上がる。底面には細かい起伏が見られ、部分的に灰白色粘土層の稜が見られる。北壁では灰白色粘土を掘削した弧状の掘り込み跡が見られた。またその痕跡から、南側から北東方向へ掘り進めたものと推測される。

遺物：土師器甕片が数点出土している。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 04（図 13、表 12）

位置：１区西側に位置する。SC - 08 の北側で掘削される。

形状：平面形は不明。開口部の最大幅 2.15 m、底面部の最大幅 2.00 m、残存深度 0.92 mを測る。

構造：南壁は傾斜をもって立ちあがるが、北壁及び西壁はオーバーハングしながら立ち上がる。底面部には細かい起伏が見られ、北壁の底面では掘り込みのためか周囲より若干低くなる。

遺物：検出されなかった。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 05（図 12、表 12 ／写真図版 7）

位置：１区南側に位置する。SC - 06 の西側で掘削される。

形状：平面形は不明。開口部の最大幅 7.21 m、底面部の最大幅 9.00 m、残存深度 0.96 mを測る。

構造：東壁及び西壁はオーバーハングしながら立ち上がる。底面部に細かい起伏が見られ、径 0.7 m程の土坑状の掘り込みや、灰白色粘土層の稜が見られる。壁際の掘削部分では弧状の掘削跡が連続して確認され、底面は周囲より若干深く掘り込まれている。

遺物：検出されなかった。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 06（図 12、表 12 ／写真図版 7）

位置：１区南側に位置する。SC - 05 の東側で掘削される。

形状：平面形は不明。開口部の最大幅 4.68 m、底面部の最大幅 5.40 m、残存深度 0.96 mを測る。

構造：東壁及び西壁、南壁では弧状の掘削跡が連続し、オーバーハングしながら立ち上がる。底面部には細かい起伏が見られる。また、西側では南方向に向かって帯状の掘削跡が若干の高低差をもって段状に連続し、壁際の弧状の掘削跡に至る。北側の方が南側より深く掘り込まれている。これらの事から、本採掘坑は北から南の方向に掘削を行っていたと考えられる。この帯状の掘削跡は、弧状の掘削が進んだ状態であると推測される。

遺物：検出されなかった。

所属時期：古墳時代と考えられる。

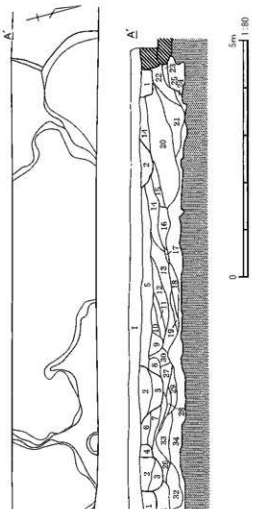


図11　SC - 03

SC - 07（図13、表12）

位置：１区南西側に位置する。SC - 08 の**南側**で掘削される。SD - 01 と**重複**し、本遺構が旧い。

形状：**平面形**は不明。開口部の**最大幅** 6.33 m、底面部の最大**幅** 7.86 m、**残存深度** 0.63 m**を測る**。

構造：北壁及び南壁では弧状の掘削跡が連続し、若干オーバーハングしながら立ち上がる。底面部には細かい起伏が見られるが、北壁及び南壁の底面は周辺よりも若干深く掘り込まれている。

遺物：検出されなかった。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 08（図 13、表 12）

位置：１区西側に位置する。SC - 04 の南側、SC - 07 の北側で掘削される。SD - 01 と重複し、本遺構が旧い。

形状：平面形は不明。開口部の最大幅 7.80 m、底面部の最大幅 7.88 m、残存深度 0.77 mを測る。

構造：北壁及び南壁では弧状の採掘跡が連続し、オーバーハングして立ち上がる。中央やや北側にある灰白色粘土層の高まりでも弧状の採掘跡が見られる。底面部には細かい起伏が見られる。

遺物：検出されなかった。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 09（図 14、表 12）

位置：２区北東側に位置する。SK - 25、SK - 48 と重複し、本遺構が旧い。

形状：平面形は不明。開口部の最大幅 6.36 m、底面部の最大幅 6.40 m、残存深度 0.53 mを測る。

構造：各壁面は弧状の掘削跡が連続し、オーバーハングしながら立ち上がる。底面部には細かい起伏が見られ、部分的に灰白色粘土層の稜が確認できる。人為的な埋め戻しが見られ、南から北東方向へ向かって掘り進んでいるものと考えられる。

遺物：検出されなかった。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 10（図 15、表 12／写真図版７）

位置：２区南東側に位置する。SC - 20 の北側に隣接して掘削される。

形状：平面形は不明。開口部の最大幅 13.86 m、底面部の最大幅 13.56 m、残存深度 0.78 mを測る。

構造：北壁及び南壁は弧状の掘削跡が連続し、オーバーハングしながら立ち上がる。底面部には細かい起伏が見られ、部分的に灰白色粘土層の稜が確認できる。南側は SC - 20 と隣接しており、同一の可能性も考えられる。

遺物：検出されなかった。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 11（図 16、表 12／写真図版８）

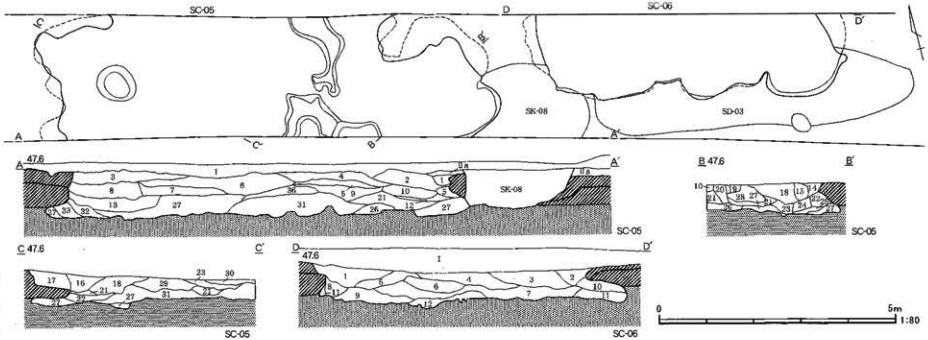
位置：１区南側に位置する。SC - 06 の東側で掘削される。SK - 24 と重複し、本遺構が旧い。

形状：平面形は不明。開口部の最大幅 6.40 m、底面部の最大幅 6.20 m、残存深度 1.03 mを測る。

構造：東壁は弧状の掘削跡が見られ、オーバーハングしながら立ち上がる。北側はオーバーハングせず急な傾斜を持ちながら立ち上がる。東側の底面部は２段になっており、高低差 0.5 mを測る。上下段の壁際とも弧状の掘削跡が見られ、オーバーハングする。底面は細かい起伏が見られるが、ほぼ平坦である。下段の壁際は周囲より若干低く掘り下げられている。

遺物：土師器甕片が数点出土している。

所属時期：古墳時代と考えられる。



SC-05　土層説明

1	にぶい黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径10mm）を少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径10mm）を少量含む。
3	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径50～100mm）を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径10mm）を少量含む。
4	にぶい黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径10mm）を少量含む。
5	にぶい黄褐色土	暗褐色土が斑状に混じる。灰白色粘土ブロック（径10～100mm）を含む。
6	にぶい黄褐色土	ローム粒、ロームブロック（径50～100mm）、灰白色粘土ブロック（径10mm）を多量に含む。褐鉄鉱を少量含む。
7	黒色土	ロームブロック（径30mm）、灰白色粘土ブロック（径30mm）を少量含む。砂質。
8	黄橙色土	灰白色粘土ブロック（径10mm）、暗褐色土を少量含む。
9	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径10mm）、黒色土を少量含む。やや砂質。
10	黒褐色土	ローム粒を少量含む。ロームブロック（径50～100mm）含む。砂質。
11	暗黄褐色土	ロームブロック（径50mm）、灰白色粘土ブロック（径50mm）を少量含む。
12	にぶい黄褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10mm）を少量含む。
13	にぶい黄褐色土	ロームブロック（径30mm）、灰白色粘土ブロック（径30mm）を少量含む。
14	黒褐色土	ロームブロック（径10～50mm）、灰白色粘土ブロック（径10mm）を多量に含む。
15	黄橙色土	ロームブロック（径10～50mm）、灰白色粘土ブロック（径10mm）を含む。
16	黒色土	ローム粒含む。赤色粒子（径2～3mm）を微量に含む。
17	黄橙色土	灰白色粘土ブロック（径50mm）を含む。
18	暗褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10mm）を少量含む。
19	暗黄褐色土	ロームブロック（径50mm）、灰白色粘土ブロック（径50mm）を少量含む。
20	黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径10mm）、暗褐色土を少量含む。
21	にぶい黄褐色土	非常にやわらかい。灰白色粘土ブロック（径10mm）を少量含む。
22	にぶい黄褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10mm）、黒色土を多量に含む。
23	にぶい黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径10mm）を多量に含む。褐鉄鉱を少量含む。
24	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径10mm）、黒色土を少量含む。やや砂質。
25	にぶい黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径10mm）を含む。黒色土を微量に含む。
27	褐色土と灰白色粘土ブロック	
28	黄橙色土	灰白色粘土ブロック（径10mm）、黒色土、黄褐色土を含む。やや砂質。
29	にぶい黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径10mm）を含む。黒色土を微量に含む。
30	にぶい黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径10mm）を多量に含む。
31	褐色土と灰白色粘土ブロック	

SC-06　土層説明

1	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径30～50mm）を少量含む。
2	黄橙色土	灰白色粘土ブロック（径10～20mm）を少量含む。
3	にぶい黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径10～100mm）を含む。
4	黄橙色土	灰白色粘土ブロック（径50mm）を少量含む。
5	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径50mm）を少量含む。
6	にぶい黄褐色土	ロームブロック（径50mm）を含む。褐鉄鉱を少量含む。
7	暗黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径10～30mm）を少量含む。
8	暗褐色土	ロームブロック（径10mm）、灰白色粘土ブロック（径80～100mm）を少量含む。
9	にぶい黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径10～80mm）を含む。
10	褐色土と灰白色粘土ブロック	
11	明褐色土と灰白色粘土ブロック	
12	褐色土と灰白色粘土ブロック	

図12　SC-05・06

SC - 12（図 17・20、表 1 ・12／写真図版 16）

位置：２区西側に位置する。SC - 16 の南側、SC - 11 の北側で掘削される。

形状：開口部の最大幅 13.60 m、底面部の最大幅 14.00 m、残存深度 0.90 mを測る。東側に隣接する SC - 18 の壁面と本採掘坑の壁面が同一円周上にある事から両者は同一の遺構の可能性がある。その場合、円形もしくは楕円形を呈すると思われる。

構造：北壁及び南壁は弧状の掘削跡が連続し、オーバーハングしながら立ち上がる。底面には細かい起伏が見られる。確認された粘土採掘坑の中で最大規模である。

遺物：土師器甕片が出土している。１はかわらけであるが、後世の流れ込みと考えられる。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 13（図 14、表 12）

位置：２区中央やや北西側に位置する。SC - 14 の西側で掘削される。

形状：２×２mの範囲のため、平面形及び最大幅は不明。残存深度 0.96 mを測る。

構造：立ち上がりは不明。底面には細かい起伏が見られる。部分的に土坑状の落ち込みや灰白色粘土層の稜が見られるが、帯状の掘削跡は見られなかった。この東西方向に走る稜を境に覆土の違いが見られる。北側に堆積する黒褐色土を中心とした覆土が、南側に堆積する灰白色粘土ブロックを含むにぶい黄褐色土を主体とした覆土の上層に見られることから、本採掘坑は北側に向かって掘り進んだものと推測される。

遺物：検出されなかった。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 14（図 14、表 12）

位置：２区中央に位置する。SC - 13 の東側、SC - 15 の南側で掘削される。

形状：２×２mの範囲のため、平面形及び最大幅は不明。残存深度 0.90 mを測る。

構造：立ち上がりは不明。底面には細かい起伏が見られ、部分的に灰白色粘土層の稜が見られる。弧状の掘削跡が連続して見られており、狭い範囲ではあるが帯状の掘削跡も見られる。

遺物：検出されなかった。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 15（図 14、表 12）

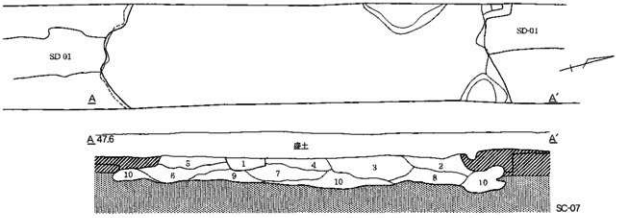
位置：２区中央やや北東側に位置する。SC - 14 の北側で掘削される。

形状：２×２mの範囲のため、平面形及び最大幅は不明。残存深度 0.96 mを測る。

構造：西壁に弧状の掘削跡が連続し、オーバーハングしながら立ち上がる。底面には細かい起伏が見られる。

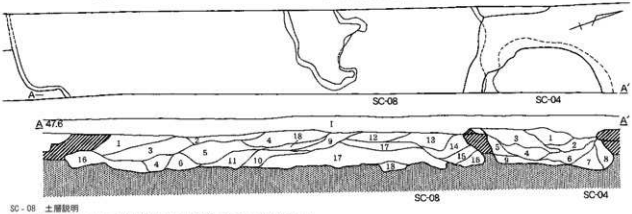
遺物：検出されなかった。

所属時期：古墳時代と考えられる。



SC - 07　土層説明

1　暗褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径 10 mm）、灰白色粘土粒を多量に含む。黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）を微量に含む。
2　明黄褐色土　　ローム粒、灰白色粘土粒を多量に含む。ロームブロック（径 100 mm）を少量含む。鬼鉄鉱を微量に含む。
3　暗褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径 10 ～ 30 mm）を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 20 mm）、黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）、鬼鉄鉱を少量含む。
4　黄褐色土　　灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 20 mm）、鬼鉄鉱を少量含む。
5　暗褐色土　　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 20 mm）を少量含む。
6　暗褐色土　　ロームブロック（径 10 mm）、灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 50 mm）を少量含む。
7　明黄褐色土　　灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 100 mm）、灰白色粘土粒を多量に含む。黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）を少量含む。
8　にぶい黄褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径 10 ～ 30 mm）、灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 50 mm）を多量に含む。鬼鉄鉱を微量に含む。
9　にぶい黄褐色土　　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 50 mm）、灰白色粘土粒を多量に含む。
10　褐色土と灰白色粘土ブロック



SC - 08　土層説明

1　にぶい黄褐色土　　ローム粒を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径 10 mm）を少量含む。
2　暗褐色土　　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 20 mm）を少量含む。
3　にぶい黄褐色土　　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 20 mm）を多量に含む。ロームブロック（径 10 ～ 30 mm）を少量含む。
4　にぶい黄褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径 10 ～ 30 mm）を少量含む。にぶい黄褐色粘土ブロック（径 10 ～ 50 mm）を含む。
5　にぶい黄褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径 50 mm）灰白色粘土ブロック（径 50 ～ 100 mm）、黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）を多量に含む。
6　黄褐色土　　灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 20 mm）を少量含む。
7　にぶい黄褐色土　　にぶい黄褐色粘土ブロック（径 10 ～ 50 mm）を多量に含む。黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）、鬼鉄鉱を少量含む。
8　灰白色粘質土　　灰白色粘土ブロック（径 50 ～ 100 mm）を多量に含む。
9　にぶい黄褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径 10 ～ 30 mm）を少量含む。にぶい黄褐色粘土ブロック（径 10 ～ 50 mm）を含む。
10　灰白色粘質土　　灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 20 mm）を多量に含む。鬼鉄鉱を少量含む。
11　明黄褐色土　　灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 20 mm）を多量に含む。鬼鉄鉱を少量含む。
12　暗褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径 10 ～ 30 mm）を少量含む。
13　暗褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径 10 ～ 30 mm）を少量含む。灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 20 mm）を含む。
14　暗褐色土　　ローム粒、灰白色粘土粒を多量に含む。にぶい黄褐色粘土ブロック（径 100 mm）を少量含む。黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）、鬼鉄鉱を微量に含む。
15　にぶい黄褐色土　　灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 50 mm）、鬼鉄鉱を少量含む。
16　褐色土と灰白色粘土ブロック
17　暗褐色土と黄橙色粘土ブロック
18　褐色土と灰白色粘土ブロック

SC - 04　土層説明

1　暗灰色土
1　にぶい黄褐色土　　ローム粒、黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）を多量に含む。ロームブロック（径 10 ～ 50 mm）、灰白色粘土ブロック（径 10 mm）、赤色粒子（径 2 ～ 3 mm）を少量含む。
2　にぶい黄褐色土　　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径 10 mm）を多量に含む。黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）を少量含む。鬼鉄鉱を含む。
3　にぶい黄褐色土　　灰白色粘土ブロック（径 10 mm）、赤色粒子（径 2 ～ 3 mm）を多量に含む。鬼鉄鉱を含む。
4　黄橙色土と灰白色粘土ブロック　　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径 50 mm）、黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）、鬼鉄鉱を多量に含む。
5　暗褐色土　　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径 10 mm）、灰白色粘土粒を多量に含む。
6　にぶい黄褐色土　　ローム粒を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径 10 mm）、黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）、鬼鉄鉱を少量含む。
7　暗褐色土　　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径 10 mm）を少量含む。
8　明黄褐色土と灰白色粘土ブロック
9　褐色土と灰白色粘土ブロック

図 13　SC - 04・07・08

SC - 16（図 18、表 12）

位置：２区南側に位置する。SC - 06 の東側、SC - 12 の北側、SC - 17 の南側で掘削される。

形状：平面形は不明。開口部の最大幅 5.29 m、底面部の最大幅 4.73 m、残存深度 1.05 mを測る。

構造：北壁及び南壁は弧状の掘削跡が連続し、オーバーハングしながら立ち上がる。底面には細かい起伏が見られ、部分的に灰白色粘土層の稜が見られる。

遺物：検出されなかった。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 17（図 18、表 12）

位置：２区北西側に位置する。SC - 16 の北側、SC - 21 の西側で掘削される。

形状：平面形は不明。開口部の最大幅 5.40 m、底面部の最大幅 4.15 m、残存深度 1.15 mを測る。

構造：東壁及び西壁は弧状の掘削跡が連続し、オーバーハングしながら立ち上がる。底面部には細かい起伏が見られ、壁際は周辺に比べ若干深く掘り込まれている。北壁と南西部の弧状の掘削跡には若干の高低差が見られる。

遺物：検出されなかった。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 18（図 17、表 12）

位置：２区中央に位置する。SC - 12 の東側で掘削される。

形状：平面形及び最大幅は不明である。残存深度 1.11 mを測る。単独の粘土採掘坑ではなく、SC - 12 と同一円周上に位置する事から、SC - 12 と同一の可能性がある。

構造：東壁のみ検出され、ほぼ垂直に立ちあがる。底面は平坦である。

遺物：検出されなかった。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 19（図 16、表 12）

位置：２区南側に位置する。SC - 11 の東側、SC - 20 の西側で掘削される。

形状：平面形は不明。開口部の最大幅 3.40 m、底面部の最大幅 3.48 m、残存深度 0.96 mを測る。

構造：北壁及び西壁、東壁は弧状の掘削跡が見られ、オーバーハングしながら立ち上がる。底面部は細かい起伏が見られる。東壁の底面は周囲より若干低く掘り込まれている。

遺物：検出されなかった。

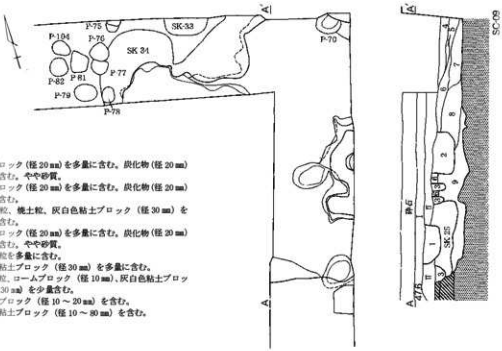
時期：中世土器と縄紋土器が数点出土している。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 20（図 17・18、表 1・12／写真図版８・16）

位置：２区南東側に位置する。SC - 10 の南側、SC - 19 の東側で掘削される。

形状：平面形は不明である。開口部の最大幅 8.18 m、底面部の最大幅 8.02 m、残存深度 0.82 m



SC - 09　土層説明

1　褐灰色土

1　暗褐色土　　焼土ブロック（径 20 mm）を多量に含む。炭化物（径 20 mm）を少量含む。やや砂質。

2　暗褐色土　　焼土ブロック（径 20 mm）を多量に含む。炭化物（径 20 mm）を少量含む。

3　暗褐色土　　ローム粒、焼土粒、灰白色粘土ブロック（径 30 mm）を多量に含む。

4　暗褐色土　　焼土ブロック（径 20 mm）を多量に含む。炭化物（径 20 mm）を少量含む。やや砂質。

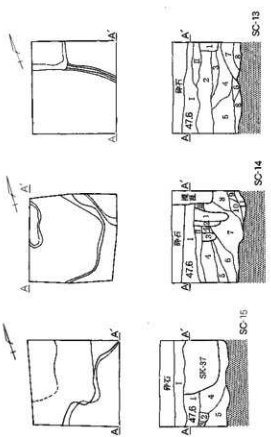
5　暗褐色土　　ローム粒を多量に含む。

6　にぶい黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径 30 mm）を多量に含む。

7　黒色土　　ローム粒、ロームブロック（径 10 mm）、灰白色粘土ブロック（径 30 mm）を少量含む。

8　暗褐色土　　ロームブロック（径 10 ～ 20 mm）を含む。

9　にぶい黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 80 mm）を含む。



SC - 13　土層説明

1　褐灰色土

1　暗褐色土　　ローム粒、焼土ブロック（径 10 ～ 50 mm）、炭化物を多量に含む。

2　暗褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径 10 mm）を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 20 mm）を少量含む。

3　褐色土と灰白色粘土ブロック

4　黒色土　　ローム粒、ロームブロック（径 10 mm）を少量含む。

5　淡黄褐色土　　灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 20 mm）、鳴鉄鉱を少量含む。

6　暗褐色土　　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径 100 mm）を多量に含む。

7　暗褐色土と黄橙色粘土ブロック

8　褐色土と灰白色粘土ブロック

SC - 14　土層説明

1　褐灰色土

1　暗褐色土　　ロームブロック（径 10 mm）を少量含む。焼土、炭化物を微量に含む。

2　暗褐色土　　ロームブロック（径 10 mm）、灰白色粒（径 1 mm）を少量含む。

3　暗褐色土　　ロームブロック（径 10 mm）を少量含む。

4　暗褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径 10 mm）を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径 10 mm）、赤色粒子（5 ～ 10 mm）を少量含む。

5　暗褐色土　　ローム粒、焼土ブロック（径 10 ～ 50 mm）、炭化物（径 10 mm）を多量に含む。

6　暗褐色土　　灰白色粘土ブロック（径 50 ～ 100 mm）を多量に含む。

7　黒色土　　ローム粒、ロームブロック（径 10 mm）を少量含む。

8　淡黄白色粘土　　灰白色粘土ブロック（径 10 mm）を多量に含む。鳴鉄鉱を含む。

9　暗褐色土　　ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径 10 mm）を灰白色粘土ブロック（径 100mm）を含む。

10　暗褐色土と黄橙色粘土ブロック

11　褐色土と灰白色粘土ブロック

SC - 15　土層説明

1　褐灰色土

1　暗褐色土　　ローム粒を多量に含む。

2　暗褐色土　　ローム粒、焼土粒を多量に含む。

3　にぶい黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 50 mm）を多量に含む。

4　にぶい黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 20 mm）、ローム粒、鳴鉄鉱を多量に含む。

5　にぶい黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 20 mm）を少量含む。

図 14　SC - 09・13 ～ 15

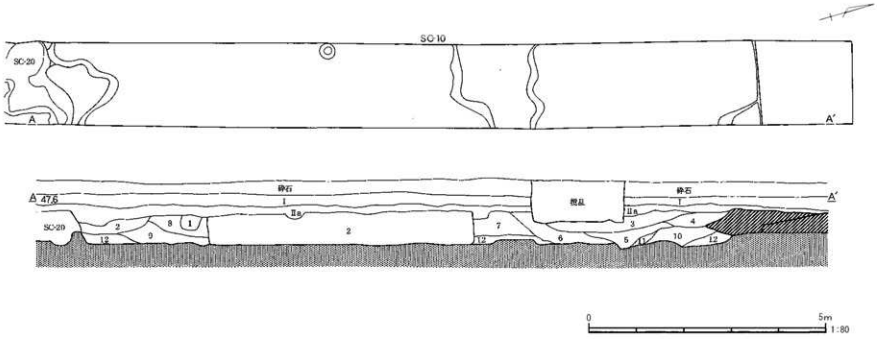
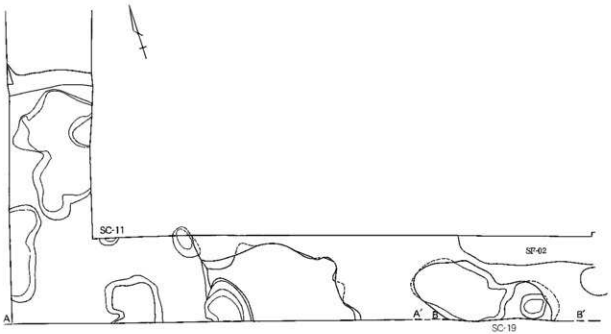
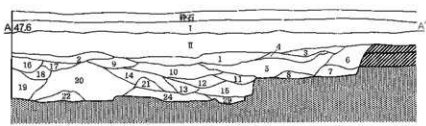


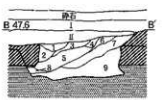
図15 SC-10

SC-10 土層説明

1 暗褐色土 ローム粒、焼土、炭化物（径10～20 mm）を少量含む。
2 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック（径50～100 mm）、灰白色粘土ブロック（径10～20 mm）を多量に含む。黒色粒子（径0.1～0.3 mm）、焼土含む。
3 に.ぶい黄褐色土 ローム粒を多量に含む。褐鉄鉱を少量含む。
4 に.ぶい黄褐色土 ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10～20 mm）、褐鉄鉱を少量含む。
5 に.ぶい黄褐色土 灰白色粘土ブロック（径50～100 mm）**を多量に**含む。褐鉄鉱を少量含む。
6 明黄褐色土 灰白色粘土ブロック（径10～100 mm）、**褐鉄鉱**を多量に含む。
7 に.ぶい黄褐色土 ロームブロック（径50～100 mm）**を大量に含む**。灰白色粘土ブロック（径50 mm）、褐鉄鉱を多量に含む。
8 に.ぶい黄褐色土 ローム粒、灰白色粘土ブロック（**径10～100 mm**）を多量に含む。褐鉄鉱を少量含む。黒色粒子（径1～**3 mm**）を微量に含む。
9 浅黄褐色土 ローム粒、ロームブロック（径10～**50 mm**）、**灰**白色粘土ブロック（径50～80 mm）を多量に含む。黒色**粒子**（径1～3 mm）、褐鉄鉱を少量含む。
10 に.ぶい黄褐色土 灰白色粘土ブロック（径10～20 mm）**を多量に**含む。ローム粒、ロームブロック（径10～30 mm）を少量含む。
11 に.ぶい黄褐色土 灰白色粘土ブロック（径10～50 mm）、**褐鉄鉱**を少量含む。
12 褐色土と灰白色粘土ブロック







SC-11

0　5m
1:80

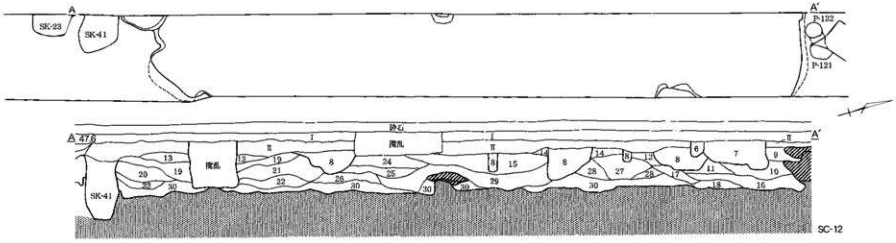
SC-11　土層説明

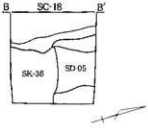
1　にぶい黄褐色土　ローム粒、ロームブロック（径10mm）、灰白色粘土ブロック（径30～50mm）を多量に含む。
2　にぶい黄褐色土　ローム粒、ロームブロック（径10mm）、灰白色粘土ブロック（径30～50mm）、褐鉄鉱を少量含む。
3　黒色土　ローム粒、ロームブロック（径10mm）、灰白色粘土ブロック（径30mm）を少量含む。
4　暗褐色土　ロームブロック（径50mm）を多量に含む。ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10mm）を少量含む。
5　暗褐色土　ローム粒、ロームブロック（径10～100mm）、灰白色粘土ブロック（径10～100mm）を多量に含む。褐鉄鉱を微量に含む。
6　黒色土　ローム粒を微量に含む。やや砂質。
7　にぶい黄褐色土　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10～100mm）を多量に含む。黒色土ブロックを少量含む。
8　灰白色粘土　にぶい黄褐色土ブロック（径10～30mm）を微量に含む。
9　にぶい黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径50～200mm）を多量に含む。黒色粒子（径1～3mm）を少量含む。
10　にぶい黄褐色土　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径50～100mm）を多量に含む。
11　暗褐色土　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径50～80mm）を少量含む。
12　にぶい黄褐色土　ローム粒、ロームブロック（径10～100mm）、灰白色粘土ブロック（径10～100mm）を少量含む。
13　にぶい黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径50～200mm）を多量に含む。黒色粒子（径1～3mm）を少量含む。9に似る。
14　にぶい黄褐色土　灰白色粘土ブロック(径50～200mm)を多量に含む。ロームブロック（径10～30mm）、黒色粒子（径1～3mm）、褐鉄鉱を少量含む。
15　暗褐色土　灰白色粘土ブロック（径10～50mm）を多量に含む。黒色土を斑状に含む。11に似る。
16　にぶい黄褐色土　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10mm）を少量含む。
17　にぶい黄褐色土　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10mm）、褐鉄鉱を少量含む。
18　黒色土　ローム粒、ロームブロック（径30mm）を少量含む。
19　にぶい黄褐色土　**層厚主体。14に似る。**
20　にぶい黄褐色土　ローム粒、ロームブロック（径10mm）、灰白色粘土ブロック（径50～100mm）を多量に含む。黒色土を斑状に含む。
21　明黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径30～100mm）を多量に含む。黒色粒子（径1～3mm）、褐鉄鉱を少量含む。
22　にぶい黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径10mm）を多量に含む。黒色土を斑状に含む。13に似る。
23　褐色土と灰白色粘土ブロック
24　にぶい黄褐色土　ローム粒、ロームブロック（径10mm）、灰白色粘土ブロック（径10mm）を少量含む。20に似る。

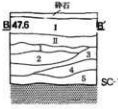
SC-19　土層説明

1　暗褐色土　ローム粒を少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒、ロームブロック（径20～30mm）を多量に含む。褐鉄鉱を微量に含む。
3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロック（径20～30mm）を少量含む。
4　暗褐色土　ロームブロック（径20～30mm）を多量に含む。褐鉄鉱を微量に含む。
5　黒色土　ローム粒を少量含む。やや砂質。
6　暗褐色土　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10mm）を少量含む。
7　黄褐色土　ロームブロック（径50～100mm）を大量に含む。灰白色粘土ブロック（径10mm）**を多量**に含む。
8　浅黄橙色土　灰白色粘土ブロック（径10mm）を少量含む。
9　にぶい黄褐色土　ローム粒、ロームブロック（径10～50mm）、灰白色粘土ブロック（径50～100mm）を多量に含む。

図16　SC-11・19







SC-12　土層説明

1　暗褐色土　ローム粒、ロームブロック（径10～30 mm）を少量含む。灰白色粘土ブロック（径10～20 mm）を多量に含む。

2　暗褐色土　ローム粒、灰白色粒を多量に含む。

3　暗褐色土　ローム粒、ロームブロック（径10～30 mm）を多量に含む。ローム粒を少量含む。

4　暗褐色土　にぶい黄褐色粘土ブロック（径10～50 mm）を多量に含む。黒色粒子（径1～3 mm）、褐鉄鉱を少量含む。

5　明黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径10 mm）を多量に含む。褐鉄鉱を含む。

6　淡黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径10～50 mm）を多量に含む。黒色粒子（径1～3 mm）、褐鉄鉱を少量含む。

7　明黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径10～50 mm）、にぶい黄褐色粘土ブロック（径10～50 mm）を含む。

8　にぶい黄褐色土　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径50～100 mm）、黒色粒子（径1～3 mm）を多量に含む。褐鉄鉱を微量に含む。

9　黒色土　ローム粒、ロームブロック（径10～30 mm）を少量含む。灰白色粘土ブロック（径10～20 mm）、にぶい黄褐色粘土ブロック（径10～50 mm）を含む。

10　褐色土と灰白色粘土ブロック

11　暗褐色土　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10～20 mm）を多量に含む。ロームブロック（径10～30 mm）を少量含む。

12　にぶい黄褐色土　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径50～100 mm）、黒色粒子（径1～3 mm）を多量に含む。褐鉄鉱を微量に含む。

13　にぶい黄褐色土　ローム粒、灰白色粘土粒を多量に含む。にぶい黄褐色粘土ブロック（径100 mm）を少量含む。黒色粒子（径1～3 mm）、褐鉄鉱を微量に含む。

14　にぶい黄褐色土　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径50～100 mm）、黒色粒子（径1～3 mm）を多量に含む。褐鉄鉱を微量に含む。

15　にぶい黄褐色土　ローム粒、灰白色粘土粒を多量に含む。にぶい黄褐色粘土ブロック（径100 mm）を少量含む。黒色粒子（径1～3 mm）、褐鉄鉱を微量に含む。

16　にぶい黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径10 mm）を少量含む。

17　にぶい黄褐色土　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径50～100 mm）、黒色粒子（径1～3 mm）を多量に含む。褐鉄鉱を微量に含む。

18　明黄褐色土　にぶい黄褐色粘土ブロック（径10～50 mm）を多量に含む。黒色粒子（径1～3 mm）、褐鉄鉱を少量含む。

19　淡黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径50～100 mm）を含む。

20　明黄褐色土　にぶい黄褐色粘土ブロック（径10～50 mm）を多量に含む。黒色粒子（径1～3 mm）、褐鉄鉱を少量含む。

21　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径50～100 mm）、黒色粒子（径1～3 mm）を含む。

22　にぶい黄褐色土　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径50～100 mm）、黒色粒子（径1～3 mm）を多量に含む。褐鉄鉱を微量に含む。

23　黄橙色土　褐鉄鉱を少量含む。

24　にぶい黄褐色土　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径50～100 mm）、黒色粒子（径1～3 mm）を多量に含む。褐鉄鉱を微量に含む。

25　褐色土と灰白色粘土ブロック

SC-18　土層説明

1　黒褐色土　ローム粒を多量、ロームブロック（径10 mm）を少量含む。

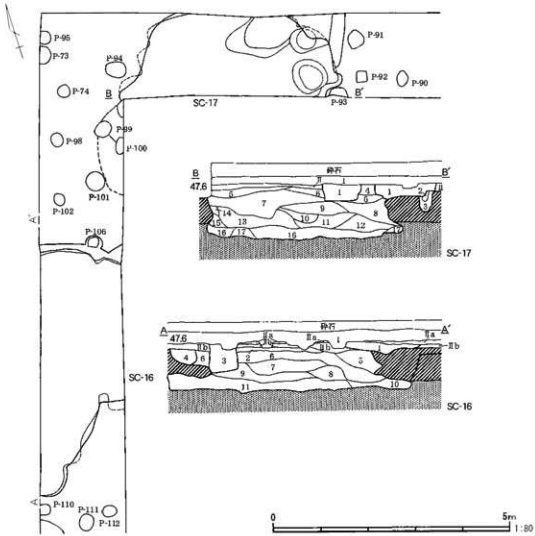
2　黒褐色土　ローム粒、ロームブロック（径10～50 mm）を多量に含む。灰白色粘土（径5 mm）を少量含む。

3　にぶい黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径50 mm）、黒色粒子（径2～3 mm）を多量に含む。

4　黄橙色土　灰白色粘土ブロック（径10 mm）を少量含む。

5　にぶい黄褐色土　灰白色粘土ブロック（径50～100 mm）を多量に含む。

図17　SC-12・18



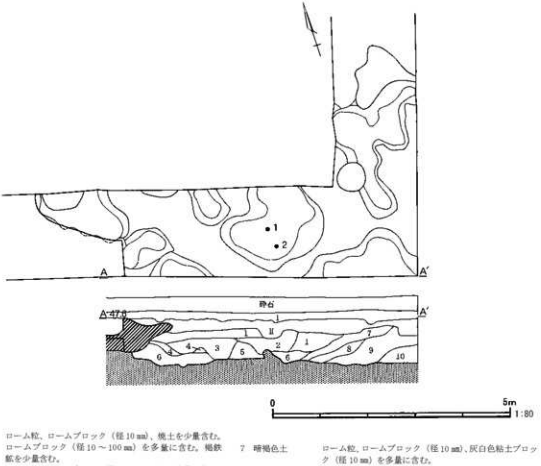
SC - 16　土層説明

1　暗褐色土　　ローム ブロック（径10㎜）、焼土粒を少量含む。砂利含む。
2　褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径10㎜）を多量に含む。褐色粒（径1㎜）を少量含む。
3　暗褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径10～30㎜）を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径10～20㎜）を少量含む。
4　暗褐色土　　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10～20㎜）を多量に含む。ロームブロック（径10～30㎜）を少量含む。
5　暗褐色土　　ローム粒を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径50～100㎜）、黒色粒子（径1～3㎜）を含む。
6　黒色土　　ローム粒、ロームブロック（径10～30㎜）を少量含む。灰白色粘土ブロック（径10～20㎜）、にぶい黄褐色粘土ブロック（径10～50㎜）を含む。
7　黒色土　　ロームブロック（径10～100㎜）を多量に含む。ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10～20㎜）を少量含む。
8　黄橙色土　　褐鉄鉱を少量含む。
9　明黄褐色土　　灰白色粘土ブロック（径10～50㎜）、にぶい黄褐色粘土ブロック（径10～50㎜）を含む。
10　褐色土と灰白色粘土ブロック
11　褐色土と灰白色粘土ブロック

SC - 17　土層説明

1　暗褐色土　　ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10～20㎜）を少量含む。焼土ブロック（径10㎜）、炭化物を含む。
2　褐灰色土　　焼土ブロック（径5㎜）を少量含む。やや砂質。
3　暗褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径10～30㎜）を多量に含む。褐鉄鉱を微量に含む。
4　暗褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径10～30㎜）、灰白色粘土ブロック（径10～20㎜）を多量に含む。褐鉄鉱、黒色粒子（径1～3㎜）を少量含む。
5　暗褐色土　　ローム粒を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径10～20㎜）を少量含む。炭化物を微量に含む。
6　にぶい黄褐色土　　ローム粒を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径5～10㎜）を少量含む。黒色粒子（径1～3㎜）を微量に含む。
7　暗褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径50～80㎜）を少量含む。
8　黒色土　　ローム粒、ロームブロック（径10～100㎜）を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径10～50㎜）を少量含む。
9　にぶい黄褐色土　　灰白色粘土ブロック（径10～50㎜）を少量含む。黒色土混じる。
10　黄褐色土　　灰白色粘土ブロック（径10～100㎜）を少量含む。黒色粒子（径1～3㎜）を微量に含む。
11　褐色土　　ロームブロックを少量含む。
12　浅黄橙色土　　Ⅳ・Ⅴ層が混じった土。
13　黄橙色土　　Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ層が混じった土。
14　暗褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径10㎜）を含む。
15　黄褐色土　　Ⅳ・Ⅴ層が若干混じった土。
16　褐色土と灰白色粘土ブロック
17　灰白色粘土　　埋土。

図18　SC - 16・17



SC - 20　土層説明

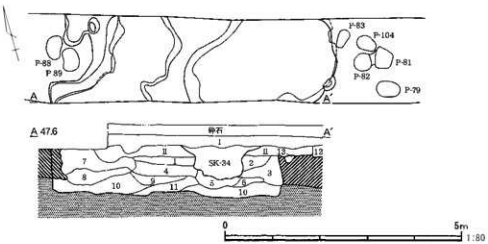
1　暗褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径10㎜）、焼土を少量含む。
2　黄橙色土　　ロームブロック（径10～100㎜）を多量に含む。褐鉄鉱を少量含む。
3　暗褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径10～50㎜）を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径30～50㎜）を含む。
4　浅黄橙色土　　Ⅲ・Ⅳ層の混合層。
5　明褐色土　　灰白色粘土ブロック（径10～30㎜）を含む。褐鉄鉱を微量に含む。
6　明褐色土　　灰白色粘土ブロック（径10～100㎜）を多量に含む。ロームブロック（径10㎜）を少量含む。
7　暗褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径10㎜）、灰白色粘土ブロック（径10㎜）を多量に含む。
8　にぶい黄褐色土　　ロームブロック（径10㎜）、灰白色粘土ブロック（径10㎜）、黒色粒子（径1～3㎜）、褐鉄鉱を少量含む。
9　にぶい黄褐色土　　ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径10～30㎜）、灰白色粘土ブロック（径50～100㎜）、黒色粒子（径1～3㎜）、褐鉄鉱を少量含む。
10　明褐色土　　灰白色粘土ブロック（径10㎜）、黒色粒子（径1～3㎜）、褐鉄鉱を少量含む。

図19　SC - 20

図20　SC - 12・20出土遺物

表1　SC出土遺物観察表

No.	器種	法量（cm）	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径（19.4） 底径 － 器高 －	胴部は大きく膨らむ。頸部で屈曲し、口縁部は彎曲気味に外反。粘土紐積み上げ成形。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	雲母・角閃石 内外面－にぶい橙色	口縁部～胴部上端1/4残存。
2	甕	口径 － 底径 － 器高 －	丸底。粘土紐積み上げ成形。	外面－胴部ヘラケズリ。内面－胴部ナデ、輪積み痕。	片岩・チャート 内面－明褐色、外面－にぶい黄橙色	胴部下半～底部残存。
3	中世土器 かわらけ	口径 7.5 底径 4.2 器高 2.0	体部は直線的に立ち上がる。底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	片岩・雲母 内外面－橙色	口縁部1/3欠損。



SC - 21　土層説明

1　浅黄褐色土　　ローム粒を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径10～50㎜）を多量に含む。黒色粒子（径1～3㎜）、褐鉄鉱を含む。
2　にぶい黄褐色土　ローム粒、ロームブロック（径10～30㎜）を多量に含む。黒色粒子（径1～3㎜）、褐鉄鉱を含む。
3　暗褐色土　　ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径10㎜）、灰白色粘土ブロック（径50～100㎜）を含む。
4　暗褐色土　　ローム粒、ロームブロック（径10～30㎜）、灰白色粘土ブロック（径10～20㎜）を少量含む。
5　黄褐色土　　灰白色粘土ブロック（径50㎜）を多量に含む。
6　黄褐色土　　灰白色粘土ブロック（径50㎜）を少量含む。褐鉄鉱を含む。
7　黄褐色土　　灰白色粘土ブロック（径10～20㎜）を微量に含む。皿層によく似る。崩落？
8　浅黄褐色土　　Ⅳ層に似る。崩落？
9　にぶい黄褐色土　ロームブロック（径30～50㎜）、灰白色粘土粒を少量含む。
10　褐色土と灰白色粘土ブロック
11　明黄褐色土　　灰白色粘土ブロック（径10～20㎜）を多量に含む。褐鉄鉱を少量含む。
12　暗褐色土　　ローム粒を多量に含む。焼土を微量に含む。
13　暗褐色土　　ローム粒、焼土ブロック（径10㎜）を含む。

図 21　SC - 21

を測る。

構造：西壁では弧状の掘削跡が連続し、オーバーハングして立ちあがる。底面は細かい起伏が見られ、灰白色粘土層の稜が見られる。各壁際では周囲より若干深く掘り込んでいる。

遺物：検出された粘土採掘坑で唯一、底面付近で遺物が確認された。１は甕の口縁部、２は胴部下半から底部である。

所属時期：古墳時代と考えられる。

SC - 21（図 21、表 12／写真図版９）

位置：２区北側に位置する。SC - 09 の西側、SC - 17 の東側で掘削される。

形状：平面形は不明である。開口部の最大幅 4.58 m、底面部の最大幅 4.60 m、残存深度 0.95 m を測る。

構造：東壁及び西壁は弧状の掘削跡が連続して見られ、オーバーハングしながら立ちあがる。底面部は細かい起伏が見られ、中央に若干の高まりを持つ。

遺物：検出されなかった。

所属時期：古墳時代と考えられる。

（2） 方形竪穴状遺構

方形竪穴状遺構は、総計２基を検出した。ただし、それぞれ一部のみの検出であったため実際に方形竪穴状遺構であるかどうかはやや疑問視されるところもある。しかしながら、SF - 01 のように隅に柱穴と考えられるピットが配置され上屋構造が想定されることや、方形状の土坑に比べ大型であること、床面が平坦であること、出土遺物の主体を中世土器が占める等の要因から、方形竪穴状遺構として扱った。

SF - 01（図 22・23、表２・13／写真図版９・16）

位置：１区の北東隅に位置する。

形状：平面形は長方形を呈する。確認された範囲で、長軸 4.0 m、短軸 0.6 mを測る。

構造：壁はほぼ垂直に立ち上がる。残存深度は 0.28 mを測る。底面は平坦で、硬化面は検出されなかった。覆土はロームブロック、焼土ブロックを含む暗褐色土を主体とする。床面の北東隅と南東隅にピットが存在する。ピットの覆土は褐色土と灰白色粘土ブロックを多量に含んでいた。

遺物：１はかわらけ、２は北宋銭である。２は元豊通宝（初鋳 1078 年）で床面直上から出土した。

所属時期：出土遺物から中世と考えられる。

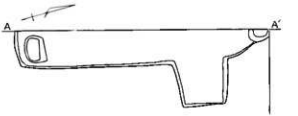


図 22　SF - 01

SF - 01　土層説明

1　暗灰色土
2　暗褐色土
3　暗褐色土
4　暗褐色土
5　暗褐色土
6　暗褐色土
7　暗褐色土
8　暗褐色土
9　褐色土
10　暗褐色土
11　暗褐色土
12　暗褐色土
13　褐色土と灰白色粘土ブロック

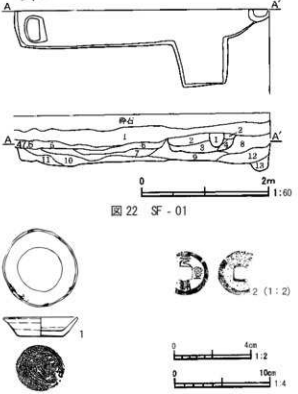


図 23　SF - 01 出土遺物

表２　SF - 01 出土遺物観察表

No.	器種	法量（cm）	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	中世土器 かわらけ	口径 8.0 底径 5.0 器高 2.1	体部は直線的に立ち上がる。底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	片岩・角閃石 内外面－橙色	完形。 口縁部にススが付着。
2	銅銭	径 2.4　厚さ 0.1　孔径 0.7　重さ 1.7g				「元豊通宝」

SF - 02（図24・25、表3・13／写真図版10・16）

位置：２区の南側中央に位置する。

形状：確認された範囲で隅丸長方形を呈し、長軸3.84 m、短軸0.64 mを測る。

構造：西壁、南壁はほぼ垂直に立ち上がるが、東壁は緩やかな角度をもって立ち上がる。残存深度0.95 mを測る。床面は灰白色粘土層に達しているが、硬化面およびピットは検出されていない。覆土はロームブロック、灰白色粘土ブロック、焼土ブロックを大量に含む暗褐色土を主体とし、西側より人為的に埋め戻された様子が窺える。焼土ブロックや焼土粒が多くみられるものの、本遺構の壁面及び床面では被熱した痕跡は確認されなかった。

遺物：焼土ブロックを主体とする層からかわらけと大量の炭化物が検出されている。ほぼ完形のかわらけ（１～４）は焼土ブロックを含む層中で検出されたが、被熱した痕跡がないことから埋没過程で入り込んだものと考えられる。５～７は覆土上層から出土している。また、覆土中層から炭化物が

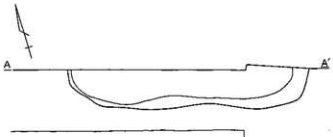


図24　SF - 02

SF - 02　土層説明

Ⅰ	褐灰色土	
1	暗褐色土	ロームブロック（径10 mm）を少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10 mm）を多量に含む。
3	黄橙褐色土	黄橙色粘土ブロックが主体で暗褐色土が混じる。
4	暗褐色土	ロームブロック（径20 mm）を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径10 mm）を少量含む。
5	暗褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10 mm）を少量含む。焼土ブロック（径10 mm）を微量に含む。
6	暗褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10 mm）を多量に含む。焼土ブロック(径10 mm)を微量に含む。
7	暗褐色土	焼土ブロック（径10 mm）、炭化物を含む。
8	暗褐色土	ロームブロック（径10 mm）、焼土ブロック（径20～30 mm）を少量含む。
9	赤褐色土	焼土ブロック（径100mm）が大量に堆積する。炭化物を多量に含む。
10	暗褐色土	硬化した暗褐色土ブロックが主体。小礫（10 mm）を少量含む。
11	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径100mm）、灰白色粘土ブロック(径10 mm)を少量含む。焼土ブロック（径10 mm）を微量に含む。
12	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径20 mm）、灰白色粘土ブロック（径10 mm）を少量含む。

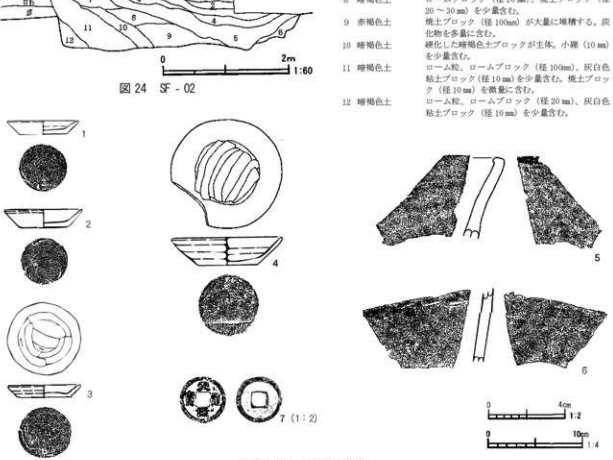


図25　SF - 02出土遺物

表３　SF－02 出土遺物観察表

No.	器　種	法量（cm）	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備　考
1	中世土器 かわらけ	口径 7.5 底径 5.0 器高 1.5	体部は直線的に立ち上がる。底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	雲母・角閃石 内面－にぶい橙色、外面－にぶい褐色	ほぼ完形。
2	中世土器 かわらけ	口径 8.2 底径 5.0 器高 1.9	体部は直線的に立ち上がる。底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	角閃石 内面－橙色、外面－にぶい赤褐色	ほぼ完形。
3	中世土器 かわらけ	口径 7.6 底径 5.4 器高 1.3	体部は直線的に立ち上がる。見込み周縁部が窪む。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。見込みにユビナデ。	チャート・角閃石 内面－にぶい橙色、外面－橙色	完形。
4	中世土器 かわらけ	口径 11.7 底径 6.3 器高 3.9	体部は内彎気味に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り後に、板状圧痕。見込みに直線的なユビナデ。	雲母 内外面－にぶい橙色	口縁部 1/6 欠損。
5	土　鍋	口径 － 底径 － 器高 －	体部は直線的に立ち上がり、口縁部が外傾する。口縁端部が短く内彎する。	体部ロクロ整形。	片岩 内面－にぶい黄橙色、外面－褐灰色	口縁部～体部小片。
6	甕	口径 － 底径 － 器高 －	体部は内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げ成形。	外面－ナデ、工具痕。内面－ナデ、輪積み痕。	多量の石英 内面－橙色、外面－明赤褐色	常滑。体部小片。
7	銅　銭	径 2.5　厚さ 0.1　孔径 0.7　重さ (2.3) g				「元豊通宝」

大量に出土しているが、樹種は不明である。

所属時期：出土遺物から中世と考えられる。

（３）　溝

溝は総計５条検出された。溝は、東西方向に走るものと南北方向に走るものに分けられる。これらはほぼ直線的に延びており、互いに交差する溝（SD-04・05）も確認されている。各溝においては砂の堆積など流水の痕跡が見られない事から区画溝（空堀）としての性格が考えられる。出土遺物が少量であり、各溝の所属時期を明確に判定することは難しいが、出土遺物は中世遺物が主体を占め、また As－A（浅間山Ａ軽石）混土が覆土上層に堆積していることから、各溝は中世の所産であると推測される。また、SD－01 の覆土中層から動物遺存体（ウマ）の下顎骨が単独で検出されている。

SD－01（図 26・27、表４・14／写真図版 10・17・20）

位置：１区西側に位置する。SK-07、SC-07･08 と重複し、SK-07 より旧く、SC-07･08 より新しい。

形状：確認された範囲で全長 30.37 m、上幅 0.48 m、下幅 0.26 m を測る。南北方向に延びており、主軸方位はＮ－78°－Ｅである。

構造：断面は台形を呈する。残存深度 0.40 m を測る。覆土はロームブロックと灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土を主体とする。また、遺構内南側では礫の集中する部分が認められた。

遺物：ごく少量であるが、覆土上層でかわらけ片や角閃石安山岩（３）が出土している。礫が集中していた部分では、縄紋時代の石器（１・２）が検出された。覆土中層から動物遺存体（ウマ）が良好な状態で検出された。出土部位は左右下顎骨と左右上顎歯列であり、上顎左右歯列は上から押し付けられるように下顎骨に被さった状態であった。精査したが、検出できた部位はこれのみである。

所属時期：時期は不明であるが、重複関係と覆土の状態から中世以降と考えられる。

SD－02（図 28・29、表５・14／写真図版 11・17・20）

位置：１区南側に位置する。SK－09 と重複し、本遺構が旧い。

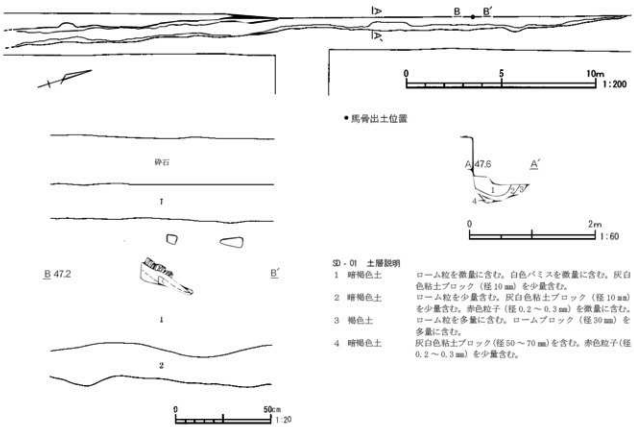


図26 SD-01及び馬骨出土測量図

形状：確認された範囲で全長14.45m、上幅0.33m、下幅0.28mを測る。主軸方位はN－8°－Wである。

構造：断面は台形を呈する。残存深度0.30mを測る。南東から北西方向へ延びているが、延長上にあたる1区東側では見られない。覆土上層では部分的に硬化面が検出された。硬化面は黄橙色粘質土が主体でロームブロックを多く含むことから、人為的に踏み固められたものと思われる。

遺物：覆土中よりかわらけ、青白磁、捕鉢、板碑、動物遺存体を検出した。1～4のかわらけは15世紀後半のものと考えられる。3・4では底部に板状圧痕が見られる。6は青白磁瓶の胴部である。流水文が見られる。7の板碑中央には梵字が刻まれている。蓮座は簡素化され、三日月状に刻まれている。動物遺存体は巻貝である。

所属時期：出土遺物から中世と考えられる。

SD-03（図28・30、表6・14／写真図版11・17・21）

位置：1区南側に位置する。SC-06と重複し、本遺構が新しい。SK-08の直前で収束する。

形状：長円形を呈し、全長6.75m、上幅1.55m、下幅1.13mを測る。主軸方位はN－10°－Eである。

構造：断面は箱状で壁際は急角度で立ち上がる。残存深度0.76mを測る。覆土は暗褐色土が主体で、上層には小礫が、下層ではロームブロックが多量に含まれる。

遺物：覆土中よりかわらけ、焙烙、陶器、板碑、銅・鉄製品、動物遺存体が検出されている。3～

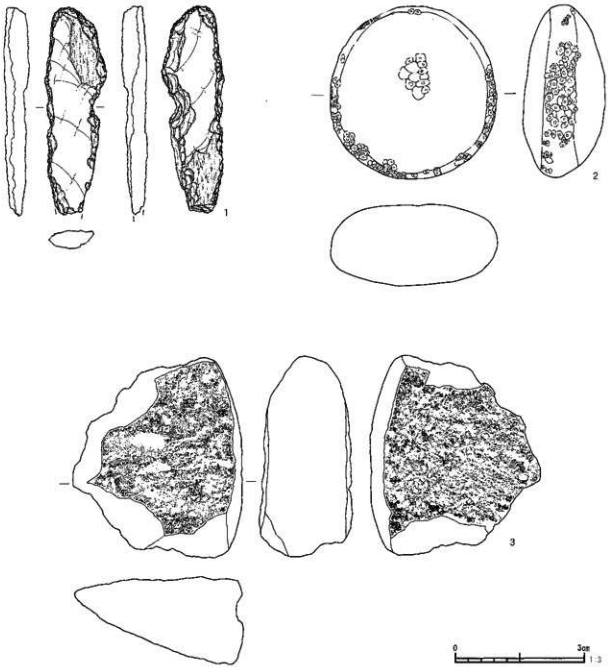
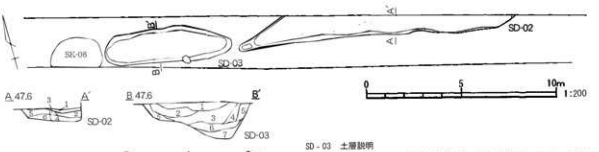


図 27　SD - 01 出土遺物

表 4　SD - 01 出土遺物観察表

No.	器　種	法量（cm）	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備　考
1	石　器	両側面に直接打撃による連続剥離。左側縁下半一部折損。長さ 16.4　幅 4.8　厚さ 1.9　重さ 177.0g				黒曜晶片岩。
2	石　器 用　石	敲打痕後、磨痕。長さ 13.7　幅 13.2　厚さ 6.5　重さ 1,553.3g				安山岩。
3	石室構築材	表面に工具痕。長さ 15.3　幅 13.4　厚さ 7.4　重さ 963.4g				角閃石安山岩。
4	**動物遺存体**					ウマ



SD - 02　土層説明

1	黄橙色粘質土	人為的に踏み固めている。硬化面。
2	黄橙色粘質土	黄橙色ローム主体。黒色土少量含む。
3	黄橙色粘質土	暗褐色土がブロック状に混じる。
4	暗褐色土	ロームブロック（径20～100mm）を多量に含む。
5	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径10mm）、炭化物（径10mm）を少量含む。
6	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10mm）、赤色粒子（径0.2～0.3mm）、黒色粒子（径0.1～0.3mm）、炭化物（径10mm）を少量含む。

SD - 03　土層説明

1	灰褐色土	ローム粒を少量含む。小礫（径20～40mm）、砂利を多く含む。白色パミス、赤色粒子（径0.2～0.3mm）を微量に含む。
2	暗褐色土	ロームブロック（径10mm）、灰白色粘土ブロック（径10mm）、小礫（10mm～50mm）、を少量含む。
3	暗褐色土	ローム粒、小礫（径20～50mm）を微量に含む。灰白色粘土ブロック（径10mm）を少量含む。
4	暗褐色土	ローム粒を少量含む。小礫（径30mm）を微量に含む。
5	黒色土	ローム粒、にぶい黄橙色粘土ブロック（径10mm）を少量含む。
6	黄橙色土	灰白色粘土ブロック（径10mm）、暗褐色土を少量含む。
7	にぶい黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径50～100mm）を多量に含む。黒色土が斑状に混じる。

図28　SD - 02・03

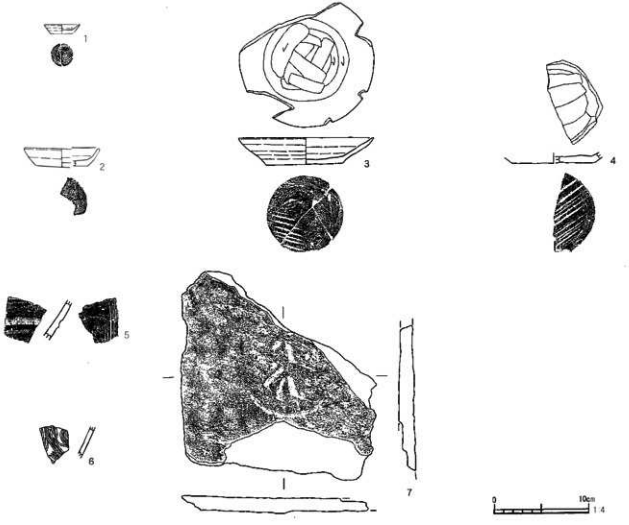


図29　SD - 02出土遺物

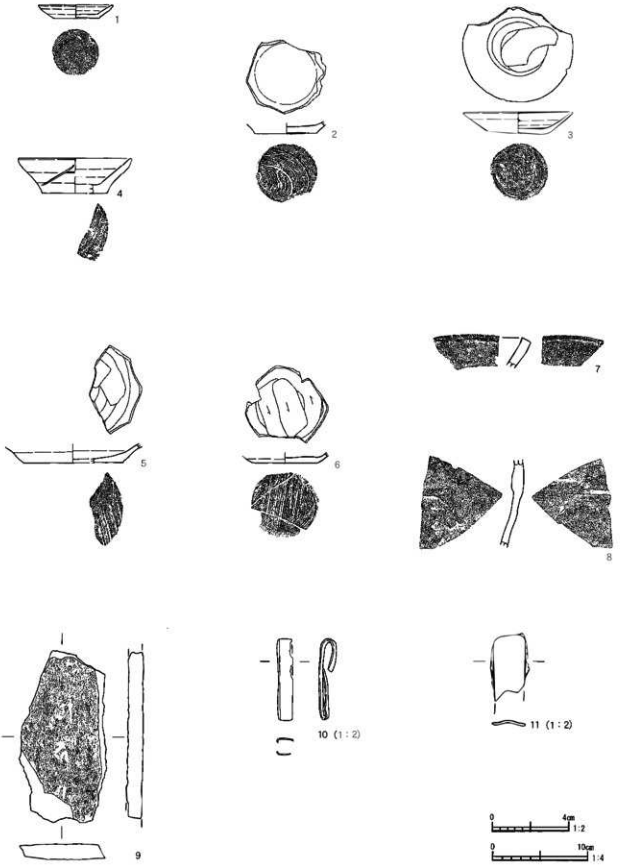


図 30　SD - 03 出土遺物

表5　SD－02 出土遺物観察表

No.	器　種	法量（cm）	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備　考
1	中世土器 かわらけ	口径（3.7） 底径 2.3 器高 1.1	体部は直線的に立ち上がる。見込み周縁部がやや窪む。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	雲母・角閃石 内外面－橙色	口縁部 2/3 欠損。
2	中世土器 かわらけ	口径（7.9） 底径（5.3） 器高 1.9	体部は内彎気味に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	角閃石 内外面－橙色	口縁部～底部 1/4 残存。
3	中世土器 かわらけ	口径 14.2 底径 8.0 器高 2.9	体部は直線的に立ち上がる。見込み周縁部がやや窪む。底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り後に、板状圧痕。見込みに直線的なユビナデ。	片岩・角閃石 内外面－橙色	口縁部 1/3 欠損。
4	中世土器 かわらけ	口径 － 底径（8.5） 器高 －	見込み周縁部が窪む。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り後に、板状圧痕。見込みに直線的なユビナデ。	角閃石 内外面－橙色	底部 1/2 残存。
5	擂　鉢	口径 － 底径 － 器高 －	体部は直線的に開く。	体部ロクロ整形。内面－櫛目。	白色粒 内面－暗赤褐色、外面－にぶい赤褐色	瀬戸。体部小片。
6	青白磁 瓶	口径 － 底径 － 器高 －	体部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。外面－印刻。	夾雑物なし 内面－白灰色、外面－明緑灰色	体部小片。
7	板　碑	表面に印刻。両側面に加工痕。残存長 20.7　残存幅 21.8　厚さ 1.9　重さ 1,182.4g				緑泥片岩。
8	動物遺存体	重さ 99.8g				貝殻。

表6　SD－03 出土遺物観察表

No.	器　種	法量（cm）	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備　考
1	中世土器 かわらけ	口径 7.9 底径 4.9 器高 1.4	体部は直線的に立ち上がる。見込み周縁部が窪む。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	角閃石 内外面－橙色	完形。
2	中世土器 かわらけ	口径 － 底径 6.4 器高 －	体部は内彎気味に立ち上がる。底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	角閃石 内外面－橙色	体部下半～底部残存。
3	中世土器 かわらけ	口径 11.5 底径 5.8 器高 2.3	体部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。見込みにユビナデ。	チャート・角閃石 内外面－橙色	口縁部 1/3 欠損。
4	中世土器 かわらけ	口径（12.1） 底径（7.0） 器高 3.7	体部は直線的に立ち上がる。底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。外面－圧痕。底部回転糸切り。	チャート・角閃石 内外面－橙色	口縁部～底部 1/5 残存。
5	中世土器 かわらけ	口径 － 底径（10.6） 器高 －	体部は直線的に立ち上がる。底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り後に、板状圧痕。見込みにユビナデ。	チャート・角閃石 内面－にぶい橙色、外面－橙色	体部下半～底部 1/5 残存。
6	中世土器 かわらけ	口径 － 底径 6.9 器高 －	体部は内彎気味に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り後に、板状圧痕。見込み中央に直線的なユビナデ。	片岩 内外面－にぶい橙色	底部残存。
7	焙焙	口径 － 底径 － 器高 －	口縁部が外傾する。	体部ロクロ整形。口縁端部に稜。	内面－灰色、外面－暗灰色	口縁部小片。
8	甕	口径 － 底径 － 器高 －	体部は内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げ成形。	外面－ナデ、輪積み痕。内面－ナデ。	多量の石英 内面－灰色、外面－にぶい赤褐色	常滑。体部小片。
9	板　碑	表面に印刻。長さ（18.3）　幅（8.9）　厚さ 1.9　重さ 526.2g				緑泥片岩。
10	銅製品	長さ 4.3　幅 0.8　厚さ 0.9　重さ 2.6g				
11	鉄製品	長さ（3.5）　幅 1.8　厚さ 0.3　重さ 4.09g				
12	動物遺存体	重さ 117.6g				貝殻。

6のかわらけは体部を均等に打ち欠いているように見え、故意的なものを想定させる。5・6のかわらけ底部には板状圧痕が見られる。8は常滑焼の甕胴部片である。9は板碑で、梵字が刻まれている。10は銅製の留め金と考えられる。動物遺存体は巻貝で、SD-02と同様のものである。

所属時期：中世と考えられる。

SD－04（図29・30、表7・14／写真図版11・12・18）

位置：2区南側に位置する。SD－05、SK－22と重複し、両遺構よりも新しい。

形状：確認された範囲で全長 9.95 m、上幅 1.15 m、下幅 0.33 m を測る。主軸方位はN－27°－

Eである。

構造：北西から南東に延びる。西側は西側調査区外へさらに延びているが、東側は調査区内でその延長を確認することはできなかった。断面は台形を呈し、残存深度 0.76 mを測る。覆土は暗褐色土を主体とし、上層に小礫、下層にローム ブロック、炭化物を含む。

遺物：1の鉢は施釉陶器の鉢である。

所属時期：中世と考えられる。

SD - 05（図 31、表 14／写真図版 12）

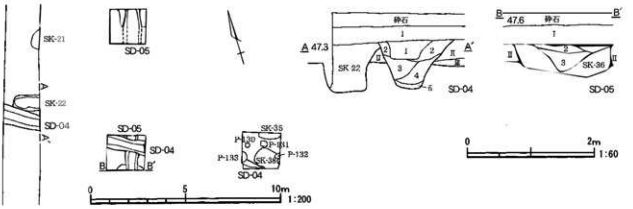
位置：2区南側に位置する。SK - 39、SD - 04 と重複し、SK - 39 より新しく、SD - 04 より旧い。

形状：確認された範囲で全長 8.20 m、上幅 0.74 mを測る。主軸方位はN - 75° - Eである。

構造：北東から南西に延びる。断面はV字を呈し、壁際は緩やかに立ち上がる。残存深度 0.43 m を測る。

遺物：検出されなかった。

所属時期：重複関係から中世と考えられる。



SD - 05　土層説明

1	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径 10 mm）を少量含む。やや砂質。
2	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径 10 mm）を少量含む。赤色粒子（径 2 ～ 3 mm）を微量に含む。やや砂質。
3	暗褐色土	ロームブロック（径 10 mm）、灰白色粘土ブロック（径 10 mm）を少量含む。やや砂質。

SD - 04　土層説明

1	暗灰色土	ローム粒を少量含む。白色パミス(径 1 mm)を含む。焼土、炭化物を微量に含む。小礫（径 10 mm）を含む。
2	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。焼土（径 10 mm）、炭化物（径 1 mm）を少量含む。鳴鉄鉱を含む。
3	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。焼土（径 10 mm）、炭化物（径 1 mm）を少量含む。鳴鉄鉱を含む。
4	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径 10 ～ 50 mm）を多量に含む。炭化物（径 1 mm）を少量含む。
5	にぶい黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径 100mm）を含む。

図 31　SD - 04・05

図 32　SD - 04 出土遺物

表 7　SD - 04 出土遺物観察表

No.	器　種	法量（cm）	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備　考
1	鉢	口径　－ 底径　－ 器高　－	体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は直線的に外傾する。	体部ロクロ整形。	多量の石英 内外面－灰色。	口縁部～体部小片。

（4） 井戸

井戸は総計１基検出した。井筒痕跡は確認できないことから素掘り井戸であったと推測される。また、井桁構造も検出されなかった。調査した深度では湧水は見られず、中層において「あぐり」と呼ばれる膨らみも見られなかった。

SW - 01（図 33・34、表 8・15／写真図版 12・18）

位置：１区北東側に位置する。

形状：平面形はほぼ円形を呈する。上端部で直径 1.05 m ～ 1.12 mを測る。

構造：残存深度は２m以上を測り、上端部は漏斗状に広がる。上層の覆土は小礫を含む暗褐色土で、壁際や中層ではロームブロック、灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土の堆積といった、人為的な埋め戻し痕跡も認められた。

遺物：主に覆土上層から中層にかけてかわらけ片が多く検出された。１・２のかわらけは 15 世紀後半のものと考えられる。３は焙烙、４は擂鉢の底部、５の鉄製品は釘である。

所属時期：中世と考えられる。

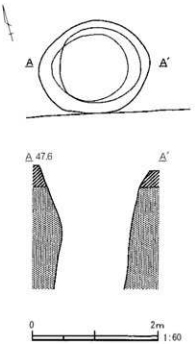


図 33　SW - 01

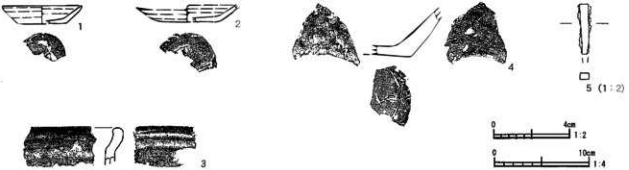


図 34　SW - 01 出土遺物

表 4　SW - 01 出土遺物観察表

No.	器　種	法量（cm）	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備　考
1	中世土器 かわらけ	口径 (8.4) 底径 (5.2) 器高 2.4	体部は直線的に立ち上がる。底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部右回転糸切り。	角閃石 内外面－黒褐色	口縁部～底部 1/4 残存。
2	中世土器 かわらけ	口径 － 底径 (6.4) 器高 －	体部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	片岩 内外面－灰黄褐色	口縁部～底部 1/3 残存。
3	焙烙	口径 － 底径 － 器高 －	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は内彎する。口縁端部が短く内彎する。	体部ロクロ整形。	雲母 内面－灰黄色、外面－褐灰色	口縁部～体部小片。
4	擂　鉢	口径 － 底径 － 器高 －	体部は直線的に開く。	体部ロクロ整形。外面－指頭痕。底部回転糸切り。	角閃石 内面－灰黄色、外面－ぶい黄橙色	体部～底部小片。

（5） 土坑

土坑は総計48基を検出した。1区では北側に集中して分布するが、2区では特定の分布はなく各所に及ぶ。形状は隅丸長方形が主体で、楕円形や不整円形が見られる。覆土は焼土と炭化物を多く含むものが主体である。遺物はかわらけや板碑片等が大半であるがその総数は少なく、各土坑すべてにおいて遺物が確認されているわけではない。所属時期は出土遺物と遺構の重複関係から判断した。

個別にみると、SK-23、28、29、40は掘り込みが深く柱穴と考えられるが、柱痕は認められなかった。SK-30、31、44等は円形で、規模もほぼ同一である。SK-30、44は隣接しているため、柱穴列の可能性が考えられる。SK-03、18は底面が灰白色粘土層まで達している。SK-28と合わせ覆土上層に灰白色粘土が堆積しており、埋め戻しの痕跡が確認できる。SK-48では底面において動物遺存体（ウマ）が検出され、埋葬したと考えられる埋め戻し痕跡が窺えた。検出時点で動物遺存体は原形を留めていたが、非常にもろく取り上げの際形状を留めることはできなかった。本土坑とSD-01出土の動物遺存体のほか、調査区域外にもさらに検出されることが予想される。

SK-01（図35、表9・16）

位置：1区北東側に位置する。

形状：確認された範囲で、長軸1.58 m、短軸0.28 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度0.54 mを測る。覆土はロームブロックを含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

所属時期：覆土の状態から中世と考えられる。

SK-02（図35、表16）

位置：1区北東側に位置する。

形状：確認された範囲で、長径0.68 m、短径0.35 mを測り、円形を呈する。

構造：断面は凹字形で、傾斜を持って立ち上がる。残存深度0.63 mを測る。覆土はロームブロックを多量に含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

所属時期：覆土の状態から中世と考えられる。

SK-03（図35、表16／写真図版12）

位置：1区北東側に位置する。P-43と重複し、本遺構が新しい。

形状：確認された範囲で、長径0.68 m、短径0.74 mを測り、円形を呈する。

構造：断面はU字形で、緩やかに立ち上がる。残存深度0.82 mを測る。覆土はロームブロック、白色パミスをわずかに含む暗褐色土である。

遺物：覆土中からかわらけ片が数点出土している。

所属時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 04（図 35・42、表 9・16／写真図版 13・19）

位置：1 区北東側に位置する。P - 12 に切られる。

形状：確認された範囲で、長軸 1.95 m、短軸 0.68 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.65 mを測る。覆土はロームブロック、灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土である。

遺物：覆土中よりかわらけ等が少量検出されている。図 42 - 1 は管状土製品である。

所属時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 05（図 35・42、表 9・16／写真図版 19）

位置：1 区北東側に位置する。

形状：長軸 1.27 m、短軸 1.04 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、垂直に立ちあがる。底面は平坦で残存深度 1.20 mを測る。覆土はロームブロックを含む暗褐色土を主体とするが、上層では灰白色粘土ブロック層がみられ、人為的に埋め戻された痕跡が窺える。

遺物：覆土中よりかわらけ、北宋銭が検出されている。1 は元豊通宝である。

所属時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 06（図 35、表 16）

位置：1 区北西側に位置する。SC - 03 と重複し、本遺構が新しい。

形状：長径 0.98 m、短径 0.80 mを測り、円形を呈する。

構造：断面は凹字形で、緩やかな角度で立ち上がる。残存深度 0.37 mを測る。覆土はロームブロックを含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

所属時期：重複関係と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 07（図 35、表 16／写真図版 13）

位置：1 区南西部に位置する。SD - 01 と重複し、本遺構が新しい。

形状：長径 0.75 m、短径 0.66 mを測り、楕円形を呈する。

構造：断面は凹字形で、急角度で立ち上がる。残存深度 0.16 mを測る。覆土はローム粒を含む暗褐色土である。

遺物：覆土中から中世陶器と 10 ㎝程度の小礫が密集して検出されている。

所属時期：重複関係から中世以降の可能性が考えられる。

SK - 08（図 35・42、表 9・16／写真図版 13・19）

位置：1 区南側に位置する。SC - 06 と重複し、本遺構が新しい。

形状：確認された範囲で、長径 2.73 m、短径 2.54 mを測り、楕円形を呈する。

構造：断面は凹字形で、傾斜をもって立ち上がる。残存深度 0.36 mを測る。覆土は上下層に大別さ

れ、上層は褐灰色土で灰白色粘土ブロックと砂礫を含む。下層はローム粒を含む暗褐色土である。

遺物：覆土から中世土器が多く検出されている。1～4はかわらけ、5は焙烙、6は板碑である。

所属時期：出土遺物と重複関係、覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 09（図 36・42、表 9・16／写真図版 19）

位置：1区南側に位置する。SD - 02と重複し、本遺構が新しい。

形状：確認された範囲で、一辺 0.95 mを測り、方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、垂直に立ち上がる。残存深度 0.28 mを測る。覆土は上下層に分かれ、上層は白色パミスを含む褐灰色土、下層は暗褐色土である。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。1はかわらけである。

所属時期：出土遺物と重複関係から中世以降と考えられる。

SK - 10（図 36、表 16）

位置：1区北東側に位置する。

形状：確認された範囲で、直径 0.68 mを測り、円形を呈する。

構造：断面は凹字形で、傾斜をもって立ち上がる。残存深度 0.18 mを測る。覆土はにぶい黄褐色粘土ブロックを含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

所属時期：覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 11（図 36、表 16）

位置：1区東側に位置する。

形状：確認された範囲で、直径 0.78 mを測り、円形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.17 mを測る。覆土はにぶい黄褐色粘土ブロックを含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

所属時期：覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 12（図 36、表 16）

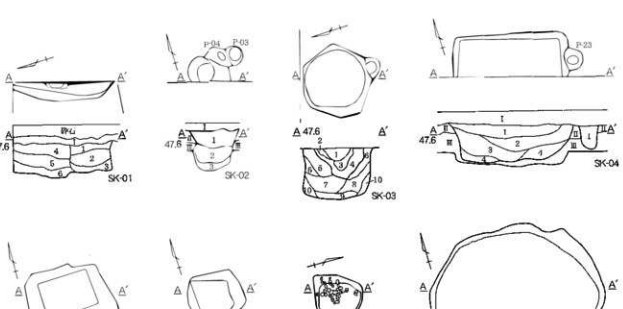
位置：1区南側に位置する。

形状：確認された範囲で、長軸 1.25 m、短軸 1.21 mを測り、隅丸方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、傾斜をもって立ち上がる。残存深度は 0.17 mを測る。覆土は上層に焼土と炭化物を含む暗褐色土、下層に灰白色粘土ブロックを多量に含む暗褐色土である。上層は後世の盛土と考えられ、盛土直下が灰白色粘土層（Ⅶ層）となる。本遺構は粘土採掘坑の一部の可能性も考えられる。

遺物：検出されなかった。

所属時期：不明である。粘土採掘坑とすると古墳時代と考えられる。



SK - 01　土層説明

Ⅰ	褐灰色土	白色パミスを少量含む。
1	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径20㎜）を多量に含む。
2	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10～30㎜）を多量に含む。
3	暗褐色土	ロームブロック（径10～30㎜）、白色粘土粒（径1㎜）を少量含む。
4	黒褐色土	ロームブロック（径10㎜）を少量含む。黒色粒子（径1～3㎜）を微量含む。
5	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10～30㎜）を多量に含む。
6	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10㎜）を多量に含む。黒色粒子（径1～3㎜）、赤色粒子（径2～3㎜）を微量に含む。

SK - 02　土層説明

1	暗褐色土	ローム粒（径20～50㎜）を含む。白色パミスを少量含む。赤色粒子（径2～3㎜）を微量に含む。
2	暗褐色土	ロームブロック（径10～30㎜）、白色パミス、赤色粒子（径2～3㎜）を微量に含む。
3	褐色土	ロームブロック（径30～60㎜）を多量に含む。鉄分沈着が見られる。

SK - 03　土層説明

1	灰褐色土	白色パミスを少量含む。にぶい黄橙色粘土ブロック（径10～50㎜）、黒色粒子（径1～3㎜）、赤色粒子（径2～3㎜）を少量含む。
2	灰褐色土	にぶい黄橙色粘土ブロック（径10～50㎜）を含む。白色パミス、赤色粒子（径2～3㎜）、炭化物を微量に含む。
3	灰褐色土	ローム粒、にぶい黄橙色粘土ブロック（径50㎜）を多量に含む。
4	灰白色粘土	粘土層。
5	灰褐色土	ローム粒を多量に含む。炭化物（径10㎜）を少量含む。
6	にぶい黄褐色土	ローム粒（径1㎜）、にぶい黄橙色粘土粒を多量に含む。炭化物（径10㎜）を少量含む。
7	黒褐色土	にぶい黄橙色粘土ブロック（径10㎜）、黒色粒子（径1～3㎜）、赤色粒子（径2～3㎜）、炭化物（径10㎜）を少量含む。
8	黒褐色土	にぶい黄橙色粘土ブロック（径10㎜）を少量含む。黒色粒子（径1～3㎜）、赤色粒子（径2～3㎜）、炭化物（径10㎜）を微量に含む。
9	灰褐色粘質土	黒色粒（径0.1～0.3㎜）を少量含む。やや砂質。
10	灰褐色粘質土	にぶい黄橙色粘土ブロック（径10～30㎜）を含む。黒色粒を少量含む。やや砂質。

SK - 04　土層説明

1	暗褐色土	ローム粒（径0.2～0.5㎜）、白色粘土粒（径1㎜）を少量含む。赤色粒子（径2～3㎜）、炭化物（径10㎜）を微量に含む。
2	暗褐色土	ロームブロック（径10～80㎜）を多量に含む。赤色粒子（径2～3㎜）、炭化物（径10㎜）を少量含む。
3	暗褐色土	にぶい黄橙色粘土ブロック（径10～100㎜）を含む。黒色粒子（径1～3㎜）、赤色粒子（径1㎜）を少量含む。やや砂質。
4	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径10㎜）を少量含む。にぶい黄橙色粘土ブロック（径50㎜）を含む。

SK - 05　土層説明

1	暗褐色土	にぶい黄橙色粘土ブロック（径10㎜）、白色パミス、黒色粒子（径1～3㎜）、赤色粒子（径2～3㎜）、炭化物（径10㎜）を少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒、炭化物（径10㎜）を少量含む。ロームブロック（径10㎜）を含む。
3	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10～30㎜）、にぶい黄橙色粘土ブロック（径10㎜）を多量に含む。炭化物（径10㎜）を微量に含む。
4	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。赤色粒子（径2～3㎜）、炭化物（径10㎜）を少量含む。
5	暗褐色土	白色パミスを微量に含む。にぶい黄橙色粘土ブロック（径10㎜）、赤色粒子（径2～3㎜）、炭化物（径10㎜）を多量に含む。やや砂質味あり。
6	暗褐色土	ロームブロック（径10㎜）を多量に含む。砂利を少量含む。
7	黒褐色土	ローム粒を含む。赤色粒子（径0.2～0.3㎜）、炭化物（径10㎜）を少量含む。
8	暗褐色土	ロームブロック（径10～20㎜）、にぶい黄橙色粘土ブロック（径10㎜）を含む。やや砂質味あり。
9	黄褐色土	炭化物（径10㎜）を少量含む。やや砂質味あり。
10	黒褐色土	ローム粒を含む。炭化物（径10㎜）を含む。砂利を微量に含む。
11	にぶい黄褐色土	ロームブロック（径10㎜）を含む。にぶい黄橙色粘土ブロック（径10㎜）を少量含む。
12	黒褐色土	ローム粒を少量含む。にぶい黄橙色粘土ブロック（径10㎜）を含む。
13	黒褐色土	赤色粒子（径2～3㎜）、炭化物（径10㎜）を少量含む。

図35　SK - 01 ～ SK - 08

SK - 13（図 36、表 16）

位置：１区南側に位置する。

形状：確認された範囲で、長軸 0.90 m、短軸 0.63 mを測り、隅丸方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.66 mを測る。覆土には灰白色粘土ブロックを多量に含む暗褐色土とローム粒を含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

所属時期：覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 14（図 36、表 16）

位置：１区南西側に位置する。

形状：確認された範囲で、長径 1.09 m、短径 0.36 mを測り、楕円形を呈する。

構造：断面は皿状で、やや傾きをもって立ち上がる。残存深度 0.30 mを測る。覆土は黄橙色土と黒色土、暗褐色土の互層となっており、人為的な埋め戻し痕跡が見られる。

遺物：検出されなかった。

所属時期：不明である。

SK - 15（図 36、表 16）

位置：１区南側に位置する。

形状：確認された範囲で、長軸 1.62 m、短軸 1.13 mを測り、不整円形を呈する。

構造：断面はフラスコ形で、東壁はオーバーハングして立ち上がる。残存深度は 0.90 mを測る。覆土上層はロームブロックを多量に含む暗褐色土、覆土下層はにぶい黄褐色粘土ブロックと灰白色粘土ブロックを含む褐色土である。特に下層は人為的な埋め戻し痕跡が窺え、堆積状況が粘土採掘坑の堆積状況と類似していることから、本土坑は粘土採掘坑の一部である可能性が考えられる。

遺物：検出されなかった。

所属時期：不明である。ただし、粘土採掘坑とすれば古墳時代の可能性がある。

SK - 16（図 36、表 16）

位置：１区南西側に位置する。

形状：直径 0.60 ～ 0.66 mを測り、円形を呈する。

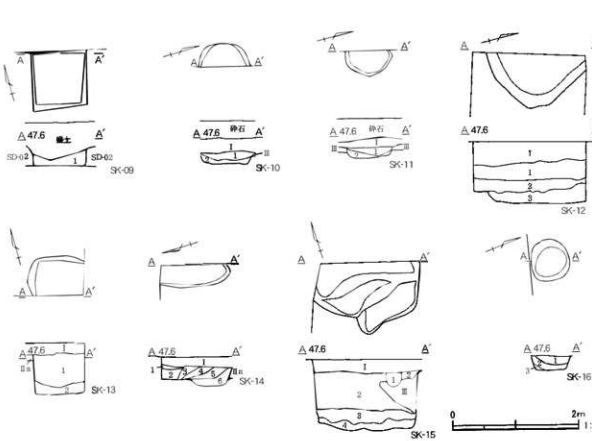
構造：断面は凹字形で、やや傾きをもって立ち上がる。残存深度 0.23 mを測る。覆土はローム粒を含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

所属時期：覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 17（図 37・42、表９・16 ／写真図版 19）

位置：１区南東側に位置する。



SK - 06　土層説明

1	暗褐色土	ローム粒、炭化物（径10 mm）を少量含む。ロームブロック（径10 mm）を含む。
2	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。赤色粒子（径2～3 mm）、炭化物（径10 mm）を少量含む。
3	黒褐色土	ロームブロック（径10 mm）を少量含む。黒色粒子（径1～3 mm）を微量含む。
4	にぶい黄褐色土	灰白色粘土粒（径5 mm）、灰白色粘土ブロック（径50 mm）を多量に含む。赤色粒子（径2～3 mm）を微量に含む。

SK - 07　土層説明

1	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。
2	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。黒色粒子（径1～3 mm）を少量含む。
3	にぶい黄褐色土	灰白色粘土粒（径5 mm）、灰白色粘土ブロック（径50 mm）を多量に含む。赤色粒子（径2～3 mm）を微量に含む。

SK - 08　土層説明

1	灰褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10 mm）、焼土、炭化物（径10 mm）を少量含む。白色パミスを微量に含む。
2	灰褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10 mm）を少量含む。小礫（5～10 cm）、砂利を多量に含む。
3	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径10 mm）、黒色粒子（径1～3 mm）、赤色粒子（径2～3 mm）を少量含む。
4	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。にぶい黄橙色粘土ブロック（径50～90 mm）、赤色粒子（径2～3 mm）、炭化物（径10 mm）を少量含む。
5	にぶい黄褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10～30 mm）、灰白色粘土ブロック（径10 mm）を多量に含む。砂利含む。
6	暗褐色土	ロームブロック（径30 mm）、赤色粒子（径2～3 mm）を少量含む。
7	にぶい黄褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10 mm）を多量に含む。

SK - 09　土層説明

1	灰褐色土	ローム粒、白色パミスを少量含む。

SK - 10　土層説明

I	暗灰色土	
1	暗褐色土	ロームブロック（径10～50 mm）を多量に含む。にぶい黄橙色粘土ブロック（径10 mm）を少量含む。
2	黄橙色粘土	暗褐色土が斑状に混じる。炭化物を少量含む。

SK - 11　土層説明

I	暗灰色土	
1	暗褐色土	ロームブロック（径10～50 mm）を多量に含む。にぶい黄橙色粘土ブロック（径10 mm）を少量含む。
2	黄橙色粘土	暗褐色土が斑状に混じる。炭化物を少量含む。

SK - 12　土層説明

I	暗灰色土	
1	暗褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10 mm）、赤色粒子（径2～3 mm）を多量に含む。
2	暗褐色土	ローム粒、炭化物（径10 mm）を少量含む。焼土を微量に含む。
3	暗褐色土	灰白色粘土ブロック（径10 mm）を多量に含む。炭化物（径10 mm）を少量含む。

SK - 13　土層説明

I	暗灰色土	
1	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10 mm）、灰白色粘土ブロック（径10 mm）を多量に含む。
2	黒褐色土	ローム粒を多量に含む。砂質。

SK - 14　土層説明

I	暗灰色土	
1	黄褐色粘質土	ロームブロック（径10～50 mm）を大量に含む。
2	黒色土	ローム粒を微量に含む。砂質。白色パミスを微量に含む。
3	にぶい黄褐色土	ローム粒を多量に含む。白色パミスを微量に含む。
4	黄橙色土	ロームブロック（径10～50 mm）を大量に含む。
5	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10～50 mm）を少量含む。
6	黄橙色土	ロームブロック（径10～50 mm）を少量含む。黒色粒子（径1～3 mm）を微量に含む。やや砂質。

SK - 15　土層説明

1	暗褐色土	ローム粒を微量に含む。
2	暗褐色土	ロームブロック（径10～50 mm）を少量含む。褐色土含む。
3	にぶい黄褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径10～20 mm）を少量含む。
4	褐色土と灰白色粘土ブロック	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径10～20 mm）を少量含む。しまり・粘性ともにやや強い。

SK - 16　土層説明

1	暗褐色土	ロームブロック（径10～50 mm）を少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10～50 mm）を少量含む。
3	黄褐色粘質土	壁面崩落土。

図36　SK - 09 ～ SK - 16

形状：確認された範囲で、長軸 1.13 m、短軸 0.59 mを測り、楕円形を呈する。

構造：断面は皿状で、緩やかな角度で立ち上がる。残存深度 0.20 mを測る。覆土は灰白色粘土ブロックを含む黒褐色土と暗褐色土である。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。1はかわらけの底部である。

所属時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 18（図 37・42、表 9・16／写真図版 14・19）

位置：2区西側に位置する。

形状：確認された範囲で、長軸 1.35 m、短軸 1.00 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、やや開きながら急角度で立ち上がる。残存深度 0.73 mを測る。覆土は上層にロームブロックと焼土ブロックを含む暗褐色土、下層に灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土である。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。1はかわらけで、内面に煤が付着している。2は擂鉢である。

所属時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 19（図 37、表 16／写真図版 14）

位置：2区西側に位置する。

形状：長軸 1.28 m、短軸 0.65 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.37 mを測る。覆土は灰白色粘土ブロックを含む黒褐色土と暗褐色土である。

遺物：覆土から中世土器が少量検出されている。1はかわらけの底部である。

所属時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 20（図 37、表 16）

位置：2区西側に位置する。SC - 20 と重複し、本遺構が新しい。

形状：長軸 0.96 m、短軸 0.76 mを測り、楕円形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.48 mを測る。覆土はロームブロックと焼土ブロック、炭化物を含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

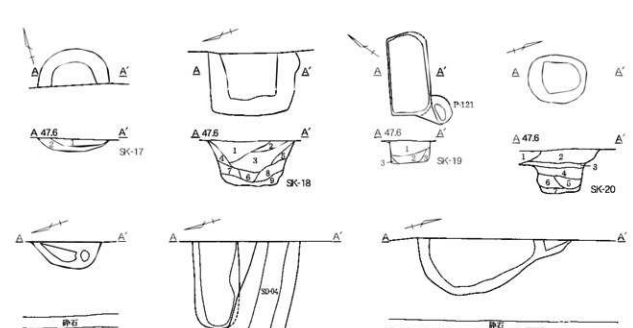
所属時期：重複関係と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 21（図 37、表 16）

位置：2区西側に位置する。SC - 20 と重複し、本遺構が新しい。

形状：確認された範囲で長軸 1.20 m、短軸 0.41 mを測り、楕円形を呈する。

構造：断面は凹字形で、急角度で立ち上がる。残存深度 0.78 mを測る。覆土はロームブロック、灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土である。



SK - 17　土層説明

1	暗褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10㎝）、炭化物（径10㎝）を少量含む。赤色粒子（径2～3㎜）を多量に含む。
2	黒褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10㎝）を少量含む。小礫（径20㎝）、赤色粒子（径2～3㎜）を微量に含む。

SK - 18　土層説明

1	暗褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10㎝）を少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒、焼土ブロック（径10㎝）、炭化物（径10㎝）を少量含む。
3	暗褐色土	灰白色粘土ブロック（径10㎝）、焼土ブロック（径10㎝）、炭化物（径10㎝）を少量含む。
4	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。炭化物（径10㎝）を少量含む。
5	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径100㎜）を多量に含む。
6	黄褐色土	ロームブロック（径100㎜以上）を大量に含む。
7	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径100㎜）を多量に含む。炭化物（径10㎝）を少量含む。
8	黄褐色土	ロームブロック（径100㎜以上）を大量に含む。灰白色粘土ブロック（径100㎜）を少量含む。
9	暗褐色土	ロームブロック（径10㎝）、焼土ブロック（径10㎝）、炭化物（径10㎝）を多量に含む。

SK - 19　土層説明

1	暗褐色土	ロームブロック（径10～50㎜）を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径10～50㎜）を少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径50㎜）を微量に含む。
3	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10㎝）を少量含む。

SK - 20　土層説明

1	褐灰色土	ローム粒を多量に含む。白色パミス、焼土ブロック（径20㎝）を少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒を微量に含む。白色パミス、焼土ブロック（径20㎝）を少量含む。
3	暗褐色土	ローム粒を微量に含む。ロームブロック（径10㎝）、白色パミス、焼土ブロック（径20㎝）を少量含む。
4	暗褐色土	ロームを微量に含む。ロームブロック（径10㎝）、焼土粒（径5㎜）、炭化物（径5㎜）を多量に含む。小礫（径10～30㎝）を少量含む。
5	暗褐色土	ローム粒を微量に含む。ロームブロック（径10㎝）を多量に含む。白色パミス、焼土ブロック（径20㎝）、小礫（径10～30㎝）を少量含む。
6	暗褐色土	ローム粒微量に含む。ロームブロック（径10㎝）を多量に含む。焼土粒（径5㎜）、炭化物（径5㎜）、小礫（径10～30㎝）を少量含む。
7	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径50㎝）を少量含む。

SK - 21　土層説明

I	褐灰色土	
1	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径30㎝）を少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径50㎝）を微量に含む。灰白色粘土ブロックを少量含む。
3	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径50㎝）を微量に含む。灰白色粘土ブロックを少量含む。
4	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径50～100㎝）を多量に含む。
5	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径100㎝）を多量に含む。

SK - 22　土層説明

I	褐灰色土	
1	褐灰色土	白色パミス（径1㎜）を少量含む。ローム粒を微量に含む。砂質。
2	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。砂質あり。
3	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径10㎝）を含む。砂質あり。
4	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10㎝）を多量に含む。白色パミス（径1㎜）、炭化物（径5㎜）を微量に含む。
5	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10㎝）を少量含む。

SK - 24　土層説明

I	褐灰色土	
1	暗褐色土	ローム粒を微量に含む。白色パミス、焼土ブロック（径20㎝）を少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒を微量に含む。ロームブロック（径100㎝）を含む。白色パミス、焼土ブロック（径20㎝）を少量含む。
3	暗褐色土	ロームブロック（径10㎝）、焼土（径5㎜）、炭化物（径5㎜）を多量に含む。砂利含む。
4	暗褐色土	ローム粒を微量に含む。ロームブロック（径10㎝）を多量に含む。白色パミス、焼土ブロック（径20㎝）を少量含む。
5	暗褐色土	ロームブロック（径10㎝）を多量に含む。焼土（径5㎜）、炭化物（径5㎜）を少量含む。砂利含む。
6	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径50㎝）を少量含む。
7	暗褐色土	ロームブロック（径10㎝）、焼土（径5㎜）、炭化物（径5㎜）を少量含む。砂利含む。
8	暗褐色土	ロームブロック（径10㎝）、焼土（径5㎜）、炭化物（径5㎜）を少量含む。
9	黒色土	ローム粒を微量に含む。
10	に赤い黄褐色土	灰白色粘土ブロックを多量に含む。

図 37　SK - 17 ～ SK - 22・24

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

所属時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 22（図 37、表 16）

位置：２区西側に位置する。SD - 04、SC - 12 と重複し、SD - 04 より旧く、SC - 12 より新しい。

形状：確認された範囲で、長軸 1.39 m、短軸 0.72 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.46 mを測る。覆土はロームブロックを含む暗褐色土である。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

所属時期：出土遺物と重複関係から中世と考えられる。

SK - 23（図 40、表 16）

位置：２区南西側に位置する。SK - 40 と重複し、本遺構が旧い。

形状：確認された範囲で、長軸 0.90 m、短軸 0.52 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、緩やかな角度で立ち上がる。残存深度 1.09 mを測る。覆土は上層ににぶい黄褐色粘土ブロックと焼土ブロックを含む暗褐色土、下層に灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土である。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

所属時期：覆土の状況と出土遺物から中世と考えられる。

SK - 24（図 37、表 16）

位置：２区南西側に位置する。SC - 11 と重複し、本遺構が新しい。

形状：確認された範囲で、長軸 2.39 m、短軸 0.92 mを測り、楕円形を呈する。

構造：断面は台形で、緩やかに立ち上がる。残存深度 0.40 mを測る。覆土はロームブロックと焼土ブロック、炭化物を含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

所属時期：重複関係と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 25（図 38、表 16）

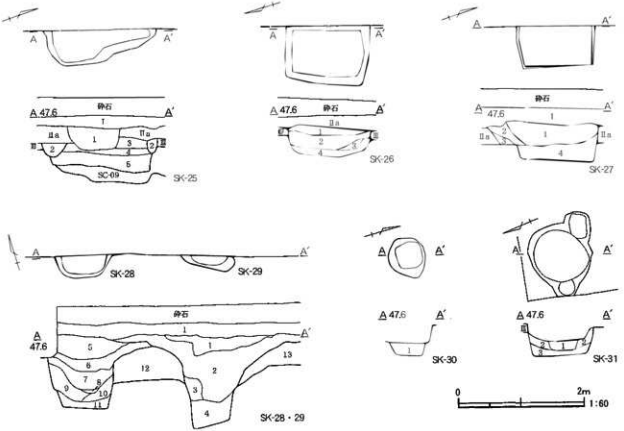
位置：２区北東側に位置する。SC - 09 と重複関係にあり、本遺構が新しい。

形状：確認された範囲で長軸 1.78 m、短軸 0.53 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.52 mを測る。覆土の上層は焼土ブロックと灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土を主体とする。下層は灰白色粘土ブロックを含むにぶい黄褐色土と黄橙色土である。覆土下層は、その堆積状況から重複する SC-09 の覆土の可能性が考えられる。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

時期：出土遺物と重複関係から中世と考えられる。



SK-25　土層説明

Ⅰ　褐灰色土

1	暗褐色土	焼土ブロック（径20㎝）を多量に含む。炭化物（径20㎝）を少量含む。やや砂質。
2	暗褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10～30㎝）を多量に含む。
3	にぶい黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径10㎝）を少量含む。
4	黄橙色粘土	黄橙色粘土ブロック主体。しまり・粘性ともに非常に強い。
5	にぶい黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径10㎝）を多量に含む。

SK-26　土層説明

Ⅰ　褐灰色土

1	暗褐色土	ローム粒、灰白色粘土粒（径5㎝）を含む。砂質。
2	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10㎝）を多量に含む。炭化物を少量含む。
3	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径20～30㎝）を多量に含む。炭化物を少量含む。
4	にぶい黄褐色土	灰白色粘土ブロック（径30㎝）を多量に含む。SC-09覆土。

SK-27　土層説明

Ⅰ　褐灰色土

Ⅱ　暗褐色土

1	暗褐色土	焼土ブロック（径20㎝）を多量に含む。炭化物（径20㎝）を少量含む。やや砂質。
2	暗褐色土	ロームブロック（径10㎝）を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径10㎝）を少量含む。
3	暗褐色土	ローム粒を少量含む。焼土（径2㎝）、炭化物（径10㎝）を微量に含む。
4	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径20㎝）を多量に含む。

SK-28・29　土層説明

Ⅰ　褐灰色土

1	褐灰色土	焼土ブロック（径10～50㎝）、炭化物（径30㎝）を含む。
2	暗褐色土	焼土ブロック（径50～100㎝）、炭化物（50～80㎝）、焼土（径1㎝）を多量に含む。
3	暗褐色土	にぶい黄褐色粘土ブロック（径20㎝）を含む。焼土ブロック（径20㎝）、炭化物（計10㎝）を少量含む。
4	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10～30㎝）、焼土ブロック（径10～30㎝）、炭化物（径10～50㎝）を少量含む。
5	暗褐色土	焼土ブロック（径10～20㎝）、炭化物（径10～100㎝）含む。
6	黄橙色粘土	黄橙色粘土ブロック主体。しまり・粘性ともに非常に強い。
7	褐灰色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10～50㎝）、炭化物（10㎝）、焼土（径3㎝）少量含む。やや砂質。
8	暗褐色土	ローム粒多量に含む。
9	暗褐色土	ロームブロック（径10㎝）を多量に含む。炭化物（径10㎝）、焼土（径1㎝）を少量含む。
10	暗褐色土	ローム粒、灰白色粘土ブロック（径10㎝）を少量含む。炭化物（10㎝）、焼土（径3㎝）を微量に含む。やや砂質。
11	暗褐色土	ローム粒を少量含む。砂質。
12	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。灰白色粘土粒（径1㎝）、焼土ブロック（径20㎝）、炭化物（径10～20㎝）を少量含む。
13	暗褐色土	ローム粒、焼土（径30㎝）を少量含む。

SK-30　土層説明

1	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径2～50㎝）、灰白色粘土ブロックを多量に含む。

SK-31　土層説明

1	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。
2	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10㎝）を多量に含む。やや砂質。
3	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10㎝）を少量含む。やや砂質。

図38　SK-25～SK-31

SK - 26（図 38、表 16）

位置：２区北東側に位置する。SC - 09 と重複し、本遺構が新しい。

形状：確認された範囲で、長軸 1.35 m、短軸 0.90 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.43 mを測る。覆土は上層にロームブロックを含む暗褐色土、下層に灰白色粘土ブロックを含むにぶい黄橙色土である。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

時期：出土遺物と重複関係から中世と考えられる。

SK - 27（図 38、表 16）

位置：２区北東側に位置する。

形状：確認された範囲で、長軸 1.23 m、短軸 0.64 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.54 mを測る。覆土はロームブロックと灰白色粘土ブロック、焼土粒を含む暗褐色土である。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 28（図 38・42、表９・16／写真図版 14・19）

位置：２区南側に位置する。SK - 29、SC - 20 と重複し、SK - 29 より旧く、SC - 20 より新しい。

形状：確認された範囲で、長軸 0.91 m、短軸 0.36 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がり上端は漏斗状に広がる。残存深度 1.13 mを測る。覆土はロームブロック、焼土、灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土で、人為的な埋め戻し跡が窺える。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

時期：出土遺物と重複関係から中世と考えられる。

SK - 29（図 36、表 16／写真図版 14）

位置：２区南側に位置する。SK - 28、SC - 20 と重複し、SK - 28、SC - 20 より新しい。

形状：確認された範囲で、長軸 0.50 m、短軸 0.27 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がり上端は漏斗状を呈する。残存深度 1.47 mを測る。覆土はロームブロックと焼土、灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土で、人為的な埋め戻し跡が窺える。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 30（図 38、表 16）

位置：２区南側に位置する。SC - 20 と重複し、本遺構が新しい。

形状：長径 0.65 m、短径 0.58 mを測り、円形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.29 mを測る。覆土はロームブロックと焼土ブロック、炭化物を含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

時期：重複関係と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 31（図38、表16）

位置：２区北西側に位置する。

形状：確認された範囲で、直径 1.03 mの円形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.42 mを測る。覆土はロームブロックを含むやや砂質の暗褐色土である。覆土中央には柱痕が見られた。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 32（図39、表16）

位置：２区中央やや東側に位置する。

形状：確認された範囲で、長軸 1.21 m、短軸 1.16 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.36 mを測る。覆土はロームブロックと焼土ブロック、灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土である。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 33（図39、表16）

位置：２区北東側に位置する。

形状：確認された範囲で、長軸 1.13 m、短軸 0.54 mを測り、楕円形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.24 mを測る。覆土はロームブロックを含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

時期：覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 34（図39、表16）

位置：２区北東側に位置する。

形状：確認された範囲で、長軸 1.62 m、短軸 1.53 mを測り、楕円形を呈する。

構造：断面は凹字形でほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.46 mを測る。覆土はロームブロックと灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土である。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 35（図39、表16）

位置：２区中央南東側に位置する。

形状：確認された範囲で、長軸 1.15 m、短軸 0.32 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、緩やかに立ち上がる。残存深度 0.31 mを測る。覆土はロームブロックを含む暗褐色土である。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 36（図 39、表 16）

位置：２区中央南西側に位置する。SD - 05 と重複し、本遺構が旧い。

形状：確認された範囲で、長軸 1.44 m、短軸 0.30 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.48 mを測る。覆土はロームブロックと灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土である。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 37（図 39、表 16）

位置：２区中央北東側に位置する。SC - 15 と重複し、本遺構が新しい。

形状：確認された範囲で、長軸 1.09 m、短軸 0.62 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.77 mを測る。覆土はロームブロックと灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土である。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 38（図 39・42、表９・16／写真図版 19）

位置：２区南側に位置する。SD-04 と重複し、本遺構が新しい。

形状：確認された範囲で、長軸 1.40 m、短軸 1.07 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.41 mを測る。覆土はローム粒と焼土、灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土である。

遺物：覆土から中世土器が少量検出された。

時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 39（図 39、表 16）

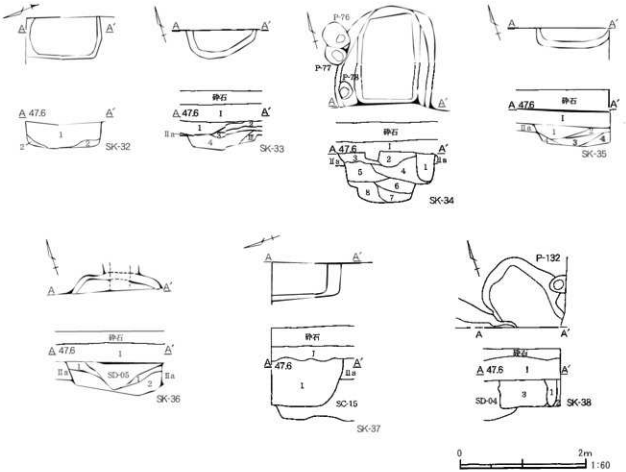
位置：２区中央南西部分に位置する。SD-05、SC-18 と重複し、SD-05、SC-18 より旧い。

形状：確認された範囲で、長軸 1.91 m、短軸 1.05 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、緩やかに立ち上がる。残存深度 0.47 mを測る。覆土はロームブロックとローム粒を含む暗褐色土である。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

時期：出土遺物と覆土の状態から中世と考えられる。



SK - 32　土層説明

1	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径2～50 mm）を多量に含む。焼土ブロック（20～50 mm）、炭化物を少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径2～50 mm）、灰白色粘土ブロックを多量に含む。

SK - 33　土層説明

Ⅰ	褐灰色土	
1	暗褐色土	白色パミス(径1 mm)、焼土ブロック(径10 mm)を少量含む。
2	暗褐色土	焼土ブロック（径10 mm）を多量に含む。白色パミス（径1 mm）を少量含む。
3	暗褐色土	砂利を多く含む。焼土ブロック（径10 mm）、炭化物を多量に含む。
4	暗褐色土	ローム粒、焼土ブロック（径10 mm）、炭化物（径10 mm）を少量含む。

SK - 34　土層説明

Ⅰ	褐灰色土	
1	暗褐色土	焼土ブロック（径5～10 mm）含む。炭化物（径5 mm）を少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒、焼土（径5 mm）、炭化物（径5 mm）を少量含む。
3	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。炭化物（径5 mm）を少量含む。
4	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10～20 mm）を多量に含む。
5	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径30～50 mm）を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径10 mm）、赤色粒子（径2～3 mm）、炭化物（径10 mm）を少量含む。
6	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径10 mm）、灰白色粘土ブロック（径10 mm）、赤色粒子（径2～3 mm）、炭化物（径10 mm）を少量含む。やや砂質。
7	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10～50 mm）、灰白色粘土ブロック、赤色粒子（径2～3 mm）、炭化物を少量含む。やや砂質。
8	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10～50 mm）を少量含む。灰白色粘土ブロック、赤色粒子（径2～3 mm）、炭化物を多量に含む。

SK - 35　土層説明

Ⅰ	褐灰色土	
1	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。黒色粒子（径1～3 mm）、赤色粒子（径2～3 mm）を微量に含む。
2	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック(径10～100mm)を多量に含む。黒色粒子（径1～3 mm）、赤色粒子（径2～3 mm）を少量含む。
3	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径50mm）を少量含む。黒色粒子(径1～3 mm)、赤色粒子(径2～3 mm)を微量に含む。
4	褐色土	ロームブロック(径30～50 mm)を多量に含む。焼土ブロック（径10 mm）、炭化物（径5 mm）を少量含む。

SK - 36　土層説明

1	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10 mm）を多量に含む。
2	暗褐色土	灰白色粘土ブロック（径10 mm）を少量含む。暗褐色土が斑状に混じる。鉄鉱を微量に含む。

SK - 37　土層説明

Ⅰ	褐灰色土	
1	暗褐色土	ロームブロック（径10 mm）、灰白色粘土ブロック（径10 mm）を多量に含む。

SK - 38　土層説明

1	褐灰色土	
1	暗褐色土	ローム粒を微量に含む。焼土を少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒を少量含む。
3	暗褐色土	ローム粒、赤色粒子（径2～3 mm）を少量含む。ロームブロック（径10 mm）、灰白色粘土ブロック（10 mm）を多量に含む。

図39　SK - 32 ～ SK - 38

SK - 40（図 38・40、表 9・16／写真図版 19）

位置：２区南西側に位置する。SC - 12 と重複し、本遺構が新しい。

形状：確認された範囲で、長軸 0.95 m、短軸 0.77 mを測り、楕円形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 1.29 mを測る。覆土はロームブロックを含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

時期：重複関係と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 41（図 38、表 16／写真図版 15）

位置：２区北東側に位置する。SK - 47 と重複し、本遺構が旧い。

形状：確認された範囲で、長軸 4.05 m、短軸 0.95 mの隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.66 mを測る。覆土はロームブロックと小礫を含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

時期：重複関係と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 42（図 38、表 16）

位置：２区中央北東側に位置する。

形状：確認された範囲で、長軸 1.06 m、短軸 0.54 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.54 mを測る。覆土はロームブロックと灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

時期：覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 43（図 38、表 16）

位置：２区南東側に位置する。SC - 20 と重複し、本遺構が新しい。

形状：確認された範囲で、長軸 1.43 m、短軸 0.42 mを測り、楕円形を呈する。

構造：断面は皿形で、なだらかに立ち上がる。残存深度 0.44 mを測る。覆土は焼土ブロックと炭化物、小礫を含む黒褐色土である。

遺物：検出されなかった。

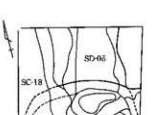
時期：重複関係と覆土の状態から中世と考えられる。

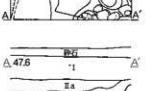
SK - 44（図 39、表 16）

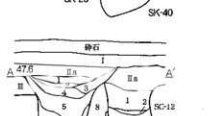
位置：２区南東側に位置する。SC - 20 と重複し、本遺構が新しい。

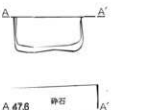
形状：長軸 1.07 m、短軸 0.86 mを測り、不整円形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。西側はテラスをもち緩やかに立ち上がる。残存深









0　2m
1:60

SK - 39　土層説明

Ⅰ　褐灰色土
1　暗褐色土　ローム粒、焼土、炭化物を少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径 30 mm）を少量含む。

SK - 23　土層説明

Ⅰ　褐灰色土
1　暗褐色土　にぶい黄褐色粘土ブロック(径 10 mm)を含む。焼土ブロック（径 10 mm）、炭化物（径 10 ～ 20 mm）を少量含む。
2　にぶい黄褐色土　しまり・粘性ともに非常に強い。
3　暗褐色土　灰白色粘土ブロック(径 10 mm)を少量含む。焼土(径 1 mm)を含む。
4　暗褐色土　ローム粒、灰白色粘土粒（径 1 mm）、焼土（径 1 mm）を微量に含む。
5　暗褐色土　にぶい黄褐色粘土ブロック（径 10 mm）、灰白色粘土ブロック（径 50 mm）、焼土ブロック（径 10 mm）、炭化物（径 10 ～ 20 mm）を少量含む。
6　暗褐色土　灰白色粘土ブロック（径 10 mm）、焼土（径 1 mm）、炭化物を少量含む。
7　暗褐色土　ロームブロック(径 10 mm)を少量含む。灰白色粘土ブロック（径 10 mm）を多量に含む。
8　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。

SK - 40　土層説明

1　暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 30 mm）、灰白色粒（径 0. 1 mm）、焼土ブロック（径 10 mm）を少量含む。
2　暗灰色土　ローム粒を微量に含む。
3　暗褐色土　ローム粒、焼土粒を少量含む。
4　暗褐色土　灰白色粘土ブロック（径 30 mm）、ローム粒を少量含む。
5　暗灰色土　灰白色粘土ブロック（径 10 ～ 20 mm）を多量に含む。

SK - 41　土層説明

1　暗褐色土　ローム粒を少量含む。焼土ブロック(径 10 mm)、炭化物(径 10 mm)、小礫（10 ～ 100 mm）を微量に含む。やや砂質。
2　暗褐色土　ローム粒、ロームブロック（径 10 ～ 50 mm）、小礫（10 ～ 30 mm）を少量含む。焼土ブロック(径 10 mm)、炭化物(径 10 mm）を微量に含む。やや砂質。
3　暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 50 mm）、黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）、赤色粒子（径 2 ～ 3 mm）、小礫（径 10 ～ 30 mm）を少量含む。

SK - 42　土層説明

1　暗灰色土
1　暗褐色土　ロームブロック（径 10 mm）、灰白色粘土ブロック（径 10 mm）を少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。ロームブロック（径 20 ～ 30 mm）を少量含む。
3　暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 100 mm）が主体。黒色粒子（径 1 ～ 3 mm）を少量含む。
4　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。灰白色粘土ブロック（径 10 mm）を少量含む。
5　暗褐色土　ローム粒、ロームブロック（径 10 mm）を多量に含む。

図 40　SK - 23・39 ～ SK - 42

度 0.42 mを測る。覆土はローム粒を含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

時期：重複関係と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 45（図 39、表 16）

位置：２区北東側に位置する。SC - 21 と重複し、本遺構が新しい。

形状：確認された範囲で、長軸 1.24 m、短軸 0.62 mを測り、楕円形を呈する。

構造：断面は凹字形で、垂直に立ち上がる。残存深度 0.67 mを測る。覆土はローム粒とロームブロックを含む暗褐色土である。

遺物：覆土中より中世土器が少量検出されている。

時期：重複関係と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 46（図 39、表 16）

位置：２区北側に位置する。SC - 21 と重複し、本遺構が新しい。

形状：確認された範囲で、長軸 0.95 m、短軸 0.41 mの隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.58 mを測る。覆土は焼土ブロックと白色パミスを含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

時期：重複関係と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 47（図 39、表 16／写真図版 15）

位置：２区北東側に位置する。SK - 41 と重複し、本遺構が旧い。

形状：確認された範囲で、長軸 1.84 m、短軸 1.32 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、ほぼ垂直に立ち上がる。残存深度 0.62 mを測る。覆土はロームブロックと灰白色粘土ブロック、白色パミスを含む暗褐色土である。

遺物：検出されなかった。

時期：重複関係と覆土の状態から中世と考えられる。

SK - 48（図 39、表 16／写真図版 15）

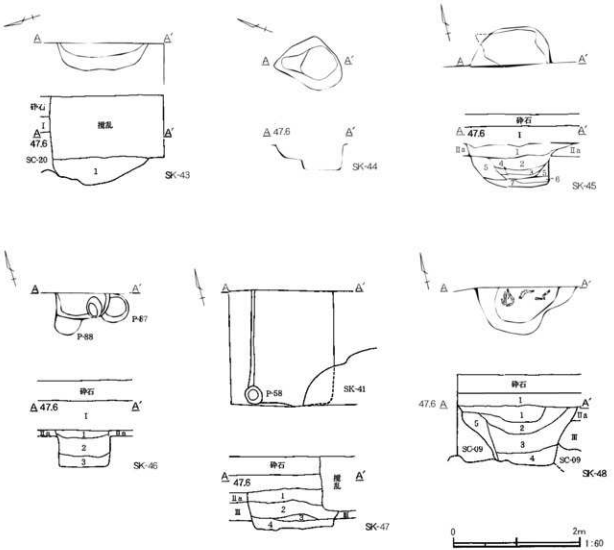
位置：２区北東側に位置する。SC - 09 と重複し、本遺構が新しい。

形状：確認された範囲で、長軸 1.53 m、短軸 0.73 mを測り、隅丸長方形を呈する。

構造：断面は凹字形で、開きながら立ち上がる。残存深度 0.92 mを測る。覆土はロームと焼土、灰白色粘土ブロックを含む暗褐色土である。

遺物：覆土中位から底面にかけて、動物遺存体（ウマと考えられる）の大腿骨及び脛骨・中足骨が検出されている。雌雄や馬齢は不明である。

時期：重複関係と覆土の状態から中世と考えられる。



SK - 43　土層説明

1	黒褐色土	焼土ブロック（径10mm）、炭化物（径10mm）少量含む。 小礫（径10～50mm）を含む。

SK - 45　土層説明

1	褐灰色土	
1	暗褐色土	ローム粒、焼土、炭化物を微量に含む。
2	暗褐色土	ローム粒、焼土ブロック（径10～30mm）、炭化物を含む。
3	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10mm）を少量含む。
4	暗褐色土	ローム粒を少量含む。
5	暗褐色土	ローム粒を少量含む。黒色粒子（径1～3mm）を微量に含む。やや砂質。
6	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10mm）を多量に含む。
7	黒色土	ローム粒、ロームブロック（径10mm）を多量に含む。

SK - 46　土層説明

1	褐灰色土	
1	暗褐色土	白色パミス、焼土ブロック（径10mm）を少量含む。
2	暗褐色土	白色パミス、焼土ブロック（径50mm）を多量に含む。
3	暗褐色土	ローム粒、焼土ブロック（径10mm）、炭化物（径10mm）を少量含む。

SK - 47　土層説明

1	暗褐色土	白色パミスを微量に含む。砂利を少量含む。やや砂質。 小礫（径10mm）を含む。
2	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。
3	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10mm）を多量に含む。
4	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック（径10mm）、灰白色粘土ブロック（径10mm）を多量に含む。

SK - 48　土層説明

1	暗褐色土	焼土ブロック（径10mm）、砂利を含む。
2	暗褐色土	ロームブロック（径10mm）、灰白色粘土ブロック（径10mm）を多量に含む。焼土（径5mm）を少量含む。
3	暗褐色土	ロームブロック（径30mm）、灰白色粘土ブロック（径10mm）、焼土（径5mm）を多量に含む。
4	暗褐色土	灰白色粘土ブロック（径50mm）を多量に含む。焼土ブロック（径10mm）、炭化物（径5mm）を少量含む。
5	暗褐色土	灰白色粘土ブロック（径10mm）、炭化物（径10mm）を少量含む。やや砂質。

図41　SK - 43 ～ SK - 48

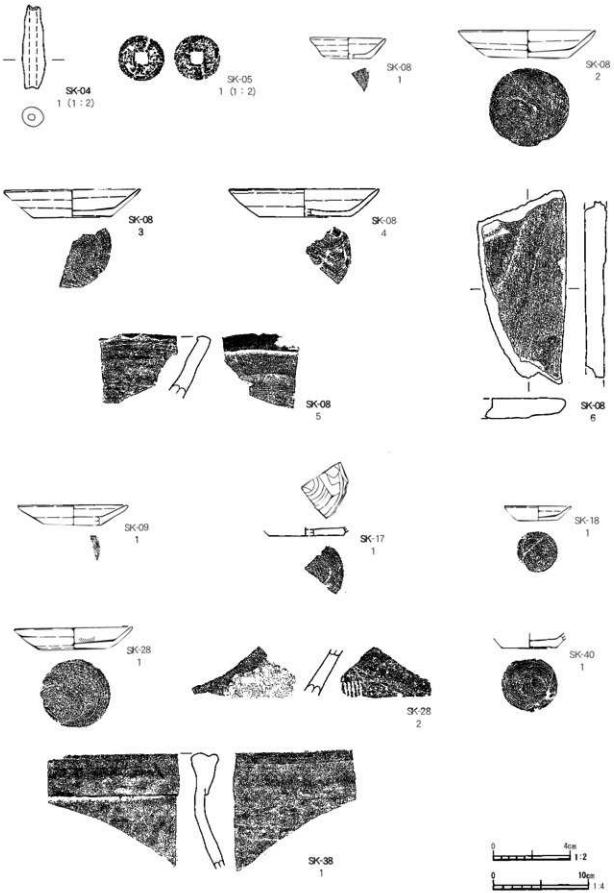

SK-04
1 (1 : 2)
SK-05
1 (1 : 2)
SK-08
1
SK-08
2
SK-08
3
SK-08
4
SK-08
5
SK-08
6
SK-09
1
SK-17
1
SK-18
1
SK-28
1
SK-28
2
SK-40
1
SK-38
1
0
4cm
1:2
0
10cm
1:4

図 42　SK 出土遺物

表９　SK出土遺物観察表

No.	器　種	法量（cm）	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備　考
4－1	土　錘	長さ 4.5　幅 1.2　厚さ 1.0　孔径 0.4　重さ 5.6g				
5－1	銅　銭	径 2.4　厚さ 0.1　孔径 0.6　重さ 2.1g				「元豊通宝」
8－1	中世土器かわらけ	口径（7.9） 底径（4.6） 器高 2.2	体部は直線的に立ち上がる。底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。	チャート・角閃石 内外面－橙色	口縁部～底部1/5残存。
8－2	中世土器かわらけ	口径 14.4 底径 8.4 器高 2.9	体部は直線的に立ち上がる。底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	チャート・角閃石 内外面－橙色	ほぼ完形。
8－3	中世土器かわらけ	口径（14.3） 底径（8.2） 器高 2.9	体部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	角閃石 内外面－橙色	口縁部～底部1/3残存。
8－4	中世土器かわらけ	口径（15.7） 底径（9.7） 器高 2.9	体部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り後に、板状圧痕。見込みに直線的なユビナデ。	角閃石 内外面－橙色	口縁部～底部1/4残存。
8－5	焙烙	口径 － 底径 － 器高 －	体部は直線的に開く。口縁端部が短く内彎する。	体部ロクロ整形。	内外面－灰色	口縁部小片。
8－6	板　碑	表面に印刷。右側面に加工痕。長さ 18.7　幅 8.4　厚さ 2.1　重さ 677.9g				緑泥片岩。
8－7	動物遺存体	重さ 49.2g				貝　殻
9－1	中世土器かわらけ	口径（11.7） 底径（5.9） 器高 2.1	体部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。	片岩 内面－にぶい橙色、外面－橙色	口縁部～底部1/6残存。
17－1	中世土器かわらけ	口径 － 底径（8.0） 器高 －	底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込みに螺旋状ロクロ目・ユビナデ。	チャート 内面－にぶい橙色、外面－橙色	底部 1/4 残存。
18－1	中世土器かわらけ	口径 7.0 底径 4.3 器高 1.6	体部は直線的に立ち上がる。見込み周縁部が窪む。底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。	角閃石 内外面－橙色	ほぼ完形。
28－1	中世土器かわらけ	口径 12.6 底径 7.3 器高 2.3	体部は内彎気味に立ち上がる。見込み周縁部が窪む。底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	片岩・角閃石 内外面－橙色	ほぼ完形。内面にスス付着。
28－2	擂　鉢	口径 － 底径 － 器高 －	体部は直線的に開く。	外面－剥離。内面－櫛目。	角閃石 内面－明赤褐色、外面－橙色	体部小片。
38－1	甕	口径 － 底径 － 器高 －	胴部は大きく膨らむ。口縁部は彎曲し、縁帯が付く。口唇部に凹線。粘土紐積み上げ成形。	外面－ナデ。内面－ナデ、輪積み痕。	多量の石英 内面－明赤褐色、外面－にぶい赤褐色	常滑。口縁部～体部小片。口縁部にスス付着。
40－1	中世土器かわらけ	口径 － 底径 5.7 器高 －	体部は内彎気味に立ち上がる。底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	角閃石 内外面－橙色	底部残存。

（６）ピット（図４・41、表10・17／写真図版20）

本調査区では総計145基を検出した。ピットの分布範囲は１区では北東側に多く、２区では北側に密集している。各ピットは円形、楕円形のものが主体で、一部方形も認められる。規模は長径25～50㎝、短径20～40㎝、残存深度20～50㎝を測り、覆土はA：ロームブロックを含む暗褐色土のもの、B：焼土を含む灰褐色土のものに分類できる。重複関係からBを含むピットがAを含むピットより新しい。このため少なくとも２時期にわたってピット群が形成されたと考えられる。柱痕が認められるピットは数基検出したが、柱列が組めるものは確認されなかった。遺物は、P－56、58、86、89、96～98、100、104からかわらけ片や銅（北宋）銭が出土しており、P－67からは板碑に使用される緑泥片岩が出土している。P－98出土の銅銭は紹聖元宝で初鋳1094年である。出土遺物と覆土の状態から、帰属時期はすべて中世以降と考えられる。

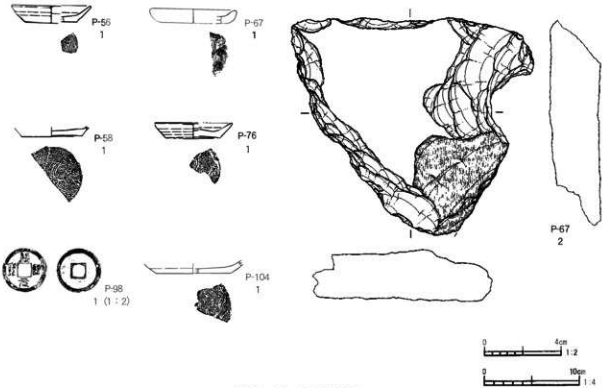


図 43　ピット出土遺物

表 10　ピット出土遺物観察表

No.	器　種	法量（cm）	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備　考
56 －1	中世土器 かわらけ	口径 (8.4) 底径 (5.6) 器高 2.8	体部は内彎気味に立ち上がる。底部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。	雲母・角閃石 内面－橙色、外面－にぶい褐色	口縁部～底部1/6 残存。
58 －1	中世土器 かわらけ	口径　－ 底径　－ 器高 6.0	見込み周縁部が窪む。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	角閃石 内面－橙色、外面－にぶい黄橙色	底部 1/2 残存。
67 －1	中世土器 かわらけ	口径 (9.2) 底径 (7.0) 器高 1.4	体部は内彎して立ち上がる。	体部ロクロ整形。	角閃石 内外面－明赤褐色	口縁部～底部1/5 残存。
67 －2	板　碑	長さ 25.0　幅 23.0　厚さ 5.0　重さ 3,500.0g				緑泥片岩。
76 －1	中世土器 かわらけ	口径 (8.2) 底径 (5.6) 器高 1.6	体部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。	雲母・角閃石 内外面－橙色	口縁部～底部1/5 残存。
98 －1	銅　銭	径 2.4　厚さ 0.1　孔径 0.6　重さ 2.5g				「紹聖通宝」か
104 －1	中世土器 かわらけ	口径　－ 底径 (8.0) 器高　－	体部は内彎気味に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。	片岩 内外面－橙色	体部下半～底部 1/6 残存。

4　遺構外出土遺物（図 42、表 11／写真図版 20・21）

本調査区では、遺構内出土遺物のほかに遺構外からも遺物が検出されている。また遺構内からの出土ではあるが、遺構の所属時期と大きく異なる遺構埋没の際に流入したものと思われるものも同様にここで扱った。出土した遺物は中世以降の遺物が大半を占めており、特に１区において多くみられた。１～４は縄紋土器である。１は半截竹管状工具で沈線を引いた後、沈線間に連続爪形文を施している。２～４は縄紋時代中期である。５～７は土師器片で、５は外反する口縁部、６・７は高坏の脚部である。古墳時代のものと思われる。８は埴輪片である。これらは近隣に赤坂埴輪窯や古墳群が存在する事からその関係性が窺われる。９～12 は中世以降の遺物で、９は土鍋の一部、10 は焙烙、11 は常滑焼の甕である。12 は砥石、13 は球状を呈する石製品で、小型の五輪塔の水輪と考えられる。

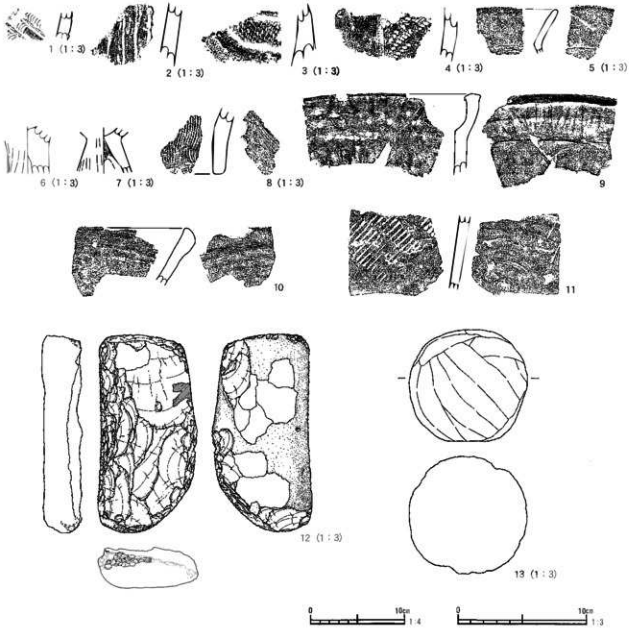


図 44　遺構外出土遺物

表 11　遺構外出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	縄紋土器 深鉢	口径 － 底径 － 器高 －	口縁部が内彎する。粘土紐積み上げ成形。	外面－平截竹管状工具による沈線を斜位に施紋後、連続爪形文。内面－ナデ。	角閃石 内面－にぶい黄橙色、外面－褐色	SC－01 出土。有尾式。口縁部小片。
2	縄紋土器 深鉢	口径 － 底径 － 器高 －	体部は直線的に立ち上がる。粘土紐積み上げ成形。	外面－単沈線による楽線を縦位に施紋。内面－ナデ。	片岩・角閃石 内面－褐色、外面－にぶい黄橙色	SC－08 出土。体部小片。
3	縄紋土器 深鉢	口径 － 底径 － 器高 －	口縁部が内彎する。粘土紐積み上げ成形。	外面－隆帯で楕円状に区画。区画内に R の無節縄文を横位施紋後、区画脇に凹線を配す。内面－ナデ。	片岩・角閃石 内面－明褐色、外面－にぶい褐色	SD－02 出土。口縁部小片。
4	縄紋土器 深鉢	口径 － 底径 － 器高 －	体部は彎曲気味に立ち上がる。粘土紐積み上げ成形。	外面－単沈線で縦位に区画。区画内に RLR 複節縄紋を縦位充填。内面－ナデ。	片岩・角閃石 内面－にぶい赤褐色、外面－黄灰色	SK－08 出土。体部小片。
5	土師器 甕	口径 － 底径 － 器高 －	頸部で屈曲し、口縁部は外傾する。粘土紐積み上げ成形。	内外面－ヨコナデ、赤彩痕。	チャート・角閃石 外面－橙色	SD－03 出土。口縁部小片。

6	土師器 高　坏	口径 － 底径 － 器高 －	脚部上半は直線的に立ち上がる。	外面－脚部ナデ。	チャート・角閃石 内面－黄橙色、外面－にぶい橙色	SD－01出土。脚部小片。
7	土師器 高　坏	口径 － 底径 － 器高 －	脚部下半に膨らみをもつ。	外面－脚部ナデ。内面－脚部絞り目後、ナデ。	片岩・角閃石 内外面－明赤褐色	SD－01出土。脚部小片。
8	埴　輪	口径 － 底径 … 器高 －	基底部がやや外反する。粘土紐積み上げ成形。	外面－下端ヨコハケ後、タテハケ。内面－ナデ。底面－圧痕。	片岩・角閃石 内外面－明赤褐色	SD－03出土。基底部小片。
9	土　鍋	口径 － 底径 － 器高 －	体部は直線的に立ち上がり、口縁部が内彎する。口縁端部が短く内彎する。	体部ロクロ整形。外面－工具痕。	片岩・雲母・角閃石 内外面－橙色	2区出土。口縁部～体部小片。
10	焙烙	口径 － 底径 － 器高 －	口縁部・体部は直線的に開く。口縁部が肥厚する。	体部ロクロ整形。	チャート 内外面－暗灰黄色	1区出土。口縁部～体部小片。
11	甕	口径 － 底径 － 器高 －	体部は彎曲気味に立ち上がる。粘土紐積み上げ成形。	外面－タタキ目。内面－ナデ。輪積み痕。	内面－暗灰黄色、外面－灰黄褐色	常滑。1区出土。体部小片。
12	石　器 砥　石	石面、左面下半・上面の一部に直接打撃による剥離。下面に磨痕。長さ15.4　幅7.5　厚さ3.0　重さ533.1g				2区出土。頁岩。
13	石製品	加工痕。長さ9.0　幅9.2　厚さ9.3　重さ465.6g				1区出土。角閃石安山岩。

表 12　SC 計測表

遺構名	平面形	規模（m）			備　考
		最大幅（上面）	短径	深さ	
SC－01	－	5.05	4.90	1.00	
SC－02	楕円形	2.20	2.45	1.14	
SC－03	－	11.40	11.40	0.88	SK－06に切られる。
SC－04	－	2.15	2.00	0.92	
SC－05	－	7.21	9.00	0.96	
SC－06	－	4.68	5.40	0.76	SD－03、SK－08に切られる。
SC－07	－	6.33	7.86	0.63	SD－01に切られる。
SC－08	－	7.80	7.88	0.77	SD－01に切られる。
SC－09	－	6.36	6.40	0.53	SK－25・26・34・48に切られる。
SC－10	－	13.86	13.56	0.78	
SC－11	－	6.40	6.20	1.03	
SC－12	楕円形か	13.60	14.00	0.90	SC－18と同一の可能性。SK－20・21・22・24・40に切られる。
SC－13	－	[2.00]	[2.00]	0.96	
SC－14	－	[2.00]	[2.00]	0.90	
SC－15	－	[2.00]	[2.00]	0.96	SK－42に切られる。
SC－16	－	5.29	4.73	1.05	
SC－17	－	[5.40]	4.15	1.15	
SC－18	－	－	15.10	1.11	SC－12と同一の可能性。
SC－19	－	3.40	3.48	0.96	
SC－20	－	8.20	8.00	0.82	SK－44・45に切られる。
SC－21	－	4.58	4.60	0.95	SK－45・46・47に切られる。

表 13　SF 計測表

遺構名	平面形	規模（m）			備　考
		長径	短径	深さ	
SF－01	隅丸長方形	4.00	[0.60]	0.28	1区。
SF－02	隅丸長方形	3.84	0.64	0.90	2区。

表 14　SD 計測表

遺構名	平面形	規模（m）				備　考
		長径	短径	深さ	方位	
SD－01	－	[30.37]	0.48	0.40	N－78°－E	1区。SK－07に切られ、SC－07・08を切る。
SD－02	－	[14.45]	－	0.20	N－8°－E	1区。SK－09に切られる。
SD－03	－	6.75	1.55	0.34	N－10°－E	1区。SC－06を切る。
SD－04	－	－	1.05	0.78	N－27°－E	2区。SD－05を切る。
SD－05	－	－	0.74	0.43	N－75°－E	2区。SD－04に切られる。

表 15　SW 計測表

遺構名	平面形	規模（m）			備　考
		長径	短径	深さ	
SW－01	楕円形	1.12	1.05	[2.00]	1区。

表 16　SK 計測表

遺構名	平面形	規模 (m) 長径	短径	深さ	備考
SK - 01	隅丸長方形	1.58	0.28	0.54	1区。
SK - 02	円形	0.68	0.35	0.63	1区。P - 04 に切られる。
SK - 03	円形	1.18	1.08	0.82	1区。P - 43 に切られる。
SK - 04	隅丸長方形	1.95	[0.68]	0.65	1区。P - 12 に切られる。
SK - 05	隅丸長方形	1.27	1.04	1.20	1区。
SK - 06	円形	0.98	0.80	0.37	1区。SC - 03 を切る。
SK - 07	楕円形	0.75	0.66	0.16	1区。SD - 01 を切る。
SK - 08	楕円形	2.73	2.54	0.36	1区。SC - 06 を切る。
SK - 09	隅丸長方形	[0.95]	0.95	0.28	1区。SD - 02 を切る。
SK - 10	円形か	0.80	0.36	0.18	1区。
SK - 11	円形か	0.78	[0.43]	0.17	1区。
SK - 12	隅丸長方形か	[12.5]	[12.1]	0.17	1区。
SK - 13	隅丸長方形か	[0.90]	[0.63]	0.66	1区。
SK - 14	楕円形	[1.09]	[0.36]	0.30	1区。
SK - 15	不整円形	[1.62]	[1.13]	0.90	1区。粘土採掘坑か。
SK - 16	円形	0.66	0.60	0.23	1区。
SK - 17	円形か	1.13	[0.59]	0.20	1区。
SK - 18	隅丸長方形	1.35	[1.00]	0.73	2区。
SK - 19	隅丸長方形	1.28	0.65	0.37	2区。
SK - 20	楕円形	0.93	0.76	0.48	2区。SC - 12 を切る。
SK - 21	楕円形か	[1.20]	0.41	0.78	2区。SC - 12 を切る。
SK - 22	隅丸長方形	[1.39]	0.72	0.46	2区。SD - 04 に切られ、SC - 12 を切る。
SK - 23	隅丸長方形	0.90	[0.52]	1.09	2区。
SK - 24	楕円形か	[2.39]	[0.92]	0.40	2区。SC - 12 を切る。
SK - 25	隅丸長方形	[1.78]	[0.53]	0.52	2区。SC - 09 を切る。
SK - 26	隅丸長方形か	1.35	[0.90]	0.43	2区。SC - 09 を切る。
SK - 27	隅丸長方形か	1.23	[0.64]	0.54	2区。
SK - 28	隅丸長方形か	0.91	[0.36]	1.13	2区。SK - 29 に切られる。
SK - 29	隅丸長方形か	[0.50]	[0.27]	1.47	2区。SK - 28 を切る。
SK - 30	円形	0.65	0.58	0.29	2区。SC - 10 を切る。
SK - 31	円形	1.03	1.03	0.42	2区。
SK - 32	隅丸長方形	[1.21]	[1.16]	0.38	2区。
SK - 33	楕円形	[1.13]	[0.54]	0.24	2区。
SK - 34	楕円形	[1.62]	1.53	0.60	2区。SC - 09 を切る。
SK - 35	隅丸長方形か	[1.15]	[0.32]	0.31	2区。
SK - 36	楕円形か	[1.44]	[0.30]	0.48	2区。SD - 05 に切られる。
SK - 37	隅丸長方形	[1.09]	[0.62]	0.77	2区。SC - 15 を切る。
SK - 38	隅丸長方形	[1.40]	1.07	0.41	2区。SD - 04 を切る。
SK - 39	楕円形か	[1.91]	[1.05]	0.47	2区。SD - 05、SC - 18 を切る。
SK - 40	楕円形	[0.95]	0.77	1.29	2区。SC - 12 を切る。
SK - 41	隅丸長方形	4.05	[0.95]	0.66	2区。SK - 47 を切る。
SK - 42	隅丸長方形	1.06	[0.54]	0.54	2区。SC - 15 を切る。
SK - 43	楕円形か	[1.43]	[0.42]	0.44	2区。SC - 20 を切る。
SK - 44	不整円形	1.07	0.86	0.42	2区。SC - 20 を切る。
SK - 45	楕円形か	1.24	[0.62]	0.67	2区。SC - 21 を切る。
SK - 46	隅丸長方形か	[0.95]	[0.41]	0.58	2区。SC - 21 を切る。
SK - 47	隅丸長方形	[1.84]	1.32	0.62	2区。SK - 41 に切られる。
SK - 48	不整円形	1.53	[0.73]	0.92	2区。SC - 09 を切る。

表 17　ピット計測表

遺構名	平面形	規模 (m) 長径	短径	深さ	備考
P-01	楕円形	0.30	0.28	0.16	1区。
P-02	楕円形	0.26	0.20	0.17	1区。
P-03	楕円形	0.30	0.26	0.39	1区。
P-04	楕円形	0.43	0.25	0.37	1区。
P-05	楕円形	0.36	[0.20]	0.37	1区。
P-06	楕円形	0.36	0.33	0.34	1区。
P-07	円形	0.22	0.22	0.14	1区。
P-08	楕円形	0.46	0.36	0.16	1区。
P-09	円形	0.37	0.35	0.28	1区。
P-10	楕円形	0.46	0.37	0.26	1区。
P-11	円形	0.27	0.25	0.18	1区。
P-12	方形	0.30	[0.17]	0.04	1区。
P-13	円形	0.33	0.33	0.18	1区。
P-14	円形	0.55	0.47	0.27	1区。
P-15	楕円形	0.42	0.32	0.22	1区。
P-16	楕円形	0.25	0.24	0.09	1区。
P-17	楕円形	0.30	0.24	0.24	1区。
P-18	長方形	0.50	0.30	0.27	1区。
P-19	方形	0.44	0.44	0.20	1区。
P-20	長方形	0.42	0.42	0.21	1区。
P-21	方形	0.41	0.39	0.22	1区。
P-22	円形	0.32	0.30	0.13	1区。
P-23	円形	0.37	0.32	0.14	1区。
P-24	楕円形	0.38	0.31	0.29	1区。

P-25	円形	0.38	0.32	0.26	1区。
P-26	不整形	0.34	0.31	0.14	1区。
P-27	不整形	0.46	[0.44]	0.32	1区。
P-28	楕円形	0.26	0.21	0.22	1区。
P-29	円形	0.56	[0.39]	0.23	1区。
P-30	方形	0.37	[0.25]	0.19	1区。
P-31	方形	0.60	0.35	0.39	1区。
P-32	楕円形	0.70	0.40	0.36	1区。
P-33	円形	0.26	0.26	0.28	1区。
P-34	楕円形	0.44	0.32	0.28	1区。
P-35	長方形	0.45	0.24	0.32	1区。
P-36	楕円形	0.45	0.37	0.05	1区。
P-37	円形	0.38	0.34	0.27	1区。
P-38	円形	0.25	0.24	0.61	1区。
P-39	円形	0.25	0.25	0.13	1区。
P-40	円形	0.23	0.23	0.15	1区。
P-41	円形	0.25	0.23	0.38	1区。
P-42	円形	0.27	0.21	0.22	1区。
P-43	長方形	0.53	[0.30]	0.40	1区。
P-44	楕円形	0.27	0.25	0.50	1区。
P-45	円形	0.40	0.34	0.22	1区。
P-46	方形	0.24	0.20	0.26	1区。
P-47	方形	0.35	[0.32]	0.37	1区。
P-48	円形	0.34	0.34	0.30	1区。
P-49	方形	0.30	0.26	0.09	1区。
P-50	円形	0.31	0.28	0.23	1区。
P-51	円形	0.25	0.25	0.28	1区。
P-52	不整形	0.62	0.56	0.15	1区。
P-53	円形	0.25	0.25	0.29	1区。
P-54	円形	0.27	0.27	0.15	2区。
P-55	円形	0.46	0.46	0.22	2区。
P-56	方形	0.34	0.34	0.31	2区。中世土器出土。
P-57	円形	0.40	0.33	0.12	2区。
P-58	楕円形	0.62	0.50	0.23	2区。中世土器出土。
P-59	円形	0.30	0.30	0.20	2区。
P-60	円形	0.30	0.28	0.27	2区。
P-61	円形	0.18	0.18	0.06	2区。
P-62	円形	0.30	0.26	0.23	2区。
P-63	円形	0.33	0.29	0.32	2区。
P-64	方形	0.96	0.35	0.04	2区。
P-65	円形	0.34	[0.18]	0.60	2区。
P-66	楕円形	0.30	0.25	0.22	2区。
P-67	円形	0.30	0.24	0.80	2区。中世土器出土。
P-68	円形	0.32	0.32	0.27	2区。
P-69	円形	0.42	[0.18]	0.27	2区。
P-70	楕円形	0.51	0.32	0.61	2区。
P-71	楕円形	0.42	0.42	0.49	2区。
P-72	円形	0.28	0.25	0.30	2区。
P-73	楕円形	0.42	[0.25]	0.40	2区。
P-74	円形	0.24	0.23	0.33	2区。
P-75	楕円形	0.31	0.25	0.17	2区。
P-76	楕円形	0.45	0.37	0.32	2区。
P-77	楕円形	0.35	0.26	0.18	2区。
P-78	楕円形	0.30	0.22	0.45	2区。
P-79	楕円形	0.45	0.36	0.15	2区。
P-80	楕円形	0.34	0.23	0.18	2区。
P-81	楕円形	0.50	0.44	0.18	2区。
P-82	楕円形	0.38	0.33	0.20	2区。
P-83	楕円形	0.46	0.36	0.20	2区。
P-84	方形	0.27	0.24	0.55	2区。
P-85	楕円形	0.37	0.28	0.28	2区。
P-86	方形	0.30	0.25	0.46	2区。
P-87	楕円形	0.35	0.25	0.57	2区。
P-88	楕円形	0.50	0.31	0.43	2区。
P-89	楕円形	0.42	0.31	0.50	2区。 中世陶器片出土。
P-90	楕円形	0.34	0.24	0.17	2区。
P-91	楕円形	0.40	0.32	0.34	2区。
P-92	方形	0.22	0.21	0.10	2区。
P-93	方形	0.39	0.23	0.51	2区。
P-94	楕円形	0.46	0.34	0.17	2区。
P-95	円形	0.29	[0.25]	0.21	2区。
P-96	楕円形	0.40	0.27	0.59	2区。 かわらけ片出土。
P-97	楕円形	0.32	0.30	0.21	2区。 かわらけ片出土。
P-98	楕円形	0.47	0.36	0.49	2区。紹聖元宝出土。
P-99	円形	0.32	0.29	0.30	2区。
P-100	方形	0.62	0.40	0.26	2区。
P-101	円形	0.39	0.37	0.18	2区。
P-102	楕円形	0.27	0.22	0.09	2区。
P-103	楕円形	0.32	0.30	0.17	2区。
P-104	楕円形	0.49	0.34	0.57	2区。 かわらけ片出土。
P-105	楕円形	0.44	0.41	0.30	2区。
P-106	方形	0.35	0.35	0.25	2区。
P-107	不整形	0.47	0.32	0.32	2区。
P-108	楕円形	0.48	0.27	0.40	2区。
P-109	方形	0.27	0.25	0.50	2区。
P-110	方形	0.22	0.22	0.45	2区。
P-111	円形	0.36	0.30	0.38	2区。
P-112	楕円形	0.30	0.23	0.25	2区。
P-113	方形	0.40	[0.24]	0.12	2区。
P-114	方形	0.33	0.23	0.13	2区。
P-115	楕円形	0.30	0.25	0.40	2区。
P-116	円形	0.27	0.27	0.20	2区。
P-117	楕円形	0.29	0.25	0.30	2区。
P-118	方形	[0.30]	[0.30]	0.26	2区。
P-119	円形	0.34	0.30	0.32	2区。
P-120	楕円形	0.50	[0.45]	0.34	2区。
P-121	楕円形	0.47	0.26	0.43	2区。
P-122	円形	0.35	0.30	0.16	2区。
P-123	楕円形	0.24	0.20	0.13	2区。
P-124	楕円形	0.21	0.16	0.06	2区。
P-125	楕円形	0.25	0.23	0.13	2区。
P-126	円形	0.16	0.14	0.08	2区。
P-127	楕円形	0.30	0.22	0.10	2区。
P-128	円形	0.30	0.26	0.05	2区。
P-129	円形	0.20	[0.08]	0.07	2区。
P-130	楕円形	0.24	0.21	0.07	2区。
P-131	方形	0.33	0.30	0.44	2区。
P-132	楕円形	0.29	[0.26]	0.48	2区。
P-133	円形	0.57	[0.25]	0.33	2区。
P-134	円形	0.43	0.40	0.17	2区。
P-135	楕円形	0.43	0.31	0.20	2区。
P-136	円形	0.22	0.20	0.25	2区。
P-137	楕円形	0.23	0.21	0.27	2区。
P-138	円形	0.28	0.28	0.17	2区。
P-139	円形	0.34	0.34	0.12	2区。
P-140	円形	0.22	0.19	0.15	2区。
P-141	円形	0.16	0.14	0.14	2区。
P-142	円形	0.26	0.21	0.11	2区。
P-143	円形	0.25	0.20	0.10	2区。
P-144	円形	0.24	0.19	0.14	2区。
P-145	円形	0.30	0.25	0.29	2区。

V　SD-01 出土の動物遺存体について

宮崎　重男

SD - 01 出土の動物遺存体は一部欠損はあるが、上顎臼歯、下顎臼歯とも全部揃っている。切歯も数本保存されている。犬歯は検出されていない。臼歯は上顎、下顎とも歯列の順序に並んでおり、下顎骨の保存状態は良く、臼歯が植立した状態で出土した。上顎骨の保存状態は悪く、破片あるいは粉状になっている。これ以外の頭蓋骨はほとんど保存されていない。また、肢骨・胴骨は確認されていない。したがって頭蓋骨だけ持ちこまれた可能性も考えられる。

歯冠高から判断して馬齢は 12 歳ほどであるが、左下顎第一後臼歯の咬合面に異常があり、上顎側へ三角形状に尖っていて、それと咬合する上顎第一後臼歯がその分だけ凹んでいる。

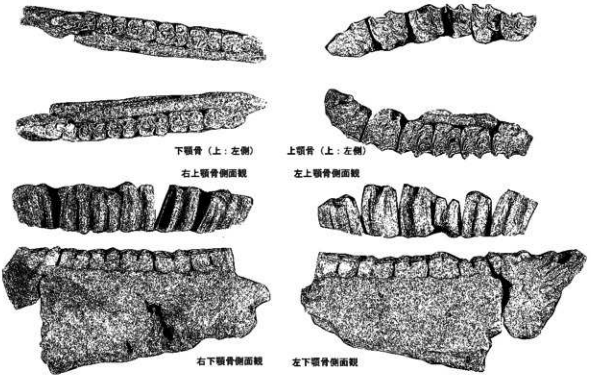
犬歯の存在が確認されず、本来なかったか土中に埋存以降消失したものか不明だが、雌の可能性が高い。

歯列の長さや下顎骨の大きさなどから、中型在来馬相当の大きさの馬と推定される。

表 18　SD - 01 出土動物遺存体計測表

出土位置	時期	出土状態	部位			P2	P3	P4	M1	M2	M3	摘要
SD - 01	中世以降か	覆土中層で検出され、正位の状態で確認される。	上顎骨	歯冠長		37.3	27.8	27.3	21.5	23.7	28.9	右
				歯冠幅		21.2	26.5	26.8	25.0	25.8	22.4	
				咬滑幅		-	9.4	8.8	10.9	11.6	13.0	
				歯冠高	頬側	20.2	33.5	33.1	25.0	33.2	33.0	
					舌側	19.5	31.7	33.0	-	28.6	24.2	
				中附滑幅		4.0	5.0	4.7	3.7	4.0	4.0	
				上顎歯列長（咬合面）		168.0						
			下顎骨	歯冠長		32.8	27.8	25.8	23.5	23.6	33.5	R
				歯冠幅	前葉	11.4	15.2	15.4	13.1	12.5	11.7	
					後葉	14.7	15.0	15.0	15.0	11.6	16.4	
				歯冠高	下後滑谷長	7.1	10.1	9.3	7.1	7.0	8.2	
					下内滑谷長	15.0	11.7	10.0	7.5	7.4	12.0	
				double knot　長		15.1	16.5	15.4	12.2	11.5	12.3	
				下内滑幅		6.6	6.4	5.5	3.1	4.2	-	
				下顎厚		32.6	25.6	24.8	24.8	25.8	-	
				下顎高（頬側）			67.0	72.3	73.4	79.3	-	
				下顎歯列長	咬合面	166.4						
					歯槽面	172.8						

（計測単位は mm）



附写真　SD-01 出土馬骨（スケールは全て 1/3）

Ⅵ　まとめ

今回の調査で検出した粘土採掘坑と中世遺構についての成果と課題を以下に記し、まとめとしたい。

（1）粘土採掘坑について

規模

粘土採掘坑は今回の調査で21基確認された。しかしながら、SC - 12とSC - 18のように同一の採掘坑として捉えられるものもある。規模は最小で径2m程度で概ね径6～7mの不整形を呈すると推定される。これは一度に採掘する期間あるいは必要とする採掘量がおおよそ決まっていた可能性を示している。

粘土採掘方法

粘土採掘方法は本文中に示したように、次のような手順をとる。①竪穴状に目的の粘土層まで掘り下げ、採掘する。②粘土を掘り出した後、壁際の同じ粘土を水平方向に抉るように採掘する。③人力で届く限界範囲まで掘り進めたのち、上部のローム層等を崩し拡張する。④採掘し終えた部分に排土を捨て埋め戻していく。②～④を繰り返しながら、必要とする粘土量を採取していく。この工程を1度で終える竪穴状の採掘坑もあるが（SC - 02、図45 - 1)、本遺跡においては②～④を繰り返しており、採掘坑の壁際には②の形跡が多く認められる。SC - 03やSC - 05、06等では特に②の工程が顕著で、採掘坑の壁際がオーバーハングし、なおかつ孤状の掘り方が連続する。この連続する孤状の掘り込みは人足一人の作業範囲、つまり採掘の最小単位として考えられ、採掘は数人が同時に作業を行っていたものと想定することができる。その作業の反復は帯状の掘り方として残り、SC - 01やSC - 06（図9、12、写真図版7上段)、図45 - 2のように顕著な段を形成するようになる。主目的とする粘土を採掘した結果、こうした掘り方が形成されると思われる。拡張を繰り返しながら採掘する過程で隣接する採掘坑同士がつながったり、採掘方向が偏って進むと最終的な採掘坑の形態は不整形を呈するものもみられる（図45 - 3)。

分布範囲

粘土採掘坑群の分布範囲は、本調査区では北西側に偏在し、2区ではそのほとんどを占めるが、1区の東側では粘土採掘坑が検出されていない。この事から採掘坑群は1区で収束しその東端をなすものと思われる。さらに広範囲で見ると赤坂墳輪窯を挟んで北側に位置する東五十子城跡遺跡（2004年調査）では粘土採掘坑と推定される大型の土坑が検出されている。北側の妻沼低地との境である段丘崖に位置することを考慮すると、これを北端と見ることができる。さらに西側に位置する東五十子赤坂遺跡においては、不明土坑ながら底面が灰白色粘土層まで到達する長径が2mを超す大型土坑が検出されており、遺跡西側へさらに広がっている。これを粘土採掘坑と捉えれば、本遺跡を東端とする粘土採掘坑群が西北方向へ広範囲にわたって形成されていると見てよいだろう。その規模は南北150m、東西350mにも及ぶ。断続して存在している可能性もあるが、その範囲内で採掘活動が行われていたと考えられる。

採掘時期

粘土採掘坑群の古墳時代という帰属時期はSC - 20の底面付近から出土した土師器甕の口縁部と丸底胴部下半を根拠としている。今回の採掘坑から出土した土師器甕は5世紀代（和泉式期）に比定さ

れる。東五十子城跡遺跡（昭和31・36年調査）の10号住居跡においては同時期の遺物が出土している。粘土採掘坑では群馬県伊勢崎市波志江中宿遺跡や同県甘楽郡甘楽町白倉下原・天引向原遺跡のように多くの土師器や木製品が出土している遺跡があるが、これらと比較すると木製品の出土はなく相対的に遺物の出土が非常に貧弱である。これをもって、明確な採掘時期を推し量ることは難しいため、今後の更なる調査と周辺に位置する遺跡との対比により判断しなければならない。

採掘した粘土の用途

良質の粘土は土器やカマド構築材、壁材などに使用されるが、今回の調査ではその用途については判明しなかった。また、遺構外からは埴輪片が数点出土しており、埴輪製作も想定される。ただ、これほど大掛かりな採掘坑であることから、大量生産を目的とした採掘である事は確かなようである。

赤坂埴輪窯との関係と問題

埴輪窯を考える上で重要なのは窯跡の存在と埴輪製作のための工房、そして素材を調達する粘土採掘坑である。市内には宥勝寺裏埴輪窯や八幡山窯、周辺では美里町字佐久保埴輪窯といった窯跡が存在している。これらはすべて6世紀代には操業していたとされる。本遺跡に隣接する赤坂埴輪窯も出

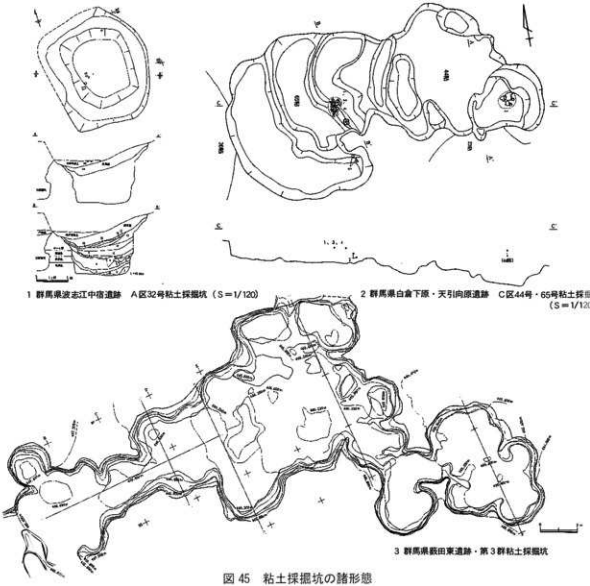


図45　粘土採掘坑の諸形態

土した切妻造の家形埴輪からその操業時期の一端を6世紀後葉段階に置いており、同時期にあたる。赤坂埴輪窯は調査は行われたものの詳細については未報告で、焼土や出土埴輪が確認されているが窯の実在は明らかになっておらず、また工房も検出されていない。埴輪窯として位置づけるための要素に乏しい状態である。こうした中、今回の調査で規模の大きな粘土採掘坑群が明らかになった。この粘土採掘坑群は先述したように5世紀代の所産と考えられ、赤坂埴輪窯とは若干の時期差が見られるが、これは窯の操業期間を考えるうえでの良い手掛かりとなり得よう。さらに、埴輪を生産する窯とその材料を得るための粘土採掘坑という密接な関係を捉えるきっかけにもなると考えられる。今後、実際に窯跡と考えられる部分の調査を行うこと、または本遺跡の粘土と赤坂埴輪窯で製作されたとする埴輪を理化学分析を行い比較することで、その関係がより明白になってくるであろう。

（2）中世の遺構について

本遺跡名である「北町中」は、城下町あるいは陣を構えた兵士の居住跡とされている。調査の制約があったが、五十子陣が造営されていた時期にあたる遺構が多数検出され、その一端を垣間見ることができた。遺構は主に1区北東側と2区に集中しており、特に2区の方が密である。多数のピット群は多くの掘立柱建物跡を想定させるが、その規模や形状を明確に窺い知ることはできなかった。遺構分布の偏りと希薄な部分との対比は、実態が不明である五十子陣の建造物の配置を考える手掛かりとなりえるものである。帰属時期は不明ながら1区西側を縦断するSD－01は、五十子城と居住域を明確にする区画として機能していたと捉えられるのではないであろうか。東五十子城跡遺跡で検出されている南北方向の溝との相互関係は注目したい。

出土したかわらけには器高が低く、口径が大きく逆ハの字に開く体部と底外面に板状圧痕が付くのを特徴とするものが見られる（SD－02－３・４、SD－03－５・６など）。これらは山内上杉氏に関連する遺物とされ、本地域では15世紀後半から16世紀初めまでの実年代が与えられている。まさに五十子陣が造営している時期と重なる。今回出土したかわらけの口径はそれぞれ8㎝、12㎝、14㎝前後が基本であり、生産時において明確に規格が存在していたようである。このかわらけは京都の淡褐色系白カワラケの系統をひくものとして想定されており、活発な人の往来が指摘されている。また、SD－02や03出土のかわらけのように入為的に側面を折り欠いたものも見受けられた。饗宴の後の儀礼的・慣習的な行為、祭祀行為といった二次的な行為によるものと考えられるが、この行為の意味についてはさらなる検討を要するため今後の課題としたい。

今回の調査が実態不明のままの五十子陣の全貌を追求する上での一資料となる事を願い、まとめとしたい。

[引用及び主要参考文献]
本庄市　1976『本庄市史　資料編』
原　雅信　1982『蓑田東遺跡　国道291号街路改良工事地域埋蔵文化財発掘調査報告書』
木村　収・藤巻幸男　1997『自倉下原・天引向原遺跡Ⅳ　関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書』
熊谷　健　2001『波志江中宿遺跡　北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査報告書』
中世を歩く会　2002『在地土器検討会　―北武蔵のカワラケ―　記録集』
東五十子遺跡調査会　2002『東五十子・川原町　児玉都市広域市町村圏組合小山川グリーンセンター・湯かっこ建設工事開発発掘調査報告』
中東　耕志　2004「古代群馬の粘土採掘坑－波志江中宿遺跡を巡って－」『研究紀要22』　師群馬県埋蔵文化財調査事業団
本庄市教育委員会　2003『宥勝寺裏埴輪窯跡・宥勝寺北裏　本庄新都心土地計画整理事業に伴う遺跡範囲確認調査報告書』
本庄市遺跡調査会　2004『東五十子城跡遺跡　株式会社エヌ・ティ・ティドコモ移動通信用鉄塔建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
本庄市遺跡調査会　2004『東五十子赤坂遺跡　ヤマト運輸株式会社貨物集配施設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

写 真 図 版

東五十子北町中遺跡の位置と周辺の地形（国土地理院、2000 年 10 月撮影）

写真図版２

１区全景

１区東側全景

1区北側全景

1区西側全景

1区南側全景

写真図版4

2区全景

2区北側全景

2区南側全景

2区西側全景

2区北東側全景

写真図版8

SC-11

SC-20

SC-20 遺物出土状況

SC-21

SF-01

SF-02

写真図版10

SF-02 遺物出土状況

SD-01

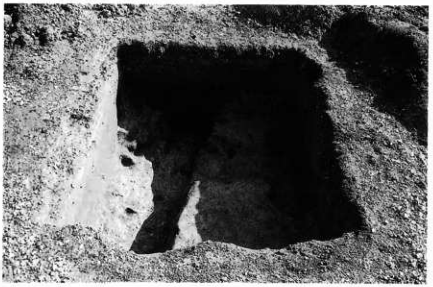
SD-01 馬骨出土状況

SD-02・03・SK-08

SD-02 硬化面

SD-04（左）・SK-22（右）

写真図版12



SD-04・05

SW-01

SK-03

SK-04

SK-07

SK-08

SK-18

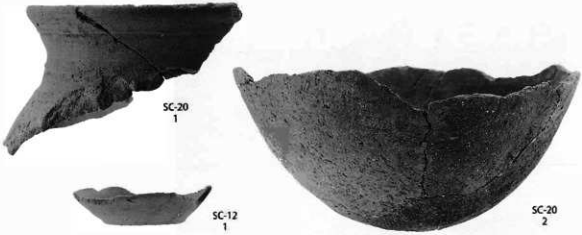
SK-19

SK-28（左）・29（右）

SK-41

SK-48

SK-48 獣骨出土状況



SC 出土遺物

SF-01 出土遺物

SF-02 出土遺物

1

2

3

SD-01 出土遺物

1

2

4

3

7

5

6

SD-02 出土遺物

1

2

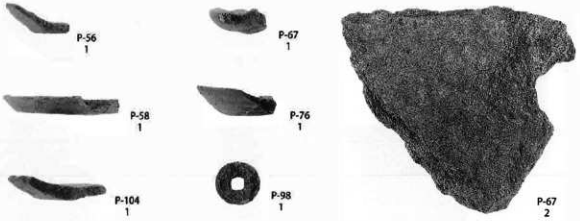
3

4

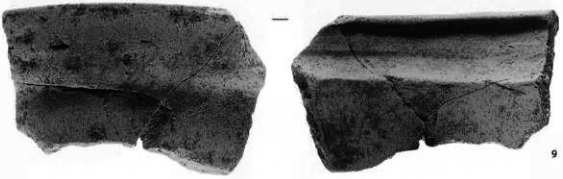
5

6

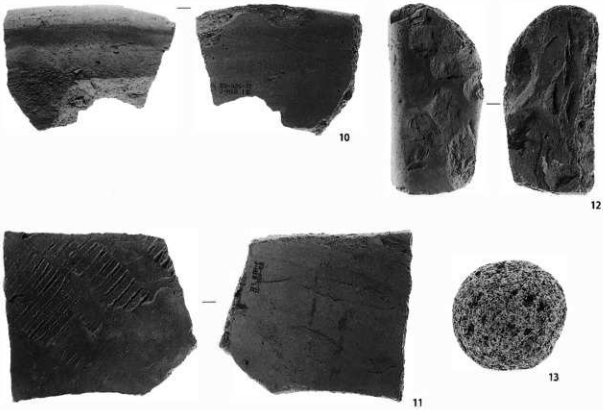
SD-03 出土遺物（1）



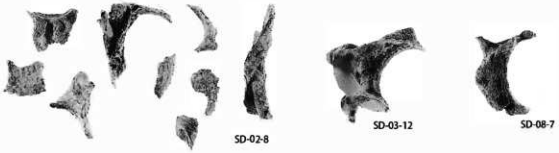
ピット出土遺物



遺構外出土遺物（1）



遺構外出土遺物（2）



動物遺存体

報告書抄録

ふりがな	ひがしいかっこきたまちなかいせき
書　名	東五十子北町中遺跡
副書名	タツムテクノロジー株式会社工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	
シリーズ名	本庄市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第８集
編著者名	宮田忠洋
編集機関	本庄市教育委員会
所在地	〒367-8501　埼玉県本庄市本庄３丁目５番３号　℡ 0495 - 25 - 1186
発行年月日	西暦 2008（平成 20）年３月 31 日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
東五十子北町中（ひがしいかっこきたまちなかいせき）遺跡	埼玉県本庄市（さいたまけんほんじょうし）東五十子（ひがしいかっこ）字北町中（あざきたまちなか）744 番地	53	036	36° 13′ 41″	139° 12′ 53″	20061003 ～ 20061215	652.6 ㎡	タツムテクノロジー株式会社工場建設に伴う緊急発掘調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東五十子北町中遺跡	粘土採掘坑群 陣跡	古墳時代 中世	粘土採掘坑 21 基 方形竪穴状遺構２基 溝５条　井戸１基 土坑 48 基 ピット 145 基	縄紋土器、土師器、かわらけ、陶器、銅製品、鉄製品、板碑、馬骨、貝殻	

本庄市埋蔵文化財調査報告書　第８集

東五十子北町中遺跡

タツムテクノロジー株式会社工場建設に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

平成20年3月24日　印刷
平成20年3月31日　発行

発行／本庄市教育委員会
〒367-8501　埼玉県本庄市本庄３丁目５番３号
電話　0495 - 25 - 1186

印刷／朝日印刷工業株式会社